

岐阜県文化財保護センター

調査報告書 第162集

# 岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書

## 第 5 分 冊

(飛騨圏域)

2023

岐阜県文化財保護センター

ぎ ふ けん こ だい ちゅう せい じ いん あと そう ごう ちょう さ ほう こく しょ  
岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書

第 5 分 冊  
(飛驒圏域)

2023

岐阜県文化財保護センター



## 第 5 分 冊 目 次

### 第 6 章 飛騨圏域の寺院

第 1 節 飛騨圏域の概要	1
第 2 節 寺院一覧表	3
第 3 節 寺院地形観察図、遺構図、地籍図	19
参考文献	
第 4 節 寺院分布図	81
第 5 節 飛騨圏域のまとめ	200

## 挿図目次

図 1 飛騨國城市町村区域図	1	図 26 殿坂口遺跡	57
図 2 製糸山千光寺（千光寺跡） 地形観察図	21	図 27 杉崎魔寺跡 全体図	59
図 3 大平山安国寺（安国寺魔寺） 地形観察図	23	図 28 杉崎魔寺跡 主要遺構図	59
図 4 清峯寺旧境内（清峰寺跡）	25	図 29 西ヶ洞魔寺跡 全体図	61
図 5 横河山安寧寺（横河山安寧寺跡） 地形観察図	27	図 30 西ヶ洞魔寺跡 主要遺構図	61
図 6 光寿庵跡・光寿庵土門城館跡類似遺構 地形観察図	29	図 31 林泉寺旧境内 地形観察図	63
図 7 黒心庵（石原遺跡）・ピクニ屋敷跡 地形観察図	32	図 32 要仲山玉龍寺 地形観察図（1）	65
図 8 松生山来迎寺（来迎寺跡） 地形観察図	34	図 33 要仲山玉龍寺 地形観察図（2）	66
図 9 邵照寺（吉野朝時代の伝説地・寺屋敷跡） 地形観察図	36	図 34 要仲山玉龍寺 地形観察図（3）	67
図 10 飛騨国分尼寺跡平面図	39	図 35 阿弥陀寺旧境内 地形観察図	69
図 11 飛騨国分寺跡平面図	39	図 36 凤慈尾山大威徳寺（大威徳寺跡） 地形観察図	71
図 12 国分寺跡・国分尼寺跡周辺の小字図と一町 方格線図	39	図 37 大威徳寺跡 トレーンチ設定図	72
図 13 石橋魔寺跡 I 地区遺構実測図	41	図 38 大威徳寺跡 主要遺構図	72
図 14 石橋魔寺跡と光寿庵跡の配置図	41	図 39 大威徳寺跡 関連位置図	73
図 15 三仏寺魔寺跡平面図	43	図 40 蓬光寺旧境内 地形観察図	75
図 16 三仏寺魔寺跡金堂平面プラン検討図	43	図 41 加須良山蓮受寺（蓮受寺境内跡） 地形観察図	77
図 17 日焼遺跡礎石建物	45	図 42 分布図（A7 利賀）	82・83
図 18 日焼遺跡礎石建物周辺の主要遺構及び仏堂 に関わる遺物	45	図 43 分布図（A8 猪谷）	84・85
図 19 三枝城跡関連遺構の配置	47	図 44 分布図（A9 東茂住）	86・87
図 20 三枝城跡 山林寺院跡の検出地点	47	図 45 分布図（A10 有峰湖）	88・89
図 21 寿楽寺旧境内（寿楽寺魔寺跡） 地形観察図（1）	49	図 46 分布図（A11 葉師岳）	90・91
図 22 寿楽寺旧境内（寿楽寺魔寺跡） 地形観察図（2）	50	図 47 分布図（B5 西赤尾）	92・93
図 23 寿楽寺魔寺跡 D地区遺構配置図	51	図 48 分布図（B6 上梨）	94・95
図 24 竹林山華藏寺 地形観察図	53	図 49 分布図（B7 白木峰）	96・97
図 25 城見寺（城見寺城跡） 地形観察図	55	図 50 分布図（B8 打保）	98・99
		図 51 分布図（B9 鹿間）	100・101
		図 52 分布図（B10 下之本）	102・103
		図 53 分布図（B11 三俣蓮華岳）	104・105
		図 54 分布図（B12 槍ヶ岳）	106・107
		図 55 分布図（C5 中宮温泉）	108・109
		図 56 分布図（C6 塙谷）	110・111
		図 57 分布図（C7 角川）	112・113

図 58	分布図 (C8 林) .....	114・115
図 59	分布図 (C9 船津) .....	116・117
図 60	分布図 (C10 長倉) .....	118・119
図 61	分布図 (C11 笠ヶ岳) .....	120・121
図 62	分布図 (C12 穂高岳) .....	122・123
図 63	分布図 (D5 新岩間温泉) .....	124・125
図 64	分布図 (D6 平瀬) .....	126・127
図 65	分布図 (D7 猪臥山) .....	128・129
図 66	分布図 (D8 飛驒古川) .....	130・131
図 67	分布図 (D9 町方) .....	132・133
図 68	分布図 (D10 旗鉾) .....	134・135
図 69	分布図 (D11 烧岳) .....	136・137
図 70	分布図 (E5 白山) .....	138・139
図 71	分布図 (E6 御母衣) .....	140・141
図 72	分布図 (E7 夏厩) .....	142・143
図 73	分布図 (E8 三日町) .....	144・145
図 74	分布図 (E9 高山) .....	146・147
図 75	分布図 (E10 飛驒青屋) .....	148・149
図 76	分布図 (E11 乗鞍岳) .....	150・151
図 77	分布図 (F5 二ノ峰) .....	152・153
図 78	分布図 (F6 新削) .....	154・155
図 79	分布図 (F7 六厩) .....	156・157
図 80	分布図 (F8 位山) .....	158・159
図 81	分布図 (F9 久々野) .....	160・161
図 82	分布図 (F10 朝日貯水池) .....	162・163
図 83	分布図 (F11 野麦) .....	164・165
図 84	分布図 (G6 大鷲) .....	166・167
図 85	分布図 (G7 飛驒大原) .....	168・169
図 86	分布図 (G8 山之口) .....	170・171
図 87	分布図 (G9 飛驒小坂) .....	172・173
図 88	分布図 (G10 胡桃島) .....	174・175
図 89	分布図 (G11 木曾西野) .....	176・177
図 90	分布図 (H7 二間手) .....	178・179
図 91	分布図 (H8 萩原) .....	180・181
図 92	分布図 (H9 渕屋) .....	182・183
図 93	分布図 (H10 御嶽山) .....	184・185
図 94	分布図 (I8 下呂) .....	186・187
図 95	分布図 (I9 宮地) .....	188・189
図 96	分布図 (J7 津) .....	190・191
図 97	分布図 (J8 焼石) .....	192・193
図 98	分布図 (J9 小和知) .....	194・195
図 99	分布図 (K7 上之保) .....	196・197
図 100	分布図 (K8 金山) .....	198・199
図 101	飛驒圏域地形断面図 (1) .....	209
図 102	飛驒圏域地形断面図 (2) .....	210
図 103	飛驒圏域古代寺院創建時代別分布図 .....	211
図 104	飛驒国分寺周辺古代寺院分布図 .....	212
図 105	飛驒圏域の主な中世寺院分布図 .....	213
図 106	飛驒圏域地形観察図模式図 (1) .....	214
図 107	飛驒圏域地形観察図模式図 (2) .....	215

## 表目次

表 1	高山市寺院一覧表 (1) .....	4
表 2	高山市寺院一覧表 (2) .....	5
表 3	高山市寺院一覧表 (3) .....	6
表 4	高山市寺院一覧表 (4) .....	7
表 5	高山市寺院一覧表 (5) .....	8
表 6	高山市寺院一覧表 (6) .....	9
表 7	高山市参考寺院一覧表 (1) .....	9
表 8	高山市参考寺院一覧表 (2) .....	10
表 9	飛驒市寺院一覧表 (1) .....	10
表 10	飛驒市寺院一覧表 (2) .....	11
表 11	飛驒市寺院一覧表 (3) .....	12
表 12	飛驒市寺院一覧表 (4) .....	13
表 13	飛驒市参考寺院一覧表 (1) .....	13
表 14	飛驒市参考寺院一覧表 (2) .....	14
表 15	下呂市寺院一覧表 (1) .....	14
表 16	下呂市寺院一覧表 (2) .....	15
表 17	下呂市寺院一覧表 (3) .....	16
表 18	下呂市参考寺院一覧表 (1) .....	16
表 19	下呂市参考寺院一覧表 (2) .....	17
表 20	白川村寺院一覧表 .....	17

表 21 白川村参考寺院一覧表	17	表 23 時期別の成立数等	208
表 22 寺院の成立状況	208	表 24 時期別の立地数	209

## 第6章 飛騨圏域の寺院

### 第1節 飛騨圏域の概要

飛騨圏域は岐阜県の北部、飛騨地方と範囲を一にし、福井県・石川県・富山県・長野県に接する。構成する市村は、高山市・飛騨市・下呂市・大野郡白川村の3市1村であり、その面積は4,177.99km<sup>2</sup>で、これは岐阜県全体の39.3%を占める。

飛騨圏域の西側には、岐阜県と富山県、石川県、福井県の県境となる両白山地のうち白山（標高2,702m）を主峰とした加越山地が連なっている。飛騨圏域の中央に位置する位山は飛騨北部と飛騨南部の境界で位山分水嶺がある。位山付近を水源とする神通川水系の神通川及び宮川、両白山地に近い庄川水系の庄川は、いずれも飛騨圏域を北流して最後は富山湾に至る。飛騨圏域の東側には長野県境の飛騨山脈があり、標高3,000m級の槍ヶ岳（標高3,180m）、奥穂高岳（標高3,190m）、乗鞍岳（標高3,026m）、御嶽山（標高3,067m）などが連なる。山地・山脈で閉まれた飛騨圏域の大部分は標高1,500m前後の飛騨高地であり、平地はわずかではあるが、宮川によって形成された標高500~600m程の高山盆地や古川国府盆地などがある。古代以降、飛騨圏域は律令制において飛騨国とされ、東山道飛騨支路や越中街道などが南北を通過した。特に古代には高山盆地に飛騨国府や飛騨国分寺・国分尼寺、飛騨国一宮である水無神社などが設置され、飛騨国の政治の中心地であった。

今回の調査では、飛騨圏域において322か寺の寺院を調査対象とし、そのうち210か寺の古代・中世寺院を確認した。

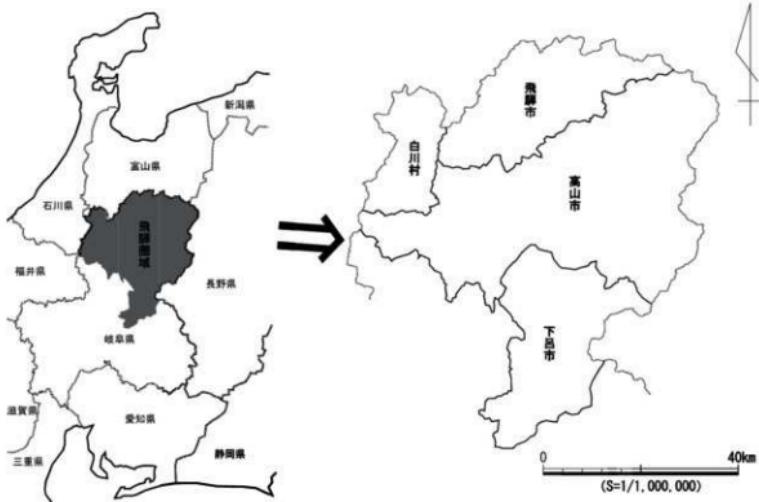


図1 飛騨圏域市村区域図



第 2 節 寺 院 一 覧 表

## 4 第6章 飛騨圏域の寺院

表1 高山市寺院一覧表(1)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在地(田都名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査略歴	分布図	
1	03001	国	國分寺 (飛騨國分寺 跡)	能町 (大野郡)	伝天平年間	真言宗	本文参照	本文参照	37	E9	
2	03003	敦盛山 光寺	丹生川町下 村 (大野郡)	不明		真言宗	本文参照			E9	
3	03003b	光寺旧境内 (光寺跡)	上岡本町 (大野郡)	古代					20	E8	
4	03005	神護山 清傳寺	江名子町 (大野郡)	大正9年	真言宗	天平神護元(765年泰澄)により加賀國白山の靈に成立。永享5 (1433年)成文化詩と加賀に開闢。富山城成立に伴って富山長 納町に移転。明治治(1892年)本山山腹焼失木、大正9(1920年)現 在地へ移転。	本文参照				
5	03007	集雲山 聖泉寺	千島町 (大野郡)	天正以前	真言宗	成立時期不明。古く山上有祠があった。天正年間(その中でも 1579~1593)能町主三谷綱内興。三木氏の没落後廃絶した が、延宝5(1677年)に村民によって寺を建立し別殿を設け、集 雲山聖泉寺と号す。	三				
6	03009	神明山 天照寺	天性寺町 (大野郡)	不明	天台宗→ 浄土宗	天台宗→ 浄土宗	古永年間(1120~1240)西山密院により古瀬谷を留美子間に天守宮 天守堂寺として。元和年間(1615~24)能町が再建。能町が天守寺 に改称し留美子。明暦3(1657年)若しくは(7月)天守性に改称する が、昭和17(1942年)天守寺に改称。代々神明神社の別当を勤め る。旧跡付近で石碑の一部を確認。転宗及び移転時期不明。				
7	03010	屏雲院	愛宕町 (大野郡)	慶長14年	浄土宗	慶長19(1614年)華尊により成立以後、船原不詳。100余年荒廃に 陥り、明治22(1889)年に住職松下潤雲再興。				E9	
8	03011	普莊院 萩林山 大雄寺	愛宕町 (大野郡)	天正14年		西山証空院により成立。天正14(1586)年證空を中瀬圓山とし、金 森長近が寺領の道場を受けて吉城郡・広瀬から金沢山大雄寺 を高山に移転し萩林山に改称。旧跡は現在在地であるが、北側 に平庭跡がある。				E9	
9	03011b	大雄寺旧境内 (大雄寺跡)	国民町字広 瀬 (吉城郡)		浄土宗				20	E9	
10	03013	雪峰山 躰久寺	大新町 (大野郡)	不明	真宗	延喜元(907年)平治の尼尼義平の菩提を弔う為に円通が草創を 祝ひ、井戸に雪峰寺御堂碑が建立。その後小倉芦谷に転化。 元祐2(1107年)荒原寺に改称。					
11	03015	明林山 神通寺	名田町 (大野郡)	中世か	真宗	成立時期不明。真宗の林谷の寺宇地蔵院・大野郡明林の明神御堂 地に遷座を立(白川村2010a)。天正8(1570)年其之跡とす。そ の後、1701年崇光寺成(崇光院)へ移り、さらに山市有楽町 に再移転。明治12(1879年)神通寺に改称。現在地への移転時期 は昭和2(1927年)と推定。					
12	03016	曾祖山 觀光寺	下岡本町 (大野郡)	天文21年	真宗	天文21(1562年)觀空により成立。当初は真言宗であったが、第 二見願吉が富山市守名寺へ往て弟子となり、淨土真宗に転向。 慶安2(1649年)現寺号を得る。				E8	
13	03018	鹿苑山 秋声寺	八日町 (大野郡)	文明18年	真宗	文明18(1466年)慶空(松岡四郎五郎)が秋声道場を開設。天和2 (1682)年現寺号を得る。				E8	
14	03019	朝陽山 東等寺	牛頭町 (大野郡)	永正11年若 しくは弘治元年	真宗	永正11(1514年)淨空により成立。延享3(1766)年の『飛騨國中 家業』では弘治元(1505)年開基としている。				E8	
15	03020	大樹山 念寺	清見町三ツ 谷 (大野郡)	延宝4年	真宗	文龜元(1501年)延宝4(1501)より、白川照應寺門徒として三ツ谷宇島 に道場を開設。延宝4(1501)年豪農による本堂に遷り、現在 地に移転。					
16	03021	稻谷山 長林寺	清見町大 (大野郡)	文明3年	真宗	文明3(1471年)延寶(俗名又方能門)が稻谷道場を開設。開基に は詳の空寂をいただき自らは二代目として法燈を繼いだ。				G7	
17	03022	名生山 弘智寺	清見町上小 島 (大野郡)	明応4年	真宗	明応4(1495年)1904年延喜(郡上町)の檀頭であった名生七郎 源内直彦が、菩提を感じ毘盧菩薩の御顕を受けて本願寺九世 實如に歸依。法名を教智と改め、道場を開設。				E7	
18	03023	經華山 通入寺	石浦町 (大野郡)	文明4年若 しくは明応 年間	真宗	明応年間(1492~1501)石浦町に成立。開基は美濃郡上郡乗空。 「経華院」では、文明2(1470年)尊超による開基。				E9	
19	03025	一尋山 常光寺	久々野町有 道 (大野郡)	永正8年	真宗	空空により延喜寺に改めた。初め道場は草庵を併んでいたが、 永正8(1511年)実如により二編を算尊として開基。昭和 37(1962)年遷座開基して廃寺。					
20	03026	鷹森山 遊淨寺	庄川町寺河 戸 (大野郡)	永禄9年	真宗	延江國主伊吹石久之丞唯義の子徳寿が文明3(1481)年薦加の 弟子となり延喜寺に移り、数ヶ村に道場を開設。天文16(1547) 年白山大火のため延喜寺へ移転。永禄9(1566)年河戸へ帰る。 真草3(1566)年寺号を得る。				E6	
21	03027	東平山 宝嚴寺	庄川町新瀬 (大野郡)	文龜2年か	真宗	もと天台宗の寺院跡であったといい、当寺成立は文龜2(1502) 年説有。十九世義詮の時法灯が船え以降20年間隠住のまま過ぎ たが、1903年善光寺(郡上町)前住が宝嚴寺を續く。				E6	
22	03028	進幽山 淨念寺	庄川町墨谷 (大野郡)	文明年間	真宗	文明年間(1469~87)孫右衛門が越前國の蓮如を尊びて弟子とな り、黒谷の道場を開設(孫右衛門道場)。享保3(1718)年、進幽 山淨念寺と称す。				E6	
23	03029	明光山 了宗寺	庄川町六瓶 (大野郡)	文龜2年頃	真宗	七右衛門により道場開設。寺宝方便法身尊像裏には文龜2 (1502)年の記載。六瓶には1904年延喜寺(郡上町)の末寺や宿坊が 建てられたが合宗院とあったが、長藏寺改築後延喜寺の台頭によ り、当地は延喜寺門徒に一致した。				F7	

表2 高山市寺院一覧表(2)

番号	寺院 番号	史跡 名	山(里)号 所在地 (山町名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、構造 調査 結果	分布図
24	3633	松生寺	山田町 (大野郡)	永正18年頃	真宗	本尊薬師如来正15(1516)年ある。蓮如の高弟で03063柳谷寺の開基善宗により、天和4(1682)年照應寺門として了心寺に改称。	E9	
25	03035	高山別院 光耀山 照應寺	鉄砲町 (大野郡)	天正16年	真宗	文永6(1269)年創立後は白川村鳩谷に成立し、その後同村坂口(03035)→永正元(1504)年移川村中野(現御岳衣ダム地区内)へ移転し、光耀山照應寺と改称。天文16(1588)年金森長近により高木城下へ移転。	E9	
26	03036	光耀山 照應寺	鶴鳴町 (大野郡)	昭和38年	真宗	白川村から往川村中野に移された光耀山照應寺は、天文16(1588)年高木城下に移された(03035)が、移転後も中野には本堂と開基後の大堂が残り03035遷座寺の掛合として存続し、こちらも照應寺と公称(中野照應寺とも)。昭和36(1961)年御岳衣ダム建設に伴い、現在地に移転。	E9	
27	03037	西御山 福成寺	山田町 (大野郡)	大永3年	真宗	大永3(1523)年百濟又兵衛(法名文酒)が一字を冠し開基。第5代法師のとき、元禄3(1690)年福成寺に改称。その後享保年間(1718~36)に福成寺に改称した。	E8	
28	03038	無化山 隨縁寺	上切町 (大野郡)	明應6年	真宗	明應6(1497)年了忍寺により成立。延宝1(1673)年復寺号を得る。	D8	
29	03040	七寶山 淨音寺	塙垣内町 (大野郡)	文祿4年	真宗	文祿4(1595)年鍋島直茂安房守家の弟の「男左近」(山名佐用)が、黒薙寺移転後の堂宇に入り五名の間に法円坊を開設。現寺号を得た時期不明。現在の本堂は文政4(1823)年に再建。	E6	
30	03041	光明山 了泉寺	秋田町 (大野郡)	永享10年	真宗	永享10(1438)年北条氏時四代の孫安時親風。大野郡安川村に一字を冠し、天文2(1470)年遷より寺号を得る。	E9	
31	03042	宝樹山 圓通寺	塙垣内町 (大野郡)	延徳4年	真宗	延徳4(1492)年白川村横雲城主の家臣中林顯子の子兼資(法名淨安)が八賀賤(に)草庵寺へ建て延通寺とする。天文7(1539)年兵火で焼失。延徳4年移転。30年後再び現在地に移転。寺号改称。時期は不明。	E9	
32	03043	森本山 淨覺寺	山田町 (大野郡)	延享元年	真宗	文明天1(1486)年森本九郎左衛門(法名善慶)により山田に九郎左衛門道場開設。正徳4(1714)年淨覺寺と称す。延享元(1740)年現在地に移転。		
33	03044	白龍山 常照寺	朝日町青屋 (益田郡)	文龜2年以 前	真宗	往古、眞言宗として岩船小僧(法名了西)一宇を創建した。文龜2(1502)年津守寺領に転じて通場開設(道場兼四部)。正徳4年(1714)寺号を得る。	E10	
34	03045	愚林山 正覚寺	朝日町一ノ 宿(益田郡)	慶長14年	真宗	慶長14(1609)年正心が道場開設。享保10(1725)年寺号を得る。	F10	
35	03046	日觀山 長瀬寺	朝日町小谷 (益田郡)	長徳元年	天台宗 真宗	長徳元(996)年小谷長安が源信の法弟となり天台入門し道場開設。法名龍觀。長瀬寺、長谷寺とさせ、10世270年余繼續。後に無住。文政7(1827)年高田沖興寺落成が墓室坊を尋ね再興し、淨土真言へ転じ。	E9	
36	03047	觀嚴山 宝應寺	朝日町立石 (益田郡)	大永3年	真宗	平城主甲斐守が高橋に移し、宗林坊明秀と号し、大永3(1523)年道場を開設。	E9	
37	03048	松岡山 西惠寺	下之切町 (大野郡)	文明5年	真宗	文明5(1473)年其右衛門(法名慶廣)により道場開設。三世慶豈は天文5(1566)年に本堂を建立。	E8	
38	03049	金泥山 玄興寺	岡本町 (大野郡)	文明5年以 前	天台宗 真宗	文明5(1473)年深見村に東本願寺派として成立。また、吉古村大野守の子吉古守が寺を創したが、文明9(1477)年淨土真言に転じたとの説もある。初め福勝寺と称したが元和5(1619)年に魔守寺を得る。	G, II E8	
39	03050	南隱山 顯生寺	岡本町 (大野郡)	永正11年	真宗	永正11(1514)年顯如により下岡本村に本願寺成立。天文17(1559)年現在地に移転。貞享3(1686)年本尊及び顯生寺の寺号を得る。	E8	
40	03051	大悲山 慈林寺	清見町栗野 保原 (大野郡)	明応7年以 前	真宗	体四郎(法名正道)は、吉嶋に薬を防ねて教化を受け、六字名号双輪を賜り、帰つて道場慈林寺を成立。明応7(1498)年実如から本尊尊像及び六字名号を得る。	F7	
41	03052	大倉山 圓成寺	清見町坂下 (大野郡)	室町時代中 期	真宗	室町時代前期、那須郡会(法名善萬)が、本願寺実如から本尊一軸を下附され、道場を開設。延宝3(1675)年寺号を得る。	E8	
42	03053	松栄山 真運寺	鉄砲町 (大野郡)	永正17年以 前	真宗	那羅寺八幡明照の長男敏信により成立。永正17(1520)年実如に面識して寺跡と寺号を贈寺を得る。慶長5(1600)年還蓮寺と共に高木に移転。移転元不詳。	E9	
43	03055	鉢巣山 聖念寺	清見町栗野 (大野郡)	文龜4年	真宗	文龜4(1504)年明照が実如に依頼して美濃国那羅郡小原ノ里(下呂市)に一宇を創設。西世は惡の時現在地へ移転。	E9	
44	03056	大原山 圓通寺	大門町 (大野郡)	明治41年	真宗	文明18(1466)年空谷が美濃國那羅郡(下呂市)に創設。中興の行者が照蓮寺境内東側(03056)に移転。天和2(1682)年本尊と寺号を得る。明治41(1908)年現在地に移転。		
45	03056b	圓通寺(境内)	鉄砲町 (大野郡)	不明				
46	03057	芦原山 曉芳寺	下の町 (大野郡)	慶長5年	真宗	開基は舎利路寺の實官宮川是重。応永飛魔の乱で敗死した尹藏の遺命により白川川に入り出家し是の坊と号す。慶長5(1600)年高田に移転。元禄3(1690)年寺号を得る。	E9	
47	03058	法林山 圓通寺	清見町夏庭 (大野郡)	長享3年	真宗	火除具御が古崎で蓮如の化導をうけ大門寺(法名智覺)となり、方便法身の戒形を受けて稱號し。長享3(1489)年この地に道場開設。以降200年を経て現寺号を得る。	E8	
48	03059	佐々木山 西光寺	情況町大谷 (大野郡)	文祿4年	真宗	文祿4(1585)年、近江源氏と木戸西郷の後裔佐々木大谷右衛門が小谷に移り来て卓望寺を守り、太郎右衛門開基を説く。	F7	
49	03060	白麻山 了因寺	清見町藤原 (大野郡)	文明年間	真宗	法明は蓮如に隨從して諸国を巡っており、文明10(1478)年白川郷照蓮寺領の勧請の地で開墾する。上の許しを得て文明年間(1469~87)に土上庄藤原村に移り道場を開設。	E8	
50	03062	願林山 安業寺	高根町中岡 (益田郡)	永正~大永 年間	真宗	左衛門太郎により成立。はじめ馬頭山(下呂市)にあり中岡へ移転。元禄般地帳によると移転は永正から大永年間(1520~1530)と思われる。	F10	

## 6 第6章 飛騨圏域の寺院

表3 高山市寺院一覧表(3)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在市(田代名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査略歴	分布図
51	03063	龍鳳山 鶴谷寺	清見町鶴谷 (大野郡)	文明17年	真宗	聖土の號見庭太郎御始三男源治郎は、文明3(1471)年古輪におもむき、遂にこの地をうけて法名荷宗と改めた。文明7(1485)年命仏道場を開設。			G7	
52	03064	一位山 往還寺	之一宮町寺 (大野郡)	文明5年	真宗	開基善正は武人として無慚な戦の末で、越前国古崎で敵軍上人の化導をうけ佐門に入れる。西方住善正に改め。文明5(1473)年上人の勧めで帰郷し村人の教化にあたった。			F8	
53	03065	国龍山 蓮末寺	丹生川町方 (大野郡)	慶長8年	真言宗→ 真宗	はじめ西國寺門寺があつたが水縁7(1564)年武田軍の兵火により焼失。天正13(1585)年白山門内ヶ島氏の姫愛城が被災地で埋没した。元和2(1616)年高氏の子高政が創建した。慶長8(1603)年丹生川町方に一字筆で氏の筆を記した。			D9	
54	03066	栗原山 了捨寺	清見町牧ヶ洞 (大野郡)	文安5年	真宗	牧村栗原家の社と栗原源衡が浄土真宗に転向し、本願寺七世存如の教化を受けて法名を「寺」と改め、文安5(1446)年本地に栗原道場を開設。			E8	
55	03067	徒鈴山 西方寺	清見町二本木 (大野郡)	文明18年	真宗	郡上長瀬の僧了西は、天文16(1487)年古輪の蓮末寺に長い淨土真宗の守候依。文安1(1468)年二本木村小島川のほとりに道場開設。元和3(1616)年寺号を改めた。			E7	
56	03068	重松山 西敷寺	朝日町忍風(益田郡)	永正12年	真宗	石井孫左衛門宗秋が蓮末寺(03035)・36(白川村)の門徒となり。永正12(1515)年道場光明院を開設。天文13(1585)年現在地に移転し道場銀蔵と称す。享保2(1717)年蓮末寺号を得る。			F10	
57	03069	白竜山 西正寺	清見町池本 (大野郡)	永正元年	真宗	永正元(1504)年西正寺により助道場を開設。			D7	
58	03070	松圓山 法正寺	朝日町西洞(益田郡)	永正3年	真宗	西洞村の久兵衛が03063懶谷寺の釋尊宗の弟子となり。永正3(1506)年西洞山山頂に参詣して実如から菩提写真像と法名普円を受けた。当時に念仏堂を開設。			F10	
59	03072	弘光山 圓春寺	国府町三川(古城郡)	文安2年	真宗	文安2(1445)年寺三川の御門(法名王潤若しくは玄潤)により成立。明暦2(1656)年現在の寺号を得る。			D9	
60	03073	法輪山 西念寺	国府町広瀬町(古城郡)	天文8年	真宗	天文8(1539)年、尊貴が照應寺十世明の弟子となり。西念と改称して現在地に道場を開設。元禄8(1695)年現在の寺号を得る。			D8	
61	03075	東飛鯨圓泉 東一ヶ原(古城郡)	延喜以前	藤原宗	東飛鯨圓泉信から「駆輪羅院」が記され、權現を守る石動山伏の氣象が始まり。延喜後、永享年间(1429~41)に江海時直が氣象寺の御前をもつたために中野村水田山泰寺より久遠祖參を請じて中興山。			D11		
62	03076	太平山 安国寺(安国寺庵)	国府町西門前(古城郡)	古代	臨濟宗	本文参照	本文参照	22	D8	
63	03077	富山山 永昌寺	東飛鯨圓泉 源田宿家(古城郡)	正和元年	天台宗→ 臨濟宗	正和元(1312)年飛鯨圓泉寺跡小跡家臣坂正平盛が、父母普長のために当地に天台宗の圓照庵を造成。圓許玄義を請じて開山。その後衰微してたが、応永22(1415)年、江馬宗時が父親時普長のため中興、同時に臨済宗に転化。			C10	
64	03078	高麗山 本覺寺	上宝町本郷(古城郡)	中世	天台宗→ 臨濟宗	古野村に天台宗七宝山本覺寺という名跡があり、末寺に本郷村の正門寺と曰く桂庵が立つた。世帯の持廢で廢寺となる所を永文元年間(1264~75)鎌倉朝方が兼合再興し、次男時祐(住名道義)中興開山。天文13(1586)年藤原恵成が軍の衝突により焼失。寛永16年間(1649~45)中田国水田の国泰寺六波羅院に迎え臨濟宗となる。	G		C9	
65	03079	仁月山 経峯寺	上宝町長倉(古城郡)	弘安年間	臨濟宗	往古高麗郡本郷村にあり桂庵といつた。弘安年間(1278~87)江馬領方が、鎌倉長寺より夢白院を請じ開祖とする。永正年間(1504~21)現在地に移転し長岡山経峯寺と改称。中興開山として継承中野郡圓泉寺正雲を請う。江馬徳宗の菩提寺とし、仁月山と山号を改称。			C10	
66	03080	建正山 國分尼寺	国府町木曾賀 國分尼(古城郡)	文政10年	臨濟宗	本文参照	本文参照	38		
67	03080b	市 (飛騨郡国分尼寺)	同町木曾賀 (大野郡)	平安時代中期					E8	
68	03081	普門山 觀好寺	国府町宮地(古城郡)	建久5年	臨濟宗	圓鏡僧から地頭に任せられた多刹方が圓鏡音を観音神社の境内に建立してて開基し、子安觀好と呼ばれた。明治時代に分祀されて現在地に移転。昭和3(1958)年觀好寺に改称し、寺院に昇格した。			D9	
69	03084	神護山 大槻寺	之一宮町山下 (大野郡)	室町時代末期	真言宗→ 曹洞宗	真山は古代寺院跡とされる。室町の勢わり塙には、真言宗の寺院であった龜ヶ尾の寺院が曹洞宗大槻寺となつた。天文7年間(1573~92)に三木三澤内興。			E8	
70	03084b	大槻寺旧塙内 (清峰寺跡)	之一宮町山下 (大野郡)	古代					E8	
71	03085	安房山 廣峯寺	国府町鶴巢(古城郡)	安政元年			G、H			
72	03085b	波蜜寺旧塙内 (清峰寺跡)	国府町鶴巢(古城郡)	不明	天台宗→ 曹洞宗	本文参照	本文参照	24	D8	
73	03085c	(安房山清峰 寺跡)	国府町鶴巣(古城郡)	平安時代中期					D8	
74	03087	鶴村山 久昌寺	若狭町 (大野郡)	應永25年	曹洞宗	應永25(1418)年奈良宗昌により雲龍寺の院として成立。文政10(1827)年法地圓闢し間に昇格する。			E9	

表4 高山市寺院一覧表(4)

番号	寺院 番号	史 跡	山開 寺名	所在地 (大字名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 略歴	分布図
75	03089		高藏寺	若遠町 (大野郡)	慶永2年頃 か。	天台宗→ 曹洞宗	元正天皇聖龜者4(720)年泰澄が白山神を創建し別院妙藏寺を建立。その十六代宮に当るも泰澄2(1295)年切魯佐にて諸侯斬改めの的。能郷御持寺西御竹御堂が宝印再建し本堂前にて御堂、現今号に改称。天正年間(1573~90)金森長近が、長子長則を誓護のため修営。			E9
76	03089a		妙藏寺	若遠町 (大野郡)	養老4年	曹洞宗				E9
77	03090		香巣山 笠置寺	末広町 (大野郡)	大永4年	曹洞宗	大永4(1524)年静岡黒壁原郡勝間田村に成立。明治維新の時、地方信徒たる高山町大字新町・寺霊験軒を出版し、明治36(1903)年許可。大正5(1916)年現在地へ移転。			E9
78	03091		高麗山 金森寺	天性寺町 (大野郡)	慶長14年	曹洞宗	慶長14(1609)年金森重が金森森長の追善普請のため建立。長近の法名金森前兵部書官印玄から名玄寺とした。以後金森家代の菩提所。略称門庭を守持とし、師の天勘秀梅開山。			E9
79	03092		妙福山 寶鏡院	若遠町 (大野郡)	宝徳2年	天台宗→ 曹洞宗	泰者4(720)年泰澄が神託により東山に白山権現を祀り、弟子の執行者を開創とし、加州及当別別院を立てて03090妙福院を立。宝徳2(1500)年泰澄の死後、その法号を継承して妙福院とし、妙福寺と改め。本堂は泰徳2(1459)年、香樹院妙福山金剛院と改て、03089高麗山の迎院に成立。03089高麗山寺。			E9
80	03093		宝樹山 圓応寺	京原寺町 (大野郡)	天保6年	真言宗→ 曹洞宗	此より後ノ一卷付を高麗山圓応寺とある。圓応寺は二ノ丸の青龍所。天保13(1812)年火災失して荒廃していたのを、金森家が03091圓応寺に復興させた。その遺跡が圓応寺である。高山市寺院紹記には天保6(1835)年に本寺圓応寺境内から現在地に移転したとする。			E9
82	03099		常栄山 法華寺	天性寺町 (大野郡)	永祿元年	日蓮宗	永祿元(1558)年結城後藤麻山本多守の日崩により成る。寛永2(1625)年御座所の泰光正徳院御室金森重矩に預けられ、泰光10(1632)年死没。その後泰光を弔うため金森重矩が本堂の造営を行い、光正の普慶寺とする。			E9
83	03100		御山 教覚寺	国府町八日町 (吉城郡)	大永2年	単立(真宗)	大永2(1522)年教説明基により神村村に成立。延宝元(1673)年寺領を得る。享保5(1720)年度住の權限減少と八日町住民の帰化により現在地へ移転。			E9
84	03101		(足見)大御堂	朝日町足見 (吉城郡)	不明	真言宗か 群	成立時難考。『大御堂跡』在益田郡多野郷見岸村、山東末社と云ふ。名の通り、ある。名の通り、ある程度の規模の御堂と推測される。かつては五輪塔も残っていたといいが確認できなかった。			E9
85	03102	市	松倉觀音堂 (松倉觀音)	西之一色町 松倉山 (大野郡)	中世	曹洞宗	標高850m松倉山上にある。本尊は松倉主師小出自耕田に納めた守り寺との言ひ伝えある木彌陀坐像。本尊は03091圓玄寺の般舟堂安置。			E8
86	03103		飛飛禪風泉 龍頭寺	(吉城郡)	15世紀頃	臨済宗	成立時期および位置不明。03077永昌寺の古文書には、永昌寺末寺で、15世紀初めから16世紀に亘ままで存在したとする。			E8
87	03104		(右)雙庵	上宝町双六 (吉城郡)	不明	不明	郡上長瀧寺と云ふと伝えられ、遺物に55段の大御堂経文(白山神社所蔵)、奥書に高木・貞永などの年号がある。江馬氏の庇護を受けたという。現在は破壊。			C10
88	03105		七宝山 莊寺	上宝町吉野 中野(吉城郡)	中世か	天台宗	江馬氏時代の底蔵で発見。03106正參寺や03017月庵庵はこの折頭。天正12(1584)年中佐守成政の兵火で焼失。あるいは、天正10(1582)年八日町の戦いで馬鹿禪が討死し妙小路(三木)の軍勢が打ち入り居間に爆したという説もある。現在は石碑と石灯籠が残つ。			C9
89	03106		正參寺	上宝町本郷 (吉城郡)	中世か	天台宗か	本郷にあり、03105莊寺と共に火により焼失。『飛鷹記』に御堂跡、由来本郷とあるのがこのことか。詳細位置不明。			C9
90	03107		桂月庵	上宝町在家 宇野田林 (吉城郡)	中世か	天台宗か	在家宇野田林にあり、03105莊寺の塔頭であったが、莊寺と共に火により焼失。詳細位置不明。			
91	03108		太平寺	上宝町鷹尾 宇野田林 (吉城郡)	中世	真言宗	成立時期不詳。かつて火事によみがれられた際、寺僧は吉井川に財宝を投じ焼却したと伝えられる。滝の下より如意木像が発掘され、本尊樂薬如意像といわれている。石浦公民館の北側に石碑がある。	6		C9
92	03112	市	横河山安寧寺 (横河山安寧 寺跡)	国府町半田 横河山(吉城郡)	不明	曹洞宗か 本文参照				本文参照 26 D8
93	03113		(石橋庵寺跡)	国府町広瀬 宇石橋 (吉城郡)	白鳳期か	不明	本文参照			本文参照 40 D8
94	03115	市	(光舟庵跡)	国府町上広瀬 (吉城郡)	白鳳期か	不明	本文参照			本文参照 28 D8
95	03025b		无輪寺跡境内	庄川町中野 (大野郡)	中世	真宗か	延寶元(1689)年仲夏により、白川郷岩村村に成立。同郷中野村に移り道祖神右衛門と称す。光輪寺と称し数百年続いたが、昭和35(1960)年御母衣ダム建設のため閉山に移転。位置不明。			F6
96	03118		西願寺	庄川町三尾 河 (大野郡)	文龜元年	真宗	明治33(1900)年庄川寺院院内通地院内地下屢中書に「開基月日不詳」の記載。昭和10年御内西脇、文龜2(1602)年3月1日道場開基。同年4月18日本尊薬師如来八相入式とある。昭和29(1945)年破壊。			F6
97	03119		長泉寺 (淨空寺道跡)	一之宮町舞 千代 (大野郡)	南北朝時代	真言宗	はじめ照泉寺、後に長泉寺。さらに長泉寺へ改称。改称時期は不明。南北朝時代は木板神社と關係つくも眞言宗の長泉寺として栄えたという。現在は土蔵改良を施して細殿となっている。03063往還の南西約300mの一級河川「所」に位置していた。100m南西の山麓に石塔群の部材があり、当寺に関係する可能性がある。	6, H		F8

## 8 第6章 飛騨圈域の寺院

表5 高山市寺院一覧表(5)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在(里)地名	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査時期	分布図	
98	03120	圓心庵	一之宮町右原 (大野郡)	貞治2年以前	不明	本文参照		本文参照	30	E9	
99	03121	伴雲庵	一之宮町右原 (大野郡)	中世か	不明	一之宮神社経典に「伴雲庵公用花房書。貞治三(1365)戊午年卯月十八日」とあり。一之宮神社社ノ内に03120圓心庵、付近に伴雲庵があったというが、詳細既報不明。					
100	03122	堂前庵寺	国府町木曾畠内字歌前 (古城郡)	7世紀後半	不明	国府町木曾畠内字歌前に所在。堂前遺跡周辺と思われるが位置不明。国府町内の他の白鳳寺院より若干後出し。7世紀後半に建立されたものと推定。		軒丸瓦			
101	03123	(開杉寺遺跡)	一之宮町山下 (大野郡)	不明	不明	成立時期不明。具体的に判明するものはないが、近くには多くの法蓋印瓦や五輪塔が集められている。	G, H		E8		
102	03124	(ビタニ屋敷跡)	一之宮町字葉瀬御 (大野郡)	中世か	不明	本文参照		本文参照	31	E9	
103	03125	(千種寺跡)	月生川町町方 (大野郡)	室町時代か	真言宗か	中世に丹生川町に存在したとされ、03063千光寺末寺。寺跡は丹生川神社の境内所で現在は社殿となっている。元禄7(1694)町方村役地には「せんそうじ」とある。				E9	
104	03126	(長見寺跡)	丹生川町町方 (大野郡)	不明	不明	安永3年(1774)才谷村新田松代郷に「長見寺」という地名があるが、現在は山林。かつてあった祠は今は熊野社に移転。	H		D9		
105	03127	(六千寺遺跡 (六仙寺跡))	丹生川町町方 (大野郡)	不明	不明	城山の北麓。御前神社近くにある。現在は丹生川中学校グラウンドとなり。御前神社の社道は六仙寺が執っていた。				E9	
106	03128	(無量寺跡)	丹生川町町方 (大野郡)	不明	不明	03065蓮来寺の裏側あたりにあつたとされるが、道樋らしきものなどはなく残されていない。高原郷へと伸びる衝突に面して建つていた。				E9	
107	03129	(松林寺跡)	丹生川町新張 (大野郡)	不明	不明	古くは新道と呼ばれた八賀町から小八川に沿って伸びる道沿いに建っていた。この寺にあった社像の達磨は、吉須宗素玄寺に安置されている。				E9	
108	03130	市(常光寺跡)	丹生川町山口 (大野郡)	不明	真言宗か	沿革不明。遺構には五輪塔と宝篋印塔が残る。「古真言常光寺」の石碑がある。	G, H		E9		
109	03131	松生山市 (采蘋寺跡)	久々野町小坂 (益田郡)	建長3年か	真言宗	本文参照		本文参照	33	E9	
110	03132	東向山 飯坂寺	千島町 (大野郡)	永歷元年	真言宗	永歷元(1160)年頃合保垂が東を結ぶ。永祿3(1560)年三木自剛に滅ぼされ地死。慶長9(1604)年玄賀・善行田辯を惜し命全森氏援助で再興。江戸期分寺未となり無住。	G		E9		
111	03133	(三仏寺庵寺跡)	三福寺町落合 (大野郡)	7世紀代	華嚴宗	本文参照		本文参照	42	E9	
112	03134	(東光寺跡)	津坂内町東丸寺 (大野郡)	古代	真言宗	成立時期不明だが、百目瓦の出土から、古代寺院が存在したと考えられる。津坂内円融寺文には、円融寺の別称津坂寺は延喜4(1004)年美濃に建立され、その東側に有る寺は東光寺と傳て瓦を設置したとある。千光寺の水まで、永祿7(1564)年武田勝兵により焼失。跡地の堆から金剛輪の駆逐の像が出土。	百目瓦		E9		
113	03135	市 (今崩敷跡) (古野郷時代の伝説地)	坂町下平・ 寺割 (大野郡)	南北朝時代	不明	本文参照		本文参照	35	E9	
114	03136	三少寺	羽井町 (大野郡)	鎌倉時代末 初期か	不明	渡井神社境内に三少寺と云う別当寺あり。祭神は白山三社大神で、中世白衣僧が御前神社として崇めたと伝わる。石造金剛界曼荼羅板本と木和5(1179)年泉佐野御佛舎・良左衛門作とある。				E9	
115	03137	(高山神宮寺跡)	高宮町 (大野郡)	鎌倉時代か	不明	昔は新宮の白山の神護御満の寺であったといふ。いつしか吸納して由来未詳。かつて跡地の土蔵から礎石や梵文を刻した石輪石が発掘されたといふ。				E8	
116	03138	(四十九院庵寺)	中切町 (大野郡)	古代	不明	『使太源院土記』では新羅の僧行心が造られた飛騨國御藤を四十九院庵としている。明治21(1888)年の字給付覚は宮川上原に「四十九」の地名が残っているが、右岸・左岸の両方を接続地とする。古代寺院と推測されている。				E8	
117	03139	(大日慶寺跡)	国府町広瀬宇塔ノ木 (古城郡)	7世紀後葉	不明	古くから瓦の採集場され、古代寺院跡と推測されている。1704圓光寺(飛脚寺)と大日寺(原ノ原院・慶寺跡)の寺心礎が伝わる。また、03137高宮庵寺跡も同瓦が存在。	軒丸瓦、軒平瓦			E8	
118	03140	(里寺跡)	朝日町青屋 (益田郡)	不明	不明	沿革不明。現地は3段の平高地があり、木立に囲まれている。最も高い處に小鳳鳩な寺がある。	G, H		E10		
119	03141	(淨願寺跡)	朝日町万石 (大野郡)	不明	真宗	万石に字名淨願寺の地名があり。真宗の寺院跡と伝わる。山麓のやや小高い場所に平坦地があり跡地か。現在は水田。				E9	
120	03142	済水山 (曲浜寺跡)	朝日町之一宿 (益田郡)	不明	不明	沿革不明。一之宿は公民館の横に「清水山幽溪寺」の石碑有。その裏山に複数の平坦地がある。	G		F10		
121	03143	(二つ寺遺跡)	国府町木曾畠内 (古城郡)	不明	不明	萬八十村田記や元禄地帳地名に、木曾畠内に03153「建正寺」と「二つ寺」の地名有。建正寺との関係や沿革は不明。				E8	
122	03144	(慈喜高寺跡)	下切町 (大野郡)	不明	不明	沿革不明。現在は民家及び耕地。				E8	

表6 高山市寺院一覧表(6)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在地(田都名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査略歴	分布図
123	03145	(普門院跡)	上岡本町(大野郡)	不明	不明	白革不眞。現地は鬱蒼とした山林で、谷の溪流右岸に平坦面が3段みられる。			E8	
124	03147	(八幡山淨光寺跡)	花里町(大野郡)	不明	不明	白革不眞。遺跡範囲の南東部は八幡神社境内。			E9	
125	03148	名張慶寺	国府町名張(古城郡)	奈良時代	不明	白革不眞。名張の栗田道麻呂配流地といわれる扇形が吉古院跡推定地である。上庄文字墨数(先兆庵)、広瀬字いしばし出土の鏡瓦の文様と同じ瓦が出土。		古代瓦:	D8	
126	03151	(正面寺跡)	国府町八日町(古城郡)	不明	不明	白革不眞。現在は保地。			D8	
127	03152	(飫正寺跡)	国府町福谷(古城郡)	不明	不明	白革不眞。山麓谷に小規模な平坦面がある。			D8	
128	03153	(建正寺跡)	国府町木曾内(古城郡)	不明	不明	奥八十村田記や元禄縦地帳地名に、木曾川内に「建正寺」と03143「二つ寺」の地名。二つ寺との關係今白革は不眞。現在は水田。			D8	
129	03154	(安城寺跡)	国府町上庄(古城郡)	不明	不明	白革不眞。寺跡からは古瓦や須恵器が出土し、寺門に用いたと思われる礎石も出土。現在は水田。		古代瓦、礎石	D8	
130	03156	(十王堂跡)	国府町三日町(古城郡)	不明	真言宗	宇野町に真言宗寺院があった。「飛糸吉城郡見城郷三日町十王堂」、永正11(1514)年甲戌八月晦日、願主清衆二十人」の銘のある鏡は、飛糸郡分寺(高山市)に移され改銘。			D8	
131	03156	善聖寺	中切町(大野郡)	中世	天台宗	信郡上郡善聖寺米、四十九院の一院でもあったといいい、また独立した寺院であったともいわれる。當聖寺は一院に分かれて、中央に川を隔んでいた。施設跡不明。			D8	
132	03158	薬師堂	山田町(大野郡)	中世か	不明	山田に薬師堂跡の地名が残る。「上枝寺跡」には薬師堂及び本尊(行教菩薩那羅揭毘盧凡)四寸有余(合)四頭分寺にあると記載。有。國分寺へ移されたのは天文10(1582)年金森近政が國分寺を再興した頃。			D8	
133	17041b	林昌寺旧境内	国府町宇治江(古城郡)	文龜元年	曹洞宗か	17053年昌寺(飛糸町)はもと宇治津川にあった。いま西条江の僧木ヶ湖の内に實(尼尼屋)と称するところがあり。五輪塔など出土し、林昌寺にはここにあたった。			D8	
134	17014b	圓光寺旧境内	国府町宇治江・平井・美濃江(古城郡)	永正11年	真言宗	17014圓光寺(飛糸町)はもと南具町の山麓近くにあった。土地代では地頭は越後十六歩・平永11(1514)年海貝江割正祐が実加より贈被を受ける。この後、飛糸市上町・下町荒川近・古川町郷町に移転。現在は水田。			D8	
135	03161	(日挑造跡)	上切町(大野郡)	8世紀後葉	不明	本文参照		本文参照	44 D8	
136	03162	(三枝城跡)	上切町(大野郡)	8世紀後葉	不明	本文参照		本文参照	45 E8	

表7 高山市参考寺院一覧表(1)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在地(田都名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
1	03004	桜雲山相應院	桜町(大野郡)	明治28年	真言宗	創建は不明であるが、明治の神仏分離までは桜山八幡宮の別当今長久寺として栄えていた。神仏分離によって寺となるが、当時の住職高山愚慈が高野山で隠居となっていた金森氏の菩提所であった相應院の名跡をうけ明治25(1892)年に再興した。		
2	03006	永安寺分院	鶴町(大野郡)	不明	真言宗	成立時既及び沿革不明。		
3	03008	常照山淨光寺	天瀬町(大野郡)	明治29年	淨土宗	明治4(1868)年、真言により03011大雄寺旧境内に成立。林香院と号す。蓮開年(1789～1801)に焼失。明治29(1896)年現在唯礎へ移転。翌年淨光寺と改称。		
4	03012	櫛磨山觀音寺	三橋町(大野郡)	明治2年	淨土宗	明治2(1866)年、照慶寺十三世宣明の二男明了により成立。延宝2(1674)年西本願寺へ転向。元禄14(1701)年現寺号を得る。		
5	03014	天聖寺	国府町名張(古城郡)	明治20年	真宗	安政3(1856)年、釋尊により古城郡古川町三之町に創立。同年寺号を得。明治20(1887)年現在地に移転。		
6	03017	參詣山稱讚寺	下之一町(大野郡)	寛文元年	真宗	寛文元(1661)年、道證により成立。		
7	03024	両足山淨瓶寺	月出川町坊方(大野郡)	近世か	真宗	真言聖法弟淨瓶の後十代目の延仁兵衛が、蓮如に帰依し舟井と改姓。信濃國から当地に移り延び道場を開設。正徳元(1711)年淨瓶寺に改称。		
8	03030	西釋山靈應寺	庄川町中郷(大野郡)	昭和34年	真宗	三河因幡城の勝万寺子であり、庄川西を以て開基。古くは美濃因西方寺の本寺、貢享3(1666)年小丸村に一宇を建立。蓮應寺と称す。御母衣ダム建設のため、昭和34(1959)年現在地に移転。		
9	03032	雲霧山靈雲寺	神山村(大野郡)	昭和5年	真宗	信譽圓基。第二世覺誠により寛永18(1641)年靈雲寺と称す。本坊は03035圓通寺の門前御坊であつたが、代泰菴の時高山文右エ門仮に移転し、昭和5(1930)年現在地に移転。		
10	03034	七寶山本教寺	西町(大野郡)	寛文12年	真宗	明治2(1866)年03023進入寺六世が七日町に一宇建立。はじめ進入寺旧号を以て靈壽坊と号す。寛文12(1672)年現在地に移転。明治14(1881)年改称。		
11	03039	廣大山寶觀院	片野町(大野郡)	昭和10年	真宗	天保2(1832)年の日に池田が開基したとある。昭和40(1965)年電源開発のため水没地となり、大野郡高根村より現在地に移転。		

10 第6章 飛騨國城の寺院

表8 高山市参考寺院一覽表(2)

番号	寺院 番号	史跡 名	山(國)号 寺院名	所在地 (旧郡名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
12	03054	覺宣寺 不遠寺	和束町 (大野郡)	照和期	真宗	開基は源通寺十二代の住持明了(のち覺明)に改称)。寛永9年(1632年)開運寺の寺号を宣了によって今西南の山に隠居し、本尊を安置して墓堂とした。承応2年(1653年)寺号を得る。境内地から移転し、さらに昭和時代(1926~89)に現在地に移転。		
13	03061	佛頂山 大施寺	高根町上ヶ原 (益田郡)	不明	真宗	成立時期不明。3030年中野照運寺第9代の第5子が弘多野郷に教化に訪れる、村人が入寺を勧めて道場を開設。		
14	03071	寶甲山 円誠寺	朝日町甲 (森田郡)	寛永6年	真宗	甲城主・東藤氏に仕えた小倉助左衛門の裔である勘助藤家は、0303年~306年照運寺の第5子となり、宜加の御座を受けて宝甲定義と改め、寛永6(1629)年に道場開設。元禄4(1711)年現在の寺号を得る。		
15	03074	真龍寺 宗寂寺	宗祇町 (大野郡)	寛永9年	臨済宗	寛永9(1632)年金森重頼・重勝兄弟により、原本寺・新安国寺成立。圓通妙心寺前住南寳定宗。その後、重勝・重勝房の法名から真龍山宗寂寺と転宗。		
16	03082	普門山 善久寺	丹生川町日 向(大野郡)	不明	真言宗→ 曹洞宗	成立時期不明。03003千光寺の一房で真言宗であったが、03091兼亥寺三世兼 秀衡が曹洞宗に転宗、開基となる。		
17	03083	大貴山 正宗寺	丹生川町北 方(大野郡)	不明	真言宗→ 曹洞宗	成立時期不明。かつて03003千光寺末寺として真言宗に属し、慶長元(1596) 年曹洞宗に転宗、現在地に移転。03091兼亥寺の二世悟翁門慶をこの寺に迎 え開創しとし、兼亥寺の寺号になる。		
18	03088	放鉢山 慈雲寺	丹生川町麻 鉢(大野郡)	江戸時代初期	曹洞宗	03091兼亥寺末寺。初代は兼亥寺五世悟翁徹徹和尚で、この地に草庵を結 ぶ。		
19	03094	妙高山 大雄寺	春日町 (大野郡)	承應2年	曹洞宗	承應2(1653)年金森頼直が京都鷹狩大雄寺前住海優を圓山として成立。		
20	03095	慈恩山 正覚寺	神明町 (大野郡)	明治37年	曹洞宗	慶長12(1607)年金輪定昌の圓山、伊田中和賀郡岩崎村に成立。明治維新に際して度成危機に瀕したが、17941林昌丘住往羅下忍外免勅し高山町に移転を出 令。明治37(1904)年現在地に移転。		
21	03096	華岳山 恩林寺	下岡本町 (大野郡)	昭和3年	黄檗宗	貞享3(1686)年西江より賤賤母圓鑑生都と號し、寺舎のみみあつたを昭和3 (1928)年古都記念が発行して、現在地に移転し古都寺と號す。		
22	03097	躰行寺	上岡本町 (大野郡)	不明	日蓮宗	成立時期及び創始不明。		
23	03098	妙蓮教院	岡本町 (大野郡)	不明	法華宗	成立時期及び創始不明。		
24	03109	淨德院敷	上宮町藏 字平野(古城郡)	伝元祐以前	真宗か	かつて当地に信仰の無い農夫がいて、毎日古田村常蓮寺にお参りをしてい たが、後に一宇を建て堂守となる。元祐接地帳には3畝16歩が載る。		
25	03110	太子靈敷	上宝町下佐 谷(古城郡)	不明	不明	下佐谷落葉寺より50m東にあり。下総の後人3人が聖蹟太子像を守護し て来て、太子像を設け像を祀った。太子像は、後に長良に移され、さらに に1709年古都蓮寺(飛騨郡)に移されたと伝えん。		
26	03111	横河藪廬院	国府町西門 (古城郡)	不明	臨済宗か	成立時期不明。寛文5(1665)年寛永安政9年の所見宗安が寺号に横河藪廬院を 再建。奉事住吉原が開基の横河藪廬院から移した。飛騨郡中案 内に平田村に横河藪廬院寺跡のあることを記す。現在は03076安国寺境内に ある。		
27	03114	範音堂	国府町平瀬 町(古城郡)	不明	不明	成立時期不明。古來より子安觀音者が祀られる。本尊觀音の形に志により再 建されたらしいが、詳細位置不明。		
28	03116	しょほん寺	赤井木町向 田(大野郡)	不明	真言宗	成立時期及び創始不明。14個の石造像が残存。近くに池や玉輪橋があるとい う。地盤は北にしょほん寺洞の丸山から移した。此辺にしょほん寺と称する真言 宗の古刹があつたが毀滅したと伝わる。詳細位置不明。		
29	03146	(松泰寺崎)	西之・色町 (大野郡)	江戸時代か	不明	飛騨郡宮内院寺(寺社合併)が寺号である。江戸時代松泰寺客殿として建 てられたもので、別当寺であつたが明治の寺社分離により廃寺。		
30	03149	真蓮寺	国府町平瀬 江字大瀬口(古城郡)	不明	不明	成立時期及び創始不明。現在は本田。		
31	03157	繼王堂	下郷町 (古城郡)	不明	不明	伽藍縮より継王の方一町ばかりの所に、地主堂という地蔵庵兼坐寺のありさ をもたらした堂があった。王主像は益田竹那郡に移り、今は何もないが、当地を「淨土」と呼ばれる。詳しい位置不明。		

表9 飛驒市寺院一覧表(1)

番号	寺院番号	史跡	山(川)谷号 寺院名	所在地名 (旧都名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構 調査結果	分布図
1	17003	谷中山 藏林寺	神岡町田 (古城郡)	天文3年	淨土宗	天文3(1544)年尊貴秀法により成立。享保19(1734)年、接掌天 龍が開闢、藏林寺と称す。	E.	石仏	A9
2	17004	永林山 向善寺	古川町信包 (古城郡)	中世	真宗	大正19(1930)年に善行寺と一向寺が合併し向善寺に改称。善行 寺は天文10(1541)年、馬田村野ノ保で命乞道場として成立。後 年現在地へ移り、貞享2(1685)年に号乞寺呼ぶ。一向寺は永正 13(1516)年、小畠朝満が号乞寺に今込法堂として成立。元禄2 (1689)年、号乞寺と合併。天文3(1540)年に向善へ移転し たが、天文20(1547)年には大水害により焼失。	G., II		C8
3	17005	瑞雲山 永常寺	神岡町柏津 (古城郡)	昭和23年	真言宗	天文1(1532)年成立。江戸時代の柳沢九郎に永常寺(岩政院と いふ)を建ててが回天7(1608)年に没し無る。1704年瑞雲寺の岩政院 により、瑞雲22(1648)年に江戸時代の白牌を1700年常通寺から 譲り受け、永常寺として再興。永常寺として再興。			C9

表10 飛驒市寺院一覧表(2)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在(地)	建立時期	宗派	厄除等	遺物、遺構	調査結果	分布図
4	17906	天王山 願成寺	河合町御祖 (吉城郡)	天文5年以降	真宗	天文5(1536)年、願成寺が本願寺祖から開基絵像を継ぎ、二世 願了が現在の天の門口に移転。文化9(1812)年に火災で全焼す るが、文政5(1822)年に再建。移転元も別。	G	C7		
5	17907	延命山 願念寺	河合町新名 (吉城郡)	応永18年	真宗	寛永18(1641)年、飛騨守司朝倉小路氏の子宮原要羅が出来て 延命庵と名を改め、延命庵を営む。天文5(1536)年、五 度尊龕が本願寺に移転、富山の開名寺などとして延命真光坊と称 す。元禄3(1700)年に延命山願念寺と寺号す。		C7		
6	17908	天保山 尊勝寺	河合町角川 (吉城郡)	正和2年以前	真言宗→ 真宗	成立時期、元の寺号は不明だが、羽佐根守が正和2(1313)年頃 賛助に依り、真言宗から淨土真宗に転向。永承3(1360)年7 月日菩提寺の時。	G	C7		
7	17909	龍洞山 太子堂 常蓮寺	神岡町吉田 (吉城郡)	中世	真宗	元亨3(1323)年、願勝坊悟修が遠野に天台宗竹林山華藏寺の魔 寺跡に草創寺を設け、真宗の靈廟を広めた。祝知から「臥持坊」 及び開名寺の寺号がたが、寺号を八郎の開名寺(富山市)に譲 り、寛正元(1360)年に常蓮寺に改称。正天10(1582)年兵火で 焼失す。同16(1588)年に丁正が再建。寛永3(1642)年に常 蓮寺の寺号を得る。遠野からの移転時不明。	G, H	C9		
8	17910	願光山 真宗寺	古川町三之 町(吉城郡)	天文17年	真宗	文亀2(1602)年、祐宗が東本願寺末の安弘道蘭林坊(1701bカ ンヨウカジ(白川村))を開創。天元1(1642)年吉城郡古川に移転 し、さらには正天17(1589)年に現在地に移転。慶長7~8(1602~ 03)年に寺領1石昇給。宝永3(1706)年西本願寺末に転属。		D8		
9	17911	得宝山 本願寺	古川町杉崎 (吉城郡)	天文5年	真宗	天文5(1536)年に本願寺祖から道場寺の願造に給像本尊が下 付され、宝永元(1794)年に寺号免許。宝山開名寺末。		C8		
10	17912	惠明山 淨地寺	古川町中野 (吉城郡)	慶長17年	真宗	明応3(1494)年、富山市開名寺門徒源正三が小幡落合谷に舟心 房を開く。慶長12(1607)年吉本願寺達より方丈法身尊を下 付され、同17(1612)年に現在地に移転。七世明利の時に寺号免 許。		D9		
11	17913	宝寧山 大国寺	神岡町西 (吉城郡)	元禄7年	真宗	1707年宝林山河通寺が五世寶宣山のとき真火により焼失。寶宣は惣 門元(1583)年から天台宗から淨土真宗に改宗。元禄1(1688)年 に寺号免許。宝寧山(1691)年吉本願寺達より方丈法身尊を下 付され、元禄16(1653)年大國寺の寺号免許。元禄7(1694)年古田村から移 り一時無住となるも、寛保2(1742)年明秀が本堂を再建し中興。		C8		
12	17914	願應山 圓光寺	古川町瀬町 (吉城郡)	慶長8年	真宗	永正11(1514)年正祐が古河郷子津江海江に道場を置き成る。 その後上町下町開拓区間に移転。度々の水害で元和7(1621) 年現在地に移転。慶長8(1603)年に正対免許。正徳年間 (1711~17)圓光寺に改称。		D8		
13	17915	紫雲山 西光寺	古川町杉崎 (吉城郡)	不明	天台宗→ 真宗	成立時期不明。始め天台宗で、杉崎の開所にあつたが移転・ 時期不明。大永2(1522)年吉道場主善蔵に給像本尊が下付され、 元禄3(1700)年に西光寺の寺号免許。		B8		
14	17916	八池山 願念寺	宮川町西忍 (吉城郡)	明応年間	真宗	佐藤与四郎豊包(祐念坊)が明応年間(1492~1501)に道場を開 設。九世誠義が再興し団り、その弟子文化7(1810)年に御懇 を修徳。		B8		
15	17917	白駄山 本光寺	古川町 武之町 (吉城郡)	天文17年	真宗	開基願山は數了。天文16(1512)~55)に古川城候下町(古川町上 町)に本廟を結び、天正17(1589)年に現在地に移転。慶長8 (1603)年に寺号免許。七世了智の代に吉本願寺領に転属。		D8		
16	17918	東林山 信行寺	古川町谷 (吉城郡)	貞享4年頃 か	真宗	天文6(1537)年、教円が谷村地内に念佛道場を設立。貞享4 (1687)年寺号免許。南西の白山神社山は「東林山」と呼ばれ る。寺院開基前の道路跡地(1701年)、小坂橋の石垣面がある。	G, H	C8		
17	17918b	信行寺旧境内	古川町谷 (吉城郡)	天文6年	真宗					
18	17920	文藏山 宝林寺	宮川町三川 原(吉城郡)	天文9年	真宗	天文9(1540)年、修了が三川原屋までまつて道場を開設。文化 13(1818)年に宝林寺の寺号免許。寺伝では、宝永2(1625)年開 基。		B8		
19	17921	諦往山 淨寺	古川町太江 (吉城郡)	延享年間	真宗	寺伝では、3代藤原の代に寺号(淨度寺)を称し、高京開基寺に 所在したという。「飛州寺」では、聖佐互の本尊本尊で、慶長 2(1597)年と願主(捨舟)の額があったが、道場の場所が不明で あり裏書の確認はできないとしている。延享年間(1744~48)に 現在地に移転。				
20	17922	那ノ尾山 願圓寺	宮川町種蘿 (吉城郡)	文祿元年	真宗	文祿元(1592)年、広圓山城の家臣宮川平左衛門が種蘿村宇家 の印りにて創建。慶政10(1798)年に寺号免許。				
21	17923	天蓋山 善教寺	河合町月ヶ 瀬(吉城郡)	永正12年以 前	真宗	永正12(1515)年以前成立。郡上長瀬方に屬していたが、丁正の 代に白川開闢寺門前となる。代々道場兼防護と称したが、元禄 14(1710)年に善教寺と改称。昭和50(1975)年発現。		C7		
22	17924	佛■(足尾に 山)山 願成寺	河合町羽根 (吉城郡)	鎌倉時代末 ~南北朝時代	真言宗→ 真宗	燃時義が「小御堂」、小字を見て薬師如来を祀っていたが、願 成の代に真宗に帰依。元禄15(1702)年、六世願成が古御舟寺に改 称。				
23	17925	松尾山 願念寺	古川町下気 (吉城郡)	文明18年以 前	真宗	飛騨合町に本廟の寺領敷にあった真言宗の寺を、真宗に帰依し た神性が本村に移し志仙道願成寺立。難波下付本尊裏書に文明 18(1466)年の銘有。元禄14(1701)年に寺号免許。				
24	17927	寶谷山 淨永寺	古川町袈裟 丸(吉城郡)	弘治2年	真宗	弘治2(1556)年、義親が淨円門を設置。元禄14(1701)年に寺号 免許。中央に松尾から袈裟丸のどこかに所在したとされる「宮 谷寺」と山号が並ぶが、関係性は不明。		D8		
25	17928	慶雲山 圓全寺	神岡町 麻生野 (吉城郡)	文化年間	臨濟宗	寧林2(1529)年成立。江黒寺の一族である麻生野直盛開基。 源宗空開闢。文化14(1814)~18(1818)年に宇尾山から現在地へ移 転。高山宗祇寺末であったが、明治23(1890)年に臨濟宗妙心寺 宗となる。				

表11 飛驒市寺院一覧表(3)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	寺院名	所在地(市町名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査略歴	分布図
26	17029	天照山 円城寺		神岡町殿 (吉城郡)		天正10年以前	臨済宗	江馬氏普慶寺。江馬氏初代舞醍屋基、秀宗開山。成立時期不明。臨濟宗大徳院の大照山圓城寺と号した。天正10(1582)年に兵火で焼いて、同13(1585)に、後藤義輝が再興し、南安院と改称。高山源義が末寺となるが、明治23(1890)年に妙心寺末寺となつた。	G, H		C9
27	17030	殿秀山 瑞岸寺		神岡町殿 (吉城郡)		中世	臨済宗	応永年間(1401~62)に小丸山瑞岸寺成立。江雲院経が母崇禪のため丸山寺から現在地に移すとして馬朝房が建立。天正元(1573)年時代正が再興し、瑞岸寺に改名。再興時大徳院、妙心寺等に転属。	G, H		C9
28	17036	白雲山 金龍寺 (金森宗貞禪 廟)		神岡町東 金龍寺 (吉城郡)		寛延3年	曹洞宗	白水永年間(1521~28)成立。金森氏家臣で氣山山の金森(美庄)没後が子承りで発展していく寺を通り、標識を以て中霧原山。寛延3(1760)年火災により全焼し、金森宗貞禪廟に再建。			
29	17037	茂樹山 應勤寺		神岡町西茂 樹應勤寺 (吉城郡)		慶長15年	曹洞宗	江馬時直貞基で大字千賀字島田に成立。江馬氏没後、慶長15(1610)年に現在地に移転。安豊院を講じて中興し、應勤寺(富士山)末となる。			A9
30	17041	五峰山 林昌寺		古川町五峰 町 (吉城郡)		不明	曹洞宗	もとは飛騨国寺跡・道氏の普信寺として建立されたが、妹小路氏の後裔とともに廃絶。その後金森可重が父安房守昌監修のため、天香秀海を招き、増築の町にて長慶院の普信寺として再興した。創建当時の所在地は諸説あるが高山市にその旧跡とされる扇谷有(1704b)。寺号は蓮木(1620)年以降の呼称。			
31	17044	宝福山 光圓寺		神岡町和佐 光圓寺 (吉城郡)		寶應年間	曹洞宗	宝町時重の五峰山によく諂ひ秀村山とし、字小糸川に成る。宝應年間(1751~64)の供水被災者を弔うために現地へ移転。			
32	17045	天照山 円城寺		神岡町船原 (吉城郡)		慶安2年	曹洞宗	承久3(1221)年、江馬舞醍經が母の持念した聖鑑を安置し難村に開山。天正10(1582)年に馬氏が移し跡(三木市)に寺号寺とも。天正10(1582)年に江馬義秀が妹小路(三木)氏に敗れ荒廃。慶安2(1649)年、金森直重により現在地へ移転。このため17029と同じく天照山円城寺と号す。			
33	17046	南光山 寿衡寺		古川町太江 (吉城郡)		元禄2年	?	本文参照		本文参照	48
34	17046b	寿寧寺(旧境内) (寿寧寺魔羅堂)		古川町太江 (吉城郡)		飛鳥時代					C8
35	17047	補陀山 觀雲寺		神岡町船津 (吉城郡)		近世か	真言宗 →曹洞宗	江馬氏の持本尊の御墨面として成立。御墨院と記した西宮宗の御院であったが、江馬時通が利天玄基を請むとし、曹洞宗に転向。天正10(1582)年に江馬義秀が妹小路(三木)氏に敗れ荒廃。慶安2年(1649)~1615)に阿上介富重中興開基。大般照中興開基。八角堂により現地へ移転。			
36	17049	水月庵		神岡町柏原 (吉城郡)		中世か	真言宗 →曹洞宗	成立時期不明。里裏には、越中の土豪吉川氏が始めた砦。土豪の家臣赤三郎が御立像を持つて芦村へ逃れ、百姓に仏像を預けた勞を頭としたため、寺を建てて安置。その後、相模村の利右衛門が街道沿いに堂を建てて。曹洞宗に転向。令和元(2019)年廢寺。			
37	17050	(山頂荒沙門 堂)		神岡町山田 (吉城郡)		応永6以前	真言宗 →曹洞宗か	成立時期不明。往古、大字下山田字弓ノ洞に真言宗来光院があり、応永6(1399)年に江馬植盛が本堂を修繕。元亀3(1572)年、堂を再創した小江馬氏の没落とともに荒廃。			
38	17051	(朝顔荒沙門 堂)		神岡町朝顔 (吉城郡)		天正6年	不明	天正6(1578)年成設。植正成の父が信貴山(奈良県)の多聞天に祈り参籠したところ、正成が誕生。村一帯で朝顔門天と安置したといふ。			C9
39	17052	(東峰山地蔵 堂)		神岡町東峰 山(吉城郡)		慶長年間	不明	慶長年間(1596~1615)、村人が字額ヶ頭の水底から地蔵尊を引き上げて安置。堂は文化5(1808)年と文久2(1862)年に再建。			B9
40	17053	智林山 淨藏寺		神岡町吉田 淨藏寺 (吉城郡)		元亨3年以前	天台宗 →真宗	本文参照		本文参照	52 C9
41	17054	延壽寺 安樂院 觀音堂 (小糸圓滿院)		神岡町小糸 (吉城郡)		宝町時代初期	不明	成立時期不明。建築は野百道地区にあったものを移築。現在の建築は鎌倉時代に建立された前身堂の部材を一部利用して、宝町時代に再建。	G		C9
42	17056	右王山 光明寺 觀音堂 (伏方圓滿院)		神岡町伏方 (吉城郡)		昭和47年	天台宗か	成立時期不明。伝坂瀧白郡の木造薬師佛を流棄山中腹の堅石と移する大石の下に堂を建てて安置。嘉永3(1850)年に右王山光明寺圓滿院として板を移転し、さらに昭和47(1972)年に現在地へ移転。	G, H		C9
43	17062	吉田鳳音堂		神岡町吉田 鳳音堂 (吉城郡)		鎌倉時代	不明	江馬舞醍經基。開山は周繼。元禄7(1694)年の地帳水帳に「觀音堂 村抱」がある。延喜3(746)年禪顯(小糸圓滿院)が再建。			C9
44	17063	吉田阿弥陀堂		神岡町吉田 (吉城郡)		中世か	真宗か	成立時期不明(昭和不詳)。本尊阿彌陀仏座は嘉慶元(1326)年、高麗裏に浄土真宗が奉けた時に京都より下ったものである。			C9
45	17066	成尊山 願全寺		古川町芝之 町(吉城郡)		明德年間	天台宗 →真言宗	天宝年間(761)~904)に巖空が深洞に本尊安置。延喜年間(782~906)、天台僧僧海と古川町に本尊を移す。弘仁天平(810~24)、延喜が詔敕寺を福全寺と改称。建徳年間廃失し、明徳年間(1390~91)慶仁が移転(移転元不明)。天正年間(1573~92)、伏住が中興。安永2年(1772~81)末寺無仁。明治6(1873)年祝寺。			
46	17067	(上町慶寺跡)		古川町上町 (吉城郡)		白鳳時代	不明	出土遺物から古小院が所在したと推定されるが、芭草の評議は不明である。現在は宅地。	須器器、灰陶器、軒丸瓦		D8

表12 飛驒市寺院一覧表(4)

番号	寺院番号	史跡名	山(院)区分	寺院名	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査結果	分布図	
47	17068	(説教寺跡)	古川町上気多 (古城郡)	白瀧時代	不明	出土遺物から古代寺院が所在したと推定されるが、沿革の詳細は不明である。現地は吉城高校グラウンド内である。	須恵器、軒丸瓦		D8		
48	17069	(城見寺跡)	古川町伊包 (古城郡)	中世	不明	本文参照		本文参照	54	C7	
49	17070	(杉崎庵寺跡)	古川町杉崎 (古城郡)	白瀧時代	不明	本文参照		本文参照	B8	C8	
50	17071	(西ヶ原廃寺跡)	古川町寺地 (古城郡)	平安時代	不明	本文参照		本文参照	60	D8	
51	17072	(古町庵寺跡)	古川町上町 (古城郡)	古代	不明	出土遺物から古代寺院が所在したと推定されるが、沿革の詳細は不明である。現在は宅地。		須恵器、瓦		D8	
52	17073	(金剛寺跡)	神岡町下山田 (古城郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。現地では、小規模な平坦面と散乱した礫石・礫塊。かつては土塔跡を確認できといふ。				C9	
53	17074	晴雲山圓照寺	河合町舟原 (古城郡)	開創3年	真宗	開創3年(1240年)。岩佐氏・良右衛門が土主として守護し、道場丸、右門堂が成立。永正12(1515)年、円光坊圓照の母を守護し本願寺末。享寧4(1474)年を尊ぶ円照の寺号を承認。昭和24(1949)年農地改革により廃寺。17005永常寺として復興。現在は墓地及び施設が残る。				D7	
54	17075	宝林山円通寺(明智切羽跡)	神岡町吉田 (古城郡)	12世紀後葉以前	天台宗→真宗	成立時期不明。天山御基。五供寛山の時、兵火により焼失。德治元(1307)年、寛山より真宗本願寺別院へ転宗し、元亨3(1323)年宝林山圓通寺跡に草庵を設置、延長18(1613)年17013大國の寺号分許。				C9	
55	17076	(飯)天王剣の不動堂	古川町野崎 (古城郡)	中世	不明	飛騨国司孫の路家天王の一人・江田近家が不動王を祀らせた。元来天王剣には天頃天王が祀られていた。大正時代(1912~26)半ばに大蔵神社へ合祀。				D8	
56	17077	(駿坂口遺跡)	神岡町坂巻 (古城郡)	古代~中世	不明	本文参照		本文参照	56	C9	
57	17078	(本堂山城跡)	古川町谷野 (古城郡)	古代~中世	不明	かつて山頂に馬頭観音があり、本堂山とよばれるようになった。その後山野氏が城を守護する守護仏として谷野の本堂に移し、さらには1703恩賜院に移されると伝う。				C7	
58	17079	(左近庵寺跡)	古川町太江 (古城郡)	古代	不明	古代の寺跡として遺跡登録されている。1706b委賣庵廢寺から左近庵寺と呼んでいたという。奈楽寺庵寺と同寺である可能性もある。				C8	

表13 飛驒市参考寺院一覧表(1)

番号	寺院番号	史跡名	山(園)寺 寺院名	所在地 (都道府県)	建立時期	宗派	古事記等	遺物、遺構
1	17019	照應寺	神岡殿(吉城郡)	不明	真宗	成立時期及び創始不明。現地は宅地となっており、移転又は廢寺と考えられる。		
2	17031	大曾山 光明寺	宮川町打保 (吉城郡)	明治~大正 期	曹洞宗	もとは戸谷区字山口の小庵だった。万治元(1658)年相船村莊が戸谷上ノ平に光明寺を建立。宝曇元(1751)年道友が本堂を改築し中興。明治~大正時代(1860~1900)に火災に遭い現在地に移転。		
3	17032	玉串山 圓鏡寺	宮川町林 (吉城郡)	寛政7年	曹洞宗	元和年間(1615~1622)、鶴鳴院(高巖山玄教寺第二代)が玄昌寺と称し開山。天明8年(1788)年当主三世の玄昌、寛政7(1795)年八百が林字の前より現在地に移転。移転元不詳。		
4	17033	久雲山 玄昌寺	宮川町杉原 (吉城郡)	明治35年	曹洞宗	元治元(1865)年、格雲門院(高巖山玄教寺第二代)が玄昌寺と称し開山。明治35(1902)年、圓鏡院が現在地に移させた。移転元不詳。		
5	17034	幽仙山 般若院	神岡町鈴野 (吉城郡)	昭和11年頃	曹洞宗	元治元(1865)年、成志院(柳河内)や、文政元(1818)年に佐七云範が父の菩提のための墓塔を奉安して開院と称す。明治時代に、圓鏡院の居住となっていた圓鏡院宗派尼院を移転して後院と称す。昭和11(1936)年に現在地に移転。		
6	17035	如意山 寿寧寺	神岡町下之木 (吉城郡)	元和年間	曹洞宗	元和年間(1615~24)各門頭開院。尼寺で般若院と称した。昭和43(1968)年元旦以外で焼失。所幸村ダム建設により水没する懸念の古堂を譲り受けて移設し、無住であるたる圓覺寺(吉川町)の住職と共に安置して置いた。		
7	17038	船渠山 慈雲寺	古川町製塩丸 (吉城郡)	元和元年以前か	曹洞宗	成志院時那寺の時代この間に宮谷寺があったといわれ、後に般若院が建す。寺院としてえられたのは元和(1615)年で、中興開山は竹翁院(圓鏡院)と高巖山玄教寺とある。		
8	17039	瑞龍山 久昌寺	宮川町鍋島 (吉城郡)	明治2年 (嘉慶宗寺院は慶長年間以前)	曹洞宗	さてこの寺の名は眞言宗の寺があり白山門当がいたが、慶安・承応年間(1648~1655)には無化。明治2(1869)年、柏村町村(高巖山玄教寺第4代)開山、瑞龍山久昌寺となる。		
9	17040	圓通山 圓音寺	宮川町西恩 (吉城郡)	寛永初頃	曹洞宗	義光初原、奥美多秀村(高巖山玄教寺第二世)により、圓音寺成立。二世玄宣道吉は在室の玄宣(玄宣)に朝倉を寺号の開闢を図ったが、安政(1850)年の地震により焼失。明治11(1878)年、二十九貫村貞明が再建。		
10	17042	參山寺 長久寺	宮川町新宜 長久寺 (吉城郡)	元和6年	不明→ 曹洞宗	格雲門院が天祐秀村を開山とし、室内外は住持となつて成立するが、元和6(1619)年、鶴鳴が長久の長久寺と曹洞宗に転宗し、新堂下村宜(アキ)と字宮宇にて移転して開山。改修前の寺名は不明。安政(1850)年の地震が全て焼失し、文久元(1861)年に再建。		
11	17043	大悲山 正觀寺	神岡町西蒲山 (吉城郡)	元和8年	曹洞宗	元和8(1622)年、鶴鳴門が佐原地に創建。庵内の地蔵堂に安置された鷹の羽命地藏尊は、明治4(1871)年に百姓が投擲で使い上げ正觀寺に祀ったと伝わる。		

## 14 第6章 飛驒圈域の寺院

表14 飛驒市参考寺院一覧表(2)

番号	寺院 寺号	史跡	山(里)号 寺院名	所在地 (旧町名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
12	17048	慈願山 神岡寺	神岡町和佐 保(古城郡)	不明	曹洞宗	成立時期不明。17044光円禪寺の本教所として成立。大心季道開山。寺が所在する前平地区は歐山関係者が生活していたが閉鎖となつたため和佐63(1988)年に廃寺。		
13	17055	寺林薬師堂	神岡町吉林 (古城郡)	不明	不明	成立時期不明。飛驒匠の建立と伝えられる。薬師堂しく明治18(1885)年に改築。	g	
14	17057	利光山 薬師堂	神岡町東雲 (古城郡)	享保3年	不明	東雲薬師堂とも。享保3(1718)年今押巣が開山し成立。両全寺(麻生野)の支配下になることにより。仏龕は飛仏施教から遡る。現在は薬師堂のみ現存。		
15	17058	利佐保の地蔵 堂	神岡町和佐 保(古城郡)	昭和30年	不明	成立時期及び沿革不明。昭和30(1955)年、神岡駁葉所の海岸岸建設地に堂が所在したため、現在の神明社の参道入口へ移転。		
16	17059	朝祖不動院	神岡町朝祖 (古城郡)	不明	不明	成立時期及び基本不詳。堂がある蘿音山山麓の本動谷は寺敷数と呼ばれ、かつて御前寺・朝祖宮の寺宇(眞言宗)があつたと伝う。明治時代中頃まで密教修行者の精進道場とされた。		
17	17060	土藏音堂	神岡町土 (古城郡)	不明	不明	尾根音堂とも。成化時期及び前半不詳。伝行高作の像を安置していたが危難に遭い、享保9(1724)年、昭和10(1935)年に堂再建。現在は木建物なく跡地のみ跡存。		
18	17061	東町薬師堂	神岡町東町 (古城郡)	不明	不明	成立時期不明。かつて白山山地に「廣瀬山大寶殿」があり、その年の裏山から上、御前寺・朝祖廟等を寺を含む多くの人が亡くなつたとき、残った人達が墓堂を建立して供養したのが始まりと伝う。		
19	17064	丸山軟迦堂	神岡町丸山 (古城郡)	元禄7年以 前	不明	元禄7(1694)年の裏地水帳に記載有。現在の堂は昔から「寺」と呼ばれた高井家が建てたもので、家にあった軟迦仏を安置。堂は火災(時期不明)により焼失し、再建。		
20	17065	三夜堂	神岡町朝祖 (古城郡)	江戸時代か	不明	成立時期及び沿革不明。堂の天井繪が江戸時代に活躍した萩原一山のものである。		

表15 下呂市寺院一覧表(1)

番号	寺院 寺号	史跡	山(里)号 寺院名	所在地 (旧町名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 歴史	分布図		
1	20005	御川山 東林寺	金山町岩瀬 (郡上郡)	享保12年	天台宗→ 真宗	雄長7(1255)年成立。1900年長瀧寺(郡上市)で出家した祐西は天台宗に帰し、その後一寺を美濃国馬郷村寺前・寺屋敷付近(下呂市馬場瀬)に居住して法を説いていたが、圓鏡聖人の教化により転向。享保12(1727)年に現在地へ移転したと伝う。						
2	20006	雲洞山 福應寺	小坂町大字 幕合(益田郡)	元禄9年	真宗	正和(3)(1314)年覚性(寺名)に草創(2006b)を説く。大永年間(1521)～1526)、越後國開闢令主となり、賀賀智の寺号許可。元禄9(1696)年の火災で焼失し、移転。正徳17(1713)年、14才で了(り)じと、本願寺派と結ぶ。元禄10(1717)年、本願寺派の法主である了(り)じの子の了(り)じが開基。元禄10(1717)年に開基寺号となり、開基寺(1717)年より寺号を「福應寺」から「慈雲寺」へ改称。移転元不詳。						
3	20006b	福應寺旧境内	小坂町大字 幕合(益田郡)	正和3年	真宗	慈雲寺(1717)年より寺号を「福應寺」へ改め。元禄10(1717)年より本願寺の脱出派となり、明和4(1767)年、本願寺より福應寺の山号を贈て本光寺となる。				GB		
4	20007	竹林山 慈雲寺	萩原町山之口 (大野郡)	天文11年	真宗	明心が郡上郡川上村に草庵を営び、天文元(1581)阿弥陀如来像、寛弘十六年(1609)第六代名号を授ける。天文11(1612)年、現在地へ移転。寛文(1611)年より寺号を「慈雲寺」から「慈雲寺」へ改称。移転元不詳。				GB		
5	20008	大木山 淨妙寺	小坂町小坂 (益田郡)	大永4年頃	真宗	圓基西奔は大永(1521)年千光寺に入り、真言を学ぶ。同(1524)年、元日照應寺の化名により般若、真宗の寺とな。				GB		
6	20009	本松山 朝乘寺	萩原町因美 (益田郡)	中世	真宗	永正16(1519)年、延了が中志見に真宗の道場を開設。当寺四壁、淨念の時、現在地へ移転。	g			GB		
7	20010	白雲山 桂林寺	馬鹿數河内 (益田郡)	不明	天台宗→ 真宗	光明2(1186)年、北濃郡上郡長坂寺で天台宗に帰属した静空が萩原本郡に草庵を営み、文正5(1213)年に転向。正保2(1646)年、小坂林寺に改称。而爾川を挟んで位置する旧跡(20010a)は現在在宅で消え。移転時期不明。					BB	
8	20010b	桂林寺旧境内	馬鹿數河内 (益田郡)	文治2年	天台宗→ 真宗	光明2(1186)年、北濃郡上郡長坂寺で天台宗に帰属した静空が萩原本郡に草庵を営み、文正5(1213)年に転向。正保2(1646)年、小坂林寺に改称。而爾川を挟んで位置する旧跡(20010b)は現在在宅で消え。移転時期不明。					BB	
9	20011	光明山 賢智寺	萩原町宮田 (益田郡)	昭和6年	正和3(1314) 年覺性が落成する(2001c・2000dと同様)を 継続。大永年間(1521～1526)越後國開闢令主となり、賀賀智の寺号許可。元禄9(1696)年火災に遭い、翌年現在の2006b福應寺の場所へ移転。正徳3(1713)年に本願寺派(2006b福應寺)・大谷派に分派し、種家の11代が大谷派に転向。このとき、福應寺は開基寺と並んでいたとい(2001b)。昭和6(1931)年に現在地へ移転。						GB	
10	20011b	賢智寺旧境内	小坂町大字 幕合(益田郡)	元禄10年	真宗	正和3(1314) 年覺性が落成する(2001c・2000dと同様)を 継続。大永年間(1521～1526)越後國開闢令主となり、賀賀智の寺号許可。元禄9(1696)年火災に遭い、翌年現在の2006b福應寺の場所へ移転。正徳3(1713)年に本願寺派(2006b福應寺)・大谷派に分派し、種家の11代が大谷派に転向。このとき、福應寺は開基寺と並んでいたとい(2001b)。昭和6(1931)年に現在地へ移転。						GB
11	20011c	賢智寺旧境内	小坂町大字 幕合(益田郡)	正和3年	正和3(1314) 年覺性が落成する(2001c・2000dと同様)を 継続。大永年間(1521～1526)越後國開闢令主となり、賀賀智の寺号許可。元禄9(1696)年火災に遭い、翌年現在の2006b福應寺の場所へ移転。正徳3(1713)年に本願寺派(2006b福應寺)・大谷派に分派し、種家の11代が大谷派に転向。このとき、福應寺は開基寺と並んでいたとい(2001b)。昭和6(1931)年に現在地へ移転。						GB	
12	20012	普提山 妙覺寺	萩原町萩原 (益田郡)	宝曆2年	真宗	文亀3(1503)年、兼正坊哲元により萩原村下隈敷に成立。正徳6(1716)年妙覺寺の寺号許可。元禄3(1710)年洪水にて残らず流失。宝曆2(1732)年、現在地に御堂再建。						
13	20013	光頂山 本興寺	萩原町尾崎 (益田郡)	明応元年	真宗	明応元(1492)年、現在地に古くからあった天台宗の寺を真宗の道場とした。宝暦3(1623)年、永興寺の寺号許可。	g, H			GB		
14	20014	靈池山 蓮光寺	馬鹿數石墨 (益田郡)	天保年間	真宗	成立時期不明だが、繪像阿弥陀如来坐像や大谷本願寺鉢蓮如書印伝書に「長享三(1469)年己酉六月十九日」と有。寛享2(1685)年寺号許可。寺伝では天保年間(1830～44)に現在地へ移転。旧跡の現状は休耕地。					BB	
15	20014b	蓮光寺旧境内	馬鹿數石墨 (益田郡)	長享3年頃	真宗	成立時期不明だが、繪像阿弥陀如来坐像や大谷本願寺鉢蓮如書印伝書に「長享三(1469)年己酉六月十九日」と有。寛享2(1685)年寺号許可。寺伝では天保年間(1830～44)に現在地へ移転。旧跡の現状は休耕地。					BB	

表16 下呂市寺院一覧表(2)

番号	寺院 番号	史跡	山(里)号 寺院名	所在地 (山地名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 略歴	分布図	
16	20015	雪雲山 光雲寺	萩原町上呂 (益田郡)	大永3年	真宗	大永3(1523)年、開光により道場成立。元禄5(1692)年「開光坊」の寺号を、明和元(1764)年「光雲寺」の寺号を授かる。	G	BB			
17	20016	吉田山 長谷寺	小坂町 (益田郡)	古代	臨済宗	伝行基開山。康永元(1342)年源宗再興と荒死し、寛永年間(1624~44)香道再興。寛政11(1799)年に焼失し、天保年間(1830~44)G、H、石仏に再建。	G、H	BB			
18	20017	本立山 昌満寺	金山町東音 瀬(郡都)	明治年間	臨済宗	宝祐2(1250)年、東京縁が昌満寺と另一寺を建立。明応3(1494)年、1101年輪林寺の宝照を祀り開山。明治年間(1865~85)G、Hに移転。寛文4(1664)年、寺号改称。	G、H				
19	20018	神龜山 万福寺	金山町中津 瀬(益田郡)	仲永元年	臨済宗	仲永元(725)年春遷開基、七堂伽藍を有した。天文7(1539)年二木本堂が再興し、栄天慧照を請じて開山。寛永年間(1624~44)に万福寺に改称。	G、H	JB			
20	20019	碧玉山 温泉寺	南ノ島 (益田郡)	文永2年	臨済宗	文永2(1265)年、村老が薬師像を草叢に安置。寛文11(1671)年、珊瑚粗金により寺成立。今、寺号を付す。				BB	
21	20020	瑞定山 林泉寺	金山町菅原 根原(武儀郡)	貞享元年	真言宗→ 臨済宗	本文参照					
22	20020b	林泉寺旧境内	金山町菅原 (武儀郡)	鎌倉時代					本文参照	62 KB	
23	20021	金剛山 延壽寺	官地 (益田郡)	不明	真言宗→ 臨済宗	永承2(1559)年、仁谷開山。權越桜洞跡主三木良賴開基。前身である真言宗福来寺の跡地(2002b1)が南へ約500mの場所にある。					
24	20021b	延壽寺旧境内	官地 (益田郡)	永祿2年	臨済宗					JB	
25	20022	光明山 東泉寺	火打 (益田郡)	不明	臨済宗	三木正頼、天文年間(1532~55)に当寺を開基、山号を切明山と称す。後光明山に改称。希庭玄惠を請じて開山。かつては圓鏡堂(今址)付近にあったというが、移転時期不明。					
26	20022b	圓鏡堂	桃石 (益田郡)	天文年間						JB	
27	20023	要仲山 玉藻寺	金山町中切 (益田郡)	古代	臨済宗	本文参照			本文参照	64 JB	
28	20024	鷹谷山 阿弥陀寺	御殿町 か	慶長年間 中世	天台宗→ 臨済宗	本文参照				19	
29	20024b	阿弥陀寺旧境内	御殿町 (益田郡)						本文参照	68 19	
30	20025	神護山 慈雲院	秉政 (益田郡)	中世	臨済宗	20035大慈善寺十二坊の一つ。同町八幡宮前の大別当だったが、慈善寺の廃寺と共に、2002慈雲寺の本寺となる。慶長5(1600)年弘教宗室を中興の始祖とする。					19
31	20026	龍澤山 華昌寺	萩原町上呂 (益田郡)	平安時代中 期	臨済宗	信により萩原町松原間に成立とされる。永和3(1377)年後円融、天久が再興し、「大雄寺(通因寺)」と命名。南禅寺御室竹藏院前を置いて開山。その後兵火により焼失し、享禄元(1526)年三木武頼が中呂に再興し、「龍澤山華昌寺」と改称。三木氏普慶寺とし、明慶慶元(1593)年に開山。移転時期不明。	G、H、石仏				BB
32	20027	春日山 應廟寺	東上田 (益田郡)	中世以前	臨済宗	成立時期不明。元は西方寺と称した。慶長3(1598)年玉置が再興し、現寺号に改称。2002春日山の園居であった。	G、H、石仏			18	
33	20028	鳴泉山 泰心寺	森 (益田郡)	建長元年	臨済宗	元は下呂八幡宮神社の別当。建長元(1249)年法印象を建て、多那と称し、後に持中寺とも称す。慶長2(1607)年、徒叔が今齊と、現寺号に改称。					18
34	20029	圓融山 大覺寺	萩原町上村 (益田郡)	明応元年	臨済宗	明応元(1492)年、内記頼定により萩原山大覺寺成立。常山邊を請じて開山。京都所司代寺派に属す。慶長2(1598)年玉置が再興し、2002妙心寺(萩原山)の園居となる。	G、H、石仏				BB
35	20030	龍水山 龍泉寺	萩原町上呂 (益田郡)	天文23年	臨済宗	永祐年間(1381~84)、奥田頼定により萩原山に「放生窟龍山遊沙門寺」成立する。寶道。天文23(1554)年、萩原開城主三木良頼が現在地へ移し再興し、仁谷智勝を中興開山とし、現寺号に改称。移転時の詳細不明。					BB
36	20031	金山 長福寺	金山町金山 (武儀郡)	中世か	曹洞宗	天文14(1545)年、長政により藤原山長福庵成立。正保元(1645)年長福寺改称し、享保13(1728)年山号を金山と改む。元は500m東側にあったというが、移転時期不明。					BB
37	20034	市 (正福寺跡)	萩原町羽根 (益田郡)	古代か	不明	成立時期不明だが、伝行基開山。永祿(1558~70)~天文(1573~90)年間に庵寺か。現状は、豪農平賀村公園となっている。中世G、Hに石塔が残る。					BB
38	20033	(王跡寺跡)	萩原町宮田 (益田郡)	不明	不明	成立時期不明。一説開創と称し、玉置寺とも呼ぶ。2003龍泉寺を受持。現在の藤・森觀音堂付近にあったと思われる。杜跡として遺跡登録されている。					GB
39	20035	県 大威德寺 (大威德寺跡)	御殿町 (益田郡)	御殿時代	天台宗	本文参照			本文参照	70 19	
40	20036	市 (金谷山古墓)	金山町金山 (武儀郡)	元龜3年	不明	移転道場で、八幡神社(阿彌八幡神社?)の別当が代々掌る。元龜3(1572)年から文化11(1814)年九代に亘って続いた。現状は山田城で宝篋印塔が一基あるのみ。					BB
41	20037	市 (白土神社遺跡・林 耕原発見地)	萩原町野上 (益田郡)	古代か	不明	沿革等不明。古代の祭祀遺跡を繼承したものと言われている。大正時代(1912~26)に本殿移転中、底から古墳・経塋・剣刀が発掘された。					BB
42	20038	自得庵	金山町菅原 (武儀郡)	文禄2年	不明	文禄2(1593)年光賀開基。承応2(1653)年長尾道寿により永持本寺庵開基が再興。元禄年間(1688~1704)廢寺。位置不明。					

## 16 第6章 飛騨圏域の寺院

表17 下呂市寺院一覧表(3)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在地 (里地名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構	調査 時期	分布図
43	20040	東方山真福寺		萩原町中呂(益田郡)	天文11年以前	不明	天文11(1542)年本尊薬師如来を守護する十二三尊像を。当寺金毘羅(きんぱら)が空蔵。弘法大師が開基作佛を行った記録有。戦国時代の頃は七堂伽藍を有すも、次第に荒廃。位置不明。			
44	20041	真乗寺		萩原町中呂(益田郡)	中世	真言宗	成立時期及び沿革不明。現寺後に2002年釋昌寺の前身である大雄山圓通寺が建立された可能性がある。詳細な位置不明。			
45	20043	星銅院		萩原町桜洞(益田郡)	天文元年	臨濟宗	天文元(1332)年、三木直綱により桜洞裏外に釋昌寺の塔頭として成立。母舟宗が創始とした。位置及び歴史時期不明。			
46	20060	福春庵		萩原町中呂(益田郡)	天文18年	不明	天文18(1549)年大庭氏が美濃權源元を招き成立。萩原町中呂六所神社の境内にあつたが、天文19(1550)年の大火によって埋没したとされる。詳細な位置不明。			
47	20061	御前織音(玉音閣音)		萩原町桜洞(益田郡)	水縁10年塙か	不明	御前山(ひの前に水縁10(1567)年安置の織音尊像がある。岐阜城から正北方に位置することから、信長草在城の際に築門除のため建てられたと伝う。		HP	
48	20062	市営摩河山(おんまかさん)念佛岩		少ヶ野(益田郡)	寛永元年	曹洞宗	摩河山の上で大悲修行に励んでいた時、阿弥陀如来が垂れ下した伝説有。その念仏石に垂涎を呑た宗祇源顕が安永元(1772)年に開基したという。安永5(1776)年以前、境内が整った。			
49	20067	宗授院(下切跡跡)		金山町中切(益田郡)	中世か	臨濟宗	上土十兵衛建立。直井勘右衛門開基で2002年釋昌寺下寺と考えられる。下切跡発掘調査で中世物跡が見つかった。		J8	
50	20068	(大門寺跡)		萩原町宮田(益田郡)	中世	不明	成立時期不明。中世の社寺跡として遺跡登載されている。		G8	

表18 下呂市参考寺院一覧表(1)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在地 (里地名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、遺構
1	20003	三井寺	森(益田郡)	不明	真言宗	中津川市にあつたが。平成21年に大火で焼失した後、山王坊の住職が兼務住職を務める。		
2	20039	平泉寺	金山町菅原(武儀郡)	不明	不明	寒沢宇治山に「平泉寺」があつたという伝承有。位置不明。		
3	20042	真勝寺	萩原町萩原(益田郡)	不明	真言宗	成立時期及び沿革不明。現在の高山藤原脚萩原駅付近一帯の河岸段丘上にあつたと言われている。位置不明。		
4	20044	無量寺	萩原町中呂(益田郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。阿弥陀堂屋敷とも呼ぶ。位置不明。		
5	20045	松竹庵	萩原町中呂(益田郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。2002年釋昌寺の門前周辺にあつたというが、位置不明。		
6	20046	慈眼庵	萩原町上村(益田郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。上村公民館の北側に慈眼庵がある。		
7	20047	少林庵	萩原町上村(益田郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
8	20048	比丘尼寺	萩原町上村(益田郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
9	20049	律国寺	萩原町上呂(益田郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
10	20050	大光坊	萩原町上呂(益田郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
11	20052	禪應寺	萩原町上呂(益田郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。宮田地区に字「寺の下」があり、昔から「ぜんのじ」と呼ばれている。位置不明。		
12	20054	薦達寺	萩原町宮田(益田郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
13	20055	達磨堂	萩原町宮田(益田郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
14	20056	繼泉寺	蛇之尾(益田郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
15	20057	延寺	田口(益田郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
16	20058	長慶山懸音寺	金山町下原町(益田郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。金山町下原町に懸音堂があるが、その数百m北にあつたという。		

表19 下呂市参考寺院一覧表(2)

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在地(里地名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、道構
17	20059	玉蓮寺	金山町羽根 (益田郡)	不明	不明	20034正福寺の塔頭ともいわれている。成立時期、位置不明。		
18	20063	尼寺	東政 (益田郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。農園の山側にあったとされるが、寺院に関する道構は確認できない。		
19	20064	長尾岩寺	東政 (益田郡)	不明	不明	成立時期及び沿革不明。位置不明。		
20	20065	福昌庵	金山町中切 (益田郡)	中世か	臨濟宗か	成立時期不明。20033玉龍寺の末寺。宝暦10(1760)年の史料に寺名の記述あるという。		
21	20066	薬師堂	金山町中切 (益田郡)	中世か	臨濟宗か	成立時期不明。20033玉龍寺の末寺。宝暦10(1760)年の史料に寺名の記述あるという。		

表20 白川村寺院一覧表

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在地(里地名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、道構	調査略歴	分布図	
1	42002	八若山 蓮光寺	小白川 (大野郡)	不明	真宗	本文参照	文龜年間(1501~04)浮舟開基により成立。延享2(1745)年教尊寺に改称(当住本寺より寺号を移す)。天正元年の大火に遭い、頼為正蓮光ゆかりの現在地へ移転。移転元不明。		86		
2	42002b	蓮光寺境内	小白川 (大野郡)	応永5年							
3	42003	鶴谷山 鶴谷寺	鶴島 (大野郡)	文龜年間	真宗	文龜年間(1501~04)浮舟開基により成立。延享2(1745)年教尊寺に改称(当住本寺より寺号を移す)。天正元年の大火に遭い、頼為正蓮光ゆかりの現在地へ移転。移転元不明。					
4	42004	鶴光山 法蓮寺	鶴谷 (大野郡)	文龜2年	真宗	文2(1502)年、平左衛門が道場を開設。延歟開基。正徳2(1712)年当住駿歟本寺より寺号を得る。			06		
5	42005	香入寺	柳原 (大野郡)	永正元年	真宗	永正8(1511)年、英吉が道場を開設。延享2(1745)年寺号を得る。また、永正元(1504)年西園基の謀も有。			06		
6	42006	金剛山 淨業寺	長瀬 (大野郡)	天文5年	真宗	天文4(1524)年浮舟が御門が道場を開設。享保10(1725)年当住諱教本寺より寺号を得る。また、天文5(1536)年淨西園基の謀も有。			06		
7	42007	福雲山 淨蓮寺	大牧 (大野郡)	不明	真宗	天文5(1536)年、光亮が保木林に道場を開設。大宇野荘・兵庫城内ヶ島氏により他さわちにあり。明治3(1890)年某家が開蓮寺に改称。明治4(1891)年に大牧へ移転。時にダム建設に伴い古屋千種区に移転し、現在は伊勢市に移転している。位置不明。					
8	42008	光明山 常勝寺	平瀬 (大野郡)	大永2年	真宗	大永2(1522)年作の勅内が道場を開設。寛永元(1711)年当住諱教本寺より寺号を得る。永正13(1516)年開基の謀も有。			06		
9	42010	村 蓮受寺 (蓮受寺境内 跡)	加賀良 (大野郡)	文龜3年	真宗	本文参照			76	06	
10	03035b 03036b	村 正運寺 (新念坊道場跡)	鶴島 (大野郡)	文永6年	真宗	文永6(1269)年、善海開基により塙谷に成立。後、飯島へ移して慈念坊道場を正運寺に改称。文明年間(1469~70)帰雲城主内ヶ島氏により他さわちにあり。明治3(1890)年某家が開蓮寺に改称。永元1(1596)年庄内村中野(高山市)に移転し、「光耀山照運寺」に改称。昭和33(1958)年、御母衣ダム建設で本堂等は高山市に移転(03035・03036)。				06	
11	42013	称名寺	尾神 (大野郡)	不明	真宗	延徳元(1489)年六郎右衛門が道場を開設。文龜年間(1501~04)若しくは永正12(1513)年休門基。元3(1738)年当住寺より寺号を得る。昭和3(1963)年御衣ダム建設に伴う集落遷移により廃寺。位置不明。					
12	17010b 03015b	カンショウジ	萩町 (大野郡)	享徳年間	真宗	享徳年間(1492~55)祐念開基により、御戸間に明林坊を成立。後、古川町に移り、その後17010真宗寺(飛騨市)と03015仲通寺(飛騨市)に分かれた。					

表21 白川村参考寺院一覧表

番号	寺院番号	史跡	山(里)号	所在地(里地名)	建立時期	宗派	沿革等	遺物、道構
1	42001	光明山 本覚寺	萩町 (大野郡)	不明	真宗	もとは高山照運寺末寺の森町道場として大谷原であったが、延宝8(1680)年に本願寺領に転化。その際に本尊と名号を取り上げられるが、貞享元(1684)年に寺院として成立し、元禄7(1694)年には本尊と寺号を得る。		
2	42009	原山 明善寺	萩町 (大野郡)	元文元年	真宗	延宝8(1680)年、42001本覺寺転宗の際、白川正運寺は本尊と名号を取り上げ、転化しない同行に属する。元文元(1736)年西園が道場を買取り明善寺を名乗り、延享元(1744)年寺号を得る。		
3	42012	信舟寺	馬狩 (大野郡)	元和9年か	真宗	寛永年間(1624~45)若しくは元和9(1693)年西園開基。延享2(1745)年に当住西円本寺より寺号を受ける。昭和2(1977)年御衣ダム建設で廢寺。本堂は昭和37(1962)年に合掌造り民家(白川村萩町)に移築されているが、寺の位置不明。		
4	42014	覚聰寺	飯島宇下田 (大野郡)	正徳年間	真宗	正徳年間(1711~16)高桑与助が道場を開設。明治13(1880)年に寺号を得る。明治20(1887)年に经营困難のため廃寺。		



第3節 寺院地形観察図  
遺構図  
地籍図

高山市  
飛騨市  
下呂市  
白川村

## [高山市]

地区	飛騨	寺院番号	03003	県遺跡番号	21203-595	分布図番号	D9
ふりがな	けさざんせんこうじ (せんこうじあと)			所在地	高山市丹生川町下保		
寺院名 (史跡・遺跡名)	袈裟山千光寺 (千光寺跡)						
時代区分	古代(白鳳)～			宗派	真言宗		
立地	山腹			現状(植生)	境内地・山林 (アカマツ・ミズナラ)		
東西規模	200m	南北規模	575m	標高(比高差)	835 (235) m	平坦面面積	A+D
沿革	千光寺の草創を伝える伝承は古く、『日本書紀』では仁徳天皇 65 (377) 年に難波根子武振熊によつて誠ばされた両面宿儻と結びつけて記載されている。養老年間 (717~724) に白山を開闢したとされる泰澄、あるいは平城天皇の第三皇子である真如 (高丘親王 799~865) が開基したとされる。また、養老 4 (720) 年には、泰澄がこの山に白山神を招いたとも伝えられ古くからすでに届指の墨跡だった。寺伝によると、かつて山号は位山であったという。天文 15 (1546) 年三木直頼が千光寺の堂宇を再建し、大鐘を铸造したとある。しかし、戦国時代には衰運をたどり、永禄 7 (1564) 年甲州武田の軍勢に攻め立てられ、堂宇はすべて灰燼に帰した。その後千光寺は三木氏の滅亡により力を失ったが、天正 16 (1588) 年に金森長近が由来を聞いて感動し、再興した。						
造構	一						
遺物	一						
有形文化財等	梵鏡、鷲口 (県指定、室町) 、白紙墨書大般若経 (県指定、鎌倉) 、阿弥陀如来三尊像繪画、藤原定家和歌 (市指定、平安) 、姉小路家綱和歌、玄海記、御室御所合旨、菊花御文章両掛 (市指定、室町) 、大日・不動明王鐵世音菩薩繪画 (市指定、室町) 、両面宿儻石像 (市指定、室町) 、飛州図誌 (江戸)						
参考文献	大下永 2018 「飛騨における中世山寺の空間構造について」『斐太記』(平成 30 秋季号通巻第 20 号) 飛騨学の会、高山市教育委員会 1995 『岐阜県高山市遺跡地図』、丹生川村 2000 『丹生川村史』(通史編 I) 、濃飛展望社 1977 『飛騨寺院風土記』						
備考	千光寺跡は普門院跡とともに松倉城のふもとにある中世の遺跡とされているが、詳細は不明である。 『飛州志』には「千光寺跡 大野郡西一色村松倉山ニアリ是往古三木大和守自綱松倉居城ノ時岡郡下保村袈裟山千光寺ノ里坊跡也」、「普門院跡 同村ニアリ千光寺塔頭ノ跡也」と記されている。						

**調査所見** 現境内には南向きの本堂と鐘楼堂、愛宕堂、弁天堂、山門、宿儻堂があり、庫裏の背後には、白山社跡と伝えられる平坦面が広がる。本堂のある主要平坦面は、東西約 250m に展開する。隣接する平坦面群は伝十三坊跡 (中世以前の塔頭、あるいは十九坊) とされているが、現在は複数の近代的な建物が建ち、法面も改変されている箇所が多い。

字鳥越にある鐘楼堂跡伝承地は、本堂から約 400m 南の約 70m 低い尾根の先端に位置する。本堂への旧参道と考えられる尾根道からは約 150m 離れている。伝承地東に位置する五本スギは国の天然記念物に指定されており、本尊と並んで千光寺の信仰の対象とされる。

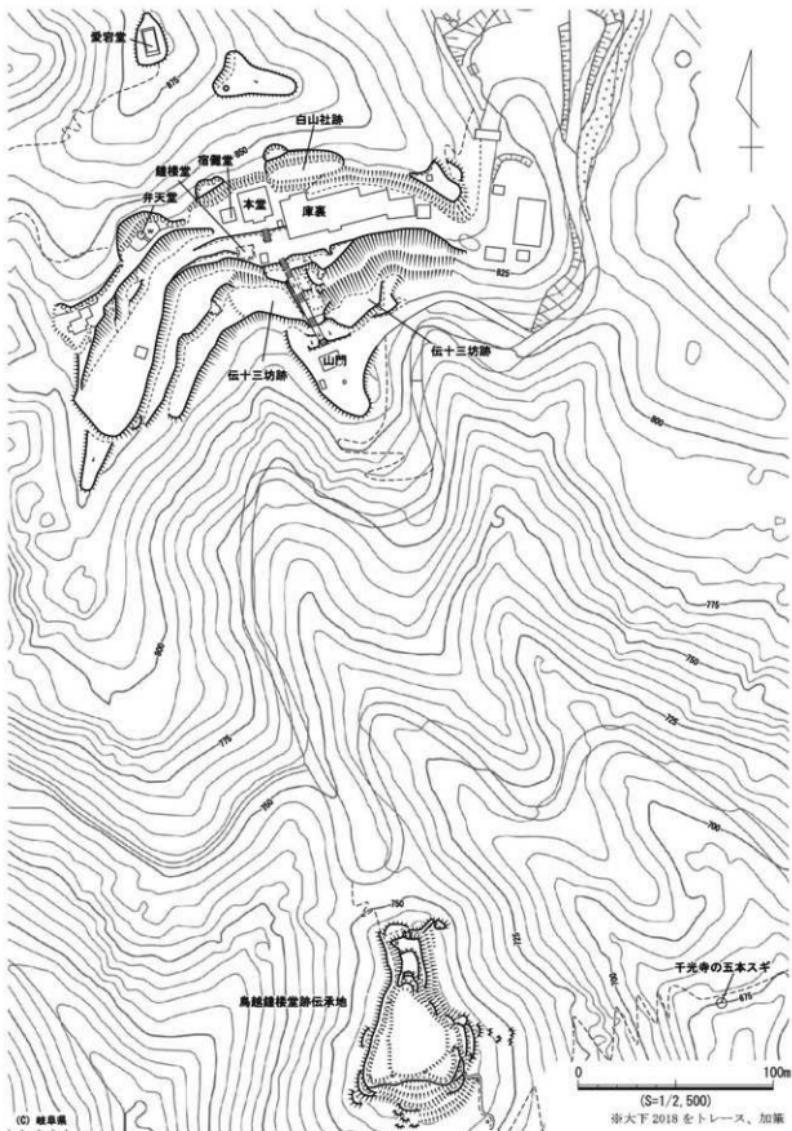


図2 鞍ヶ岳千光寺（千光寺跡） 地形観察図

地区	飛騨	寺院番号	03076	県遺跡番号	21203-06089	分布図番号	D8
ふりがな	たいへいざんあんこくじ(あんこくじはいじ)			所在地	高山市国府町西門前		
寺院名 (史跡・遺跡名)	太平山安国寺 (安国寺庵寺)						
時代区分	古代(奈良)～			宗派	宗派不明→臨済宗		
立地	山腹			現状(植生)	境内地		
東西規模	350m	南北規模	250m	標高(比高差)	569(30)m	平坦面面類	A
沿革	足利尊氏は、度重なる戦いで犠牲になった多くの貴族・公家・武士たちの供養をし、一方では、戦乱による数々の悪行を払う気持ちは、天下の泰平・国土安穏を祈る意味から、国ごとに安国寺と利生塔の建立を決意した。安国寺の前身は小(少)林寺という寺院であった(宗派不明)。貞和元(1345)年、光厳上皇の院宣により、安国寺という寺号に改め、臨済宗妙心寺派に改宗した。京都南禅寺の僧、瑞應光を開山として受け入れ、貞和3(1347)年に創建された。一説には、寛応3(1340)年3月18日の創立で開基は足利尊氏という。当時の寺の規模は尊氏の寄進で寺領300石、七堂伽藍と9つの塔頭を持つ大伽藍であり、その繁栄ぶりは東門前・西門前という字名が残っていることからも容易に想像できる。しかし、永禄7(1564)年兵火により、経蔵と開山堂以外の堂宇は焼失した。寛永元(1624)年南叟が再興し現在に至る。熊野神社は宝町時代前期の創建(飛騨地方最古の神社建築・国重文)で、江戸期までは安国寺の所管する神社であったとい。						
遺構	一						
遺物	単弁八弁蓮華文軒丸瓦(安国寺庵寺)、五輪塔、宝篋印塔						
有形文化財等	経蔵(国宝、宝町)、塑像瑞巖和尚坐像附木造須弥壇(国指定、宝町)、一切経並春日版大般若(県指定、嫌倉)、本尊釈迦牟尼仏脇侍文殊、普賢両菩薩(県指定、南北朝)、飛州図誌(江戸)						
参考文献	国府町史刊行委員会 2007『国府町史』考古・指定文化財編、国府町史刊行委員会 2008『国府町史』通史編I、国府村 1959『国府村史』全						
備考	一						

**調査所見** 現境内には南西向きの本堂と経蔵(応永15(1408)年建立)、庫裏、鐘楼、山門、薬師堂、開山堂、墓地などがある。寺の参道は、麓から一度東へ屈曲し、さらに北東方向に振ってその後は直線的に山門や本堂まで続く。山麓の参道入口から経蔵は、山の傾斜方向及び建物が正対して同軸線上に位置する。成立当時の旧境内の範囲については不明であるが、江戸時代後期に描かれた絵図『飛州図誌』に照合すると、再興されてからは2本の谷川に挟まれる現境内と概ね同じと考えられる。絵図には寺の西側に田畠が広がる様子が描かれている。絵図に描かれている本堂背後の薬王堂(現薬師堂)は現存しておらず、熊野神社は描かれていない。現在の熊野神社の社殿は西面しており、宅地・畠地の中を通る道が参道であり、道の途中には石塔が集められた場所がある。神社と本堂や経蔵の往来は現在も容易であることから、江戸時代以前には安国寺境内を通る参道があり社殿も南面していた可能性がある。



図3 大平山安國寺（安國寺虎寺） 地形観察図

地区	飛騨	寺院番号	03085b	県道番号	21203-6566・203	分布図番号	D8
ふりがな	せいほうじきゅうけいだい(せいほうじあと)	所在地	高山市国府町鶴巣・桐谷				
寺院名 (史跡・遺跡名)	清峯寺旧境内 (清峰寺跡)						
時代区分	中世～	宗派	天台宗→曹洞宗				
立地	山腹	現状(植生)	山林(その他広葉樹)				
東西規模	250m	南北規模	350m	標高(比高差)	582(70)m	平坦面面類	B+D
沿革	『飛州志』に「安峯山清峯寺跡、鶴巣村にあり。来由未詳」とあり、成立時期は不詳であるが、桐谷の獵の近いところに平安時代の中頃、天台宗の堂宇として建てられたとされる。応永18(1411)年、応永飛騨の乱の際、敵方に焼き払われたとの伝説がある。現在、山腹に堂跡が残っており、山下に上御堂・下御堂という地名が残っているという事実から、多くの末院を持ち、国府近辺の寺院を統括する大きな力を持った寺院であったことが推測される。国司紹小路氏基綱の菩提所として榮え、また鶴巣の寺山谷へ移したが、それもいつの時か焼失した。安政元(1854)年に、寺山谷では人家に遠くて不便であるとして、現在地に移転している。文久3(1863)年觀音堂を建立し、高山雲龍寺の末寺として曹洞宗に属し現在に至っている。						
造構	石積み、石組、畦、池						
遺物	五輪塔、宝鏡印塔						
有形文化財等	一						
参考文献	佐伯哲也 2018『飛騨中世城郭図面集』、桂書房、国府町史刊行委員会 2008『国府町史』通史編I、国府町史刊行委員会 2008『国府町史』史料編I、国府村 1959『国府村史』全、国府町教育委員会 1972『国府町の文化財』、濃飛展望社 1977『飛騨寺院風土記』						
備考	桐谷にある安峰山清峯寺跡は旧来「清峯寺奥の院跡」として遺跡登録されていた。下呂市萩原町上呂の久禄八幡宮に、正和2(1313)年清峯寺長光院で僧道覺などが写経した大般若經原本が伝わり、長龍院、長谷院、長光院の名が見える。応永26(1419)年天台末寺飛騨國清峯寺を宮内郷大僧都寿祐に奉行させたという記録がある。高山市上宝町荒原の白山神社所蔵の額口銘に「清峯寺白山權現 嘉吉元(1441)年九月六日」とある。						

**調査所見** 現境内には南西向きの本堂、観音堂、白山神社があり、寺跡はその北西にある。山麓から字寺山谷にある寺跡への参道は、谷川左岸の斜面を折り返しながら続く、参道を進むと、小規模の平坦面群が高低差を持ちながら谷の西向き斜面に扇状に展開する。本堂跡の可能性がある平坦面①には、礎石となり得る2個の平石が通路に並行して認められる。平坦面①の北側には伝紹小路氏墓、東側には石組を伴う方形の池跡がある。池跡の北には水路状の溝が繋がっている。西側下段の平坦面には法尻の通路に沿って畦状の高まりが認められる。最南端下段には谷へ向かう石組の水路が設けられた平坦面がある。平坦面①東側の白山神社跡は平坦面群の最高所に位置し、石碑が建てられている。神社跡への登り口は南面し南へ道が続いているため、寺境内を通らない独立した直線的な参道を推定できる。東の山際には、北へ向かう尾根道があり、『国府町史』では、尾根道の先にある曲輪跡を含めた範囲を寺院城郭として、清峰寺跡と関連付けている。

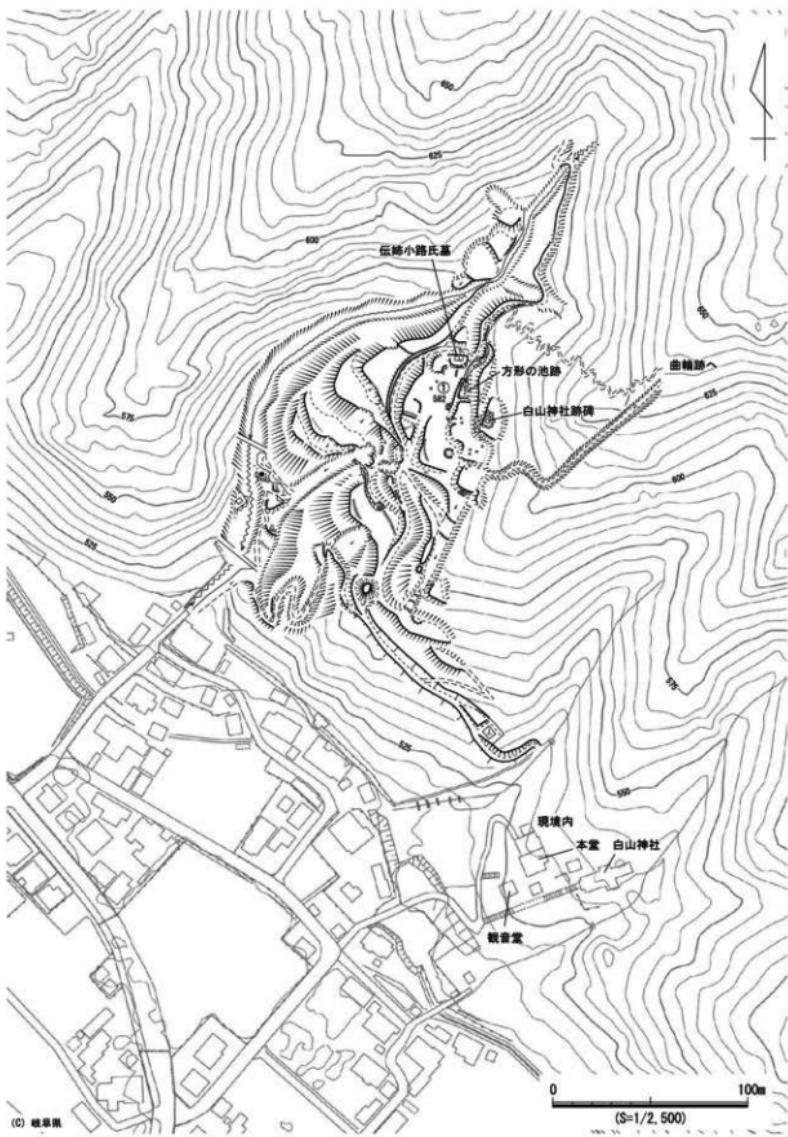


図4 清峰寺旧境内（清峰寺跡） 地形観察図

地区	飛騨	寺院番号	03112	県遺跡番号	21203-204	分布図番号	D8
ふりがな	よかわさんあんねいじ （よかわさんあんねい じあと）			所在地	高山市国府町半田字横川洞		
寺院名 (史跡・遺跡名)	横河山安寧寺 (横河山安寧寺跡)						
時代区分	中世(室町)			宗派		曹洞宗か	
立地	山腹			現状(植生)	山林(スギ・ヒノキ・その他広葉樹)		
東西規模	280m	南北規模	100m	標高(比高差)	630(100)m	平坦面面類	B+D
沿革	成立時期不明。古者の話によると、もと清峯寺の末寺ではないだろうかと言い伝えが残っている。昔、折敷地の支村である横尾に薬師如来が現れた。たまたま付近に適当な岩窟を発見したのをさいわいそこに安置し、これを仏岩と呼び、またその付近を仏平とも呼んでいた。後年ある人が、半田村字横川洞の山上に堂を建てて安置すると、人々はこの山を横尾山、坂を横尾坂と号するようになった。ところがいつか転じて横河山と号するようになったが、『斐太後風土記』はこのことに關し、次のように述べている。「折敷地村の横尾より出たる薬師如來なれば、横尾山と号すべきを、こざかしき法師等、延暦寺にならひて、比叡山の横河を取つて横河山と改め、延暦寺の如く金毘羅神を祭り、中堂に薬師を置きたるなるべし。」また『飛州志』及び『飛騨国中案内』にも、半田村に安寧寺跡のあることを記している。天文のころ、兵火にかかり諸堂悉く焼失したが、幸いにも如來は残ったので、寛文5(1665)年4月、安国寺中興の祖南叟宗安が、薬師仏とともに日光・月光の三尊をその寺内に迎え、横河薬師堂を再建した。いま寺跡には昔の礎石十九・古池・石仏などを残し、また安永8(1779)年には、堂屋敷から多くの宋錢をえた古銭五百文を落成した。						
遺構	基壇、礎石、池						
遺物	古銭、石仏						
有形文化財等	—						
参考文献	大下水 2018「飛騨における中世山寺の空間構造について」『斐太記』(平成30年秋季号通巻第20号)、国府町教育委員会 1972『国府町の文化財』、国府町史刊行委員会 2008『国府町史』史料編I、飛騨学の会						
備考	—						

**調査所見** 横河山安寧寺跡は東斜面山腹にあり、市指定史跡として再建された薬師堂とともに整備されている。『国府町史』によると、麓に近い谷横の平坦面は近世の安養寺跡とされている。参道中程の尾根の平坦面は二ノ曲輪とされ、横河山安寧寺跡の南西約150mに位置する安寧寺砦跡の一部である可能性がある。現在、薬師堂の建つ平坦面には本堂の基壇と礎石、池（心字池）が良好に残存している。この平坦面は安寧寺砦跡の一ノ曲輪ともされている。心字池には中島があり、水は西の斜面中腹にある湧水点から引かれ、池を通し谷川へ排水している。

安寧寺跡から南西に約100mの尾根上には鐘楼跡の伝承がある横川洞古墳があり、頂部には近世に建てられた石仏が確認できる。ただ、寺跡からの明確な参道は見出せず、隔絶した感がある。横川洞古墳からは尾根伝いに南へ下る参道があり、南山麓に位置する琴平神社へ繋がっている。神社近くの墓地には石塔（五輪塔、宝篋印塔）を多数確認できる。

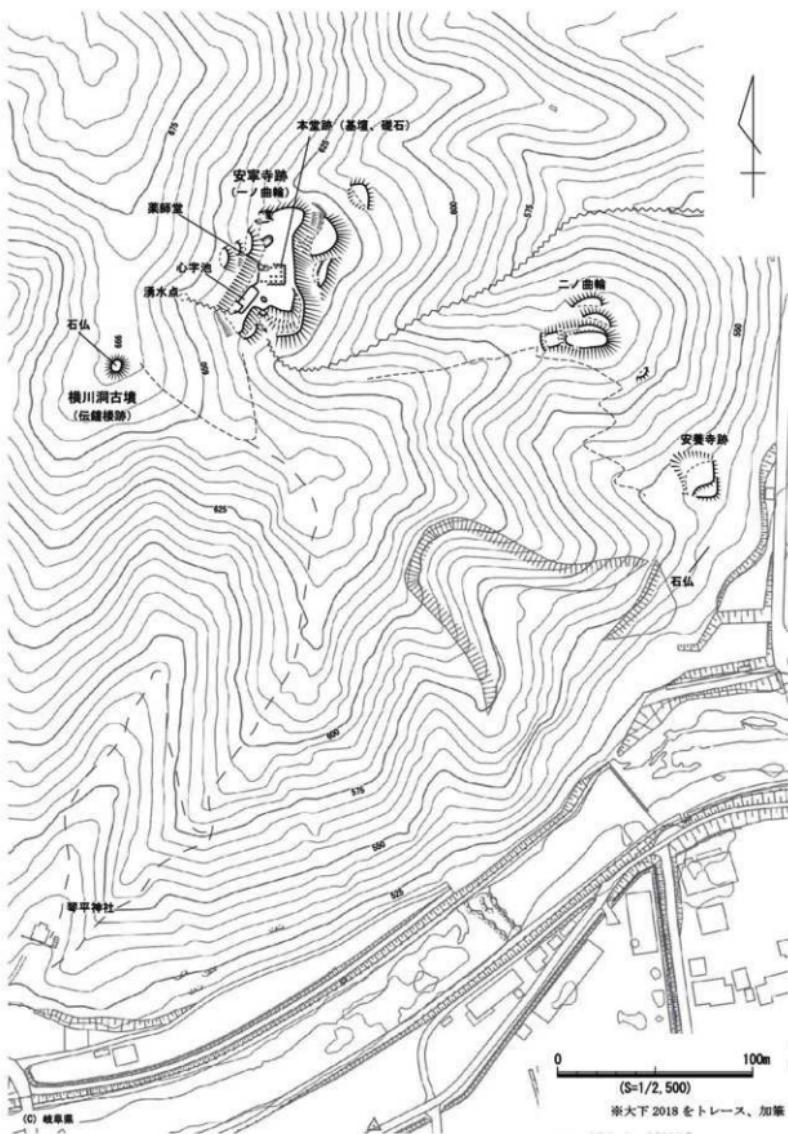


図5 横河山安寧寺（横河山安寧寺跡） 地形観察図

地区	飛騨	寺院番号	03115	県遺跡番号	21203-248・ 10417	分布図番号	D8
ふりがな	(こうじゅあんあと・こうじゅあんつちもん じょかんあといじいこう)			所在地	高山市国府町上広瀬		
寺院名 (史跡・遺跡名)	(光寿庵跡・光寿庵土門城館跡類似遺構)						
時代区分	古代(白鳳)、中世		宗派	真言宗か			
立地	山腹		現状(植生)	山林(ミズナラ)			
東西規模	400m	南北規模	400m	標高(比高差)	642(120)m	平坦面分類	B+D
沿革	真言宗の寺院であったとの伝承があるが、断定できない。成立時期は不明であるが、室町時代以降、この光寿庵は広瀬氏の菩提寺であったとの伝承が残り、代々広瀬氏によって整備された寺院跡と考えられる。光寿庵へ登る字下垣内に二十数基の五輪塔及び宝篋印塔があり、広瀬氏代々の墓との言い伝えが残っている。付近には大門、馬場、だんど(不斷道)などの地名が残っている。長野県王坂村資料館所蔵の榜口に「飛州広瀬向上庵地藏堂永享8(1436)年8月24日」と銘文があることから、光寿庵は永享8年まで存在していたことが分かる。応永18(1411)年、姉小路伊綱戦死の後、その妻女がこの地に隠れ住んで、夫の菩提を弔ったという伝承(「村山色鎮座脅原天満宮縁起」)がある。						
遺構	礎石、池、基壇、土堤、周溝、石組						
遺物	軒丸瓦2型式、軒平瓦2型式、戲画線刻瓦、須恵器、五輪塔、宝篋印塔など						
有形文化財等	光寿庵跡出土瓦(諏訪神社所有)(黒指定、奈良)						
参考文献	国府町教育委員会 1972『国府町の文化財』、国府町史刊行委員会 2007『国府町史』考古・指定文化財編、国府町史刊行委員会 2008『国府町史』通史編Ⅰ・史料編Ⅰ、佐伯哲也 2018『飛騨中世城郭図面集』、桂書房、高山市教育委員会 2016『高山市史』先史時代から古代編(下)、吉城郡国府村 1928『国府村紀要』、吉城郡国府村役場 1959『国府村史』全						
備考	かつて壇地であった時に礎石が発見され、瓦片などが採集された。遺構の状況は不明である。瓦類は、軒丸瓦2型式、軒平瓦2型式、戲画線刻瓦などが出土している。石橋廻寺や名張廻寺に同様のものが出土している。石橋廻寺を下寺、光寿庵跡寺を上寺と呼称したようである。 光寿庵跡出土の瓦を諏訪神社が所有しているが、光寿庵との関係は明らかではない。						

**調査所見** 光寿庵跡として市指定史跡にされている平坦面①には2か所に池があり、その後背にも平坦面を確認できる。東面には石積が一部残存し主要堂宇跡と思われる。2箇所の池は繋がっており、10m程西へ行った上段の湧水点から取水されている。平坦面①から南へ約80mの高台に南面する平坦面②には、中央に石塔の他、石組を伴う基壇、土壘、L字溝を確認できる。石塔を祀る石組は1.6m四方、基壇状の高まりは6m四方、外周の石組を伴う基壇は12.5×12.9m、土壘は幅1.6m、溝は幅2mである。基壇は姉小路氏墓所(佐伯2018)とされており、妻女が菩提を弔ったという伝承によるものである。平坦面①から東へ約60mにある土門(光寿庵土門城館跡類似遺構)はL字に屈曲し、通路からの高さは2m以上ある。土門には礎石の可能性がある平石を1点確認できる。土門から下る参道脇には小平坦面群が見られるが、近年の耕作によるものと考えられる。

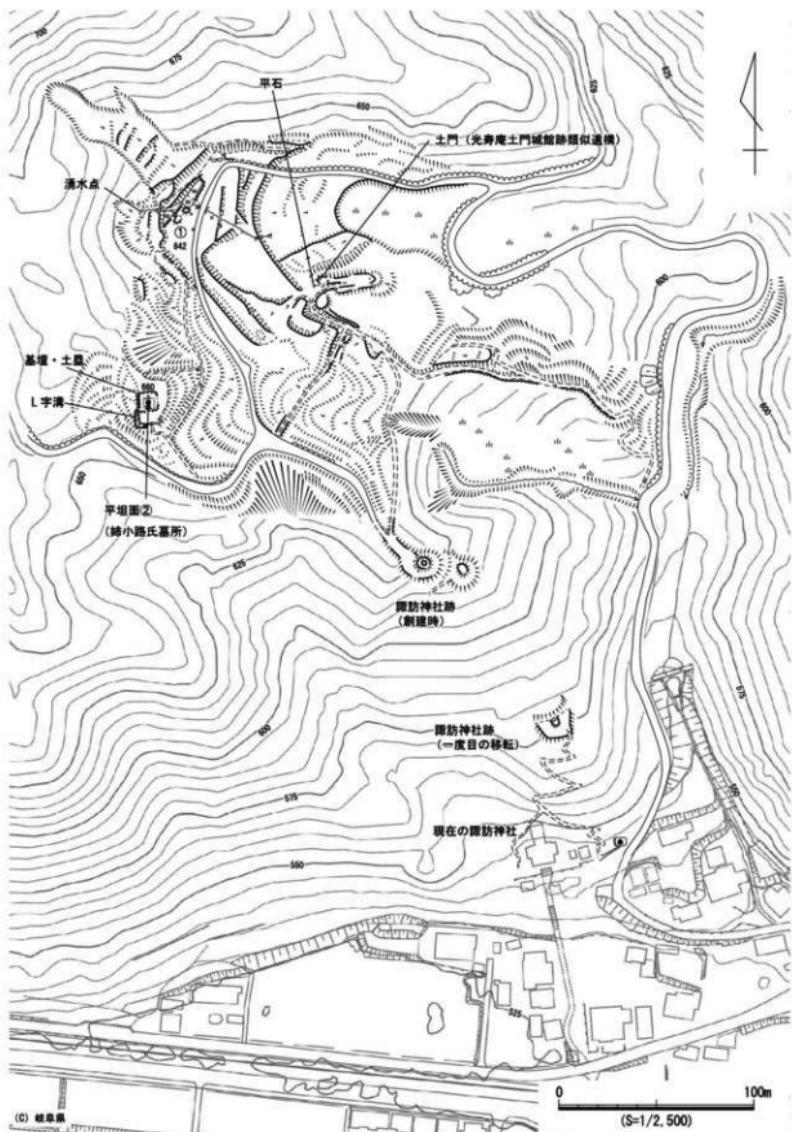


図6 光寿庵跡・光寿庵土門城館跡類似遺構 地形観察図

地区	飛騨	寺院番号	03120	県遺跡番号	21203-9611	分布図番号	E9
ふりがな	しょうしんあん（いしはらいせき）	所在地	高山市一之宮町字石原				
寺院名 (史跡・遺跡名)	照心庵 (石原遺跡)						
時代区分	中世	宗派		不明			
立地	山麓	現状(植生)		宅地・畠地等			
東西規模	130m	南北規模	130m	標高(比高差)	640(0)m	平坦面面積	不明
沿革	成立時期は不明である。「仁安元（1166）年飛騨國惟物未進注進狀」には、「七反一宮御供田 三反同宮般若會田」「一丁一宮最勝講田」とあり、鎌倉時代以前から一宮水無神社に神宮寺が併置されていたと思われる。また一宮神社に奉納され所蔵されていた経典の後書きに、「貞治2（1363）年7月16日、於飛州一ノ宮照心庵写經之畢、乘船（花押）生三十八」とあり、別經には、「伴雲庵公用花哲書、貞治3戌（1364）年卯月18日」とあって、南北朝時代には、一ノ宮神社坪ノ内に照心庵、付近に伴雲庵という寺院の草庵があったとされる。照心庵はもともと水無神社境内坪之内にあったもので、正平17（1362）年2月、僧乗船がここで摩訶般若波羅密多經を写して奉納したとある（『飛騨編年史要』）。						
造構	仁王門跡						
遺物	須恵器、灰釉陶器、常滑産陶器						
有形文化財等	一						
参考文献	岡村利平 1969『飛騨編年史要』、大衆書房、宮村 1968『宮村史』全、宮村 1990『宮村のむかし話』、宮村 2003『新版宮村遺跡地図』、宮村 2004『宮村史』通史編一巻、山本喜男 1995『清見村誌』資料編上、清見村教育委員会						
備考	坪之内は神社の北に隣接した凡そ330アールの地で今は畠地になっている。 一宮水無神社のHPによると、文明年間（1469～1486）の頃には、一宮水無神社に十二家の祝があり、一官家や山下家を中心に一宮党が組織され武士化していた。						

**調査所見** 鎌倉時代以前から存在したとされる神宮寺の位置は不明であるが、一宮水無神社境内から①の平坦面の範囲で中世から近世にかけて度々変更されたと推測する。照心庵は石原遺跡の範囲内にあったと考えられ、推定地である坪ノ内は現在水無神社の駐車場と畠になっている。近隣住民への聞き取りによると、付近に仁王門、仁王像があり、それらが移動した後、残った礎石は稻わらを打つ作業などに使っていたが、その後水無神社に移されたという。伝仁王門跡から水無神社へ向かう道は桜井道と呼ばれて一宮参道跡とされており、照心庵の境内に接する参道の旧状を残しているものと思われる。薬師洞から小川が流れていた当時、桜井道には橋として使われていた石が2つあり、どちらも2箇所の痛みがあり、人が歩いて擦れた様な痕跡も確認できる。現在は薬師洞からの小川ではなく、北側に付け替えられている。照心庵の堂宇の配置は明らかではないが、伝仁王門跡前を流れていた旧河道と桜井道、そして現在の水無神社境内に囲まれる範囲に所在していたものと推定できる。

水無神社裏山塚は、神社の裏手になる東側の急峻な斜面を約300m登った尾根上に点在する塚状の高まりである。遺跡は尾根筋の東西に広がっている。水無神社や照心庵との関連は不明である。

地区	飛驒	寺院番号	03124	県遺跡番号	21203-9628	分布図番号	E9
ふりがな		(びくにやしきあと)		所在地	高山市一之宮町宇薬師洞		
寺院名 (史跡・遺跡名)		(ビクニ屋敷跡)					
時代区分		中世か		宗派		不明	
立地		山腹		現状(植生)	山林(スギ・ヒノキ)		
東西規模	350m	南北規模	150m	標高(比高差)	745(100)m	平坦面分類	E
沿革		沿革は不明である。尼寺があったという伝承があり、黒心庵の支庵の可能性がある。					
遺構	—						
遺物	—						
有形文化財等	—						
参考文献	宮村 1968『宮村史』全、宮村 2003『新版宮村遺跡地図』						
備考	『宮村史』には「水無神社境内坪ノ内の背後に薬師洞があり、その洞口に薬師堂がある。薬師洞を上ること約600mのところに、ブクニヤシキと呼ぶ尼僧の庵跡らしい2アールばかりの台地がある。背後に木屋らしい跡があり、尼寺であったという伝えがあるが、おそらく黒心庵の支庵ではないだろうか。」と記述されている。						

**調査所見** 水無神社から北東方向にある林道を進むと山麓に薬師堂がある。さらに進み、林道脇を尾根伝いに登ると小高い箇所に平坦面群②が広がる。その先の斜面を横へ伝って東へ向かうと、谷の脇に明確な平坦面③があり、中央法尻には湧水を確認できる。平坦面の広さは200 m程で他に遺構は見られないが、屋敷を設けることができる十分な広さがある。山上からの谷水は平坦面の南端を通って南西方向へ流れ下っていくが、平坦面に谷水が入ってこないよう溝をつくり迂回させていた様子がある。現状は、谷水の勢いに負けて溝と切岸の一部は崩落してしまっている。

約200m南に位置する水無神社裏山塚には、横伝いにある細い林道を使って向かうことができるが、関連は不明である。

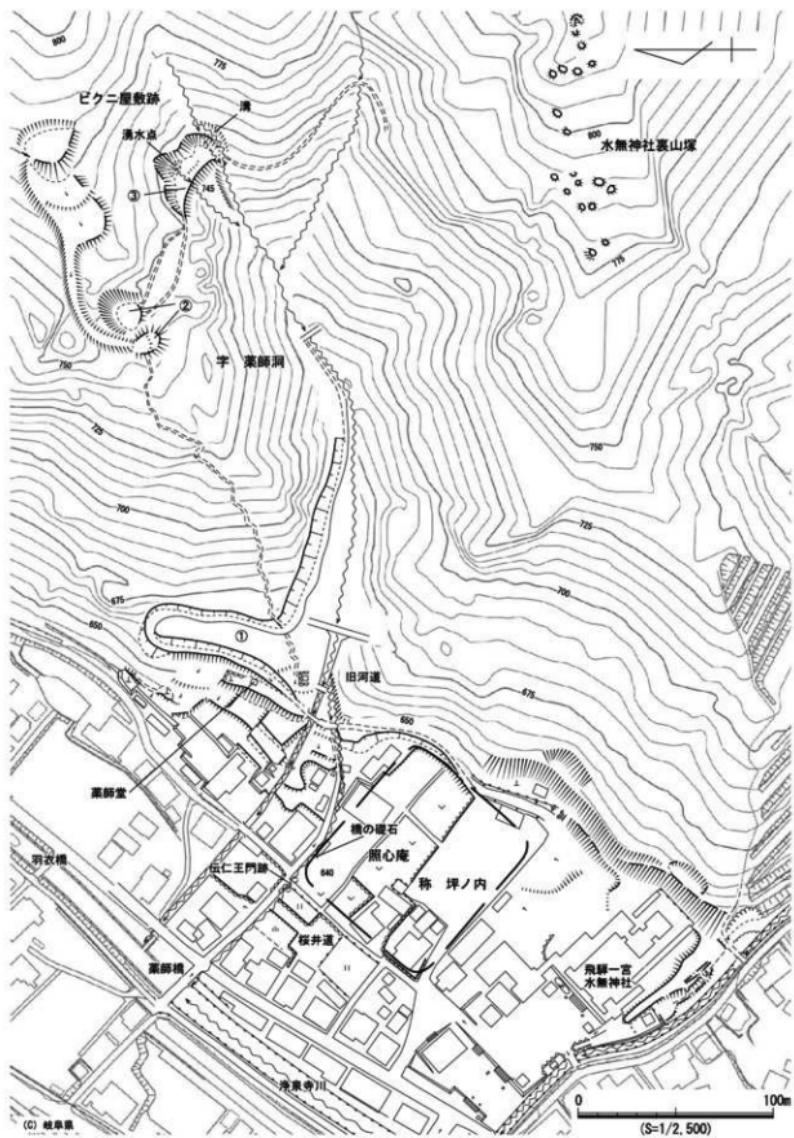


図7 照心庵（石原遺跡）・ビキニ寺敷跡 地形観察図

地区	飛騨	寺院番号	03131	県遺跡番号	21203-615・670	分布図番号	E9
ふりがな	しょうせいざんらいごうじ(らいごうじあと)	所在地	高山市久々野町小屋名				
寺院名 (史跡・遺跡名)	松生山来迎寺 (来迎寺跡)						
時代区分	中世	宗派	真言宗				
立地	山腹	現状(植生)	山林(ミズナラ)				
東西規模	80m	南北規模	80m	標高(比高差)	828(130)m	平坦面面類	E
沿革	山口町と奥江名子の境の山に松生山來迎寺という真言宗の寺があった。山口桜ヶ丘八幡神社の創始は平安時代の末の寛治元(1087)年、相州平塚より密宗弘法のため来訪した平塚某が郷里平塚より勧請したと言われている。建長3(1251)年9月20日平塚某の後裔明源という僧が來迎寺を建立したと角竹喜登の遺稿にあるが文献の出所については記していない。南北朝の頃は小八賀千光寺の末寺として南朝方であったようである。明源は文永4(1267)年来迎寺で入寂、その後住は小屋名八幡の社僧某が入っている。戦国時代になってから千光寺と共に戦禍の中に巻き込まれ、永禄7(1564)年6月、武田方の木曾勢(木曾義昌か)が武田信玄の命により阿多野上り美女峠を越えて高山盆地まで進入、7月乗鞍の北峠を越えて小八賀に攻め入った飯富(山県)昌景の軍と呼応して千光寺の末寺であった來迎寺・東光寺を焼いた。この時以来、來迎寺は廃絶したようである。木像薬師三尊は兵火の折寺僧によって江名子の石動神社、その後加茂神社に移されて現存する。來迎寺の山号松生山は、廃絶後に03033 丁心寺の山号になっている。						
遺構	礎石、基壇						
遺物	一						
有形文化財等	一						
参考文献	大下永 2018『飛騨における中世山寺の空間構造について』『斐太記』(平成30年秋季号通巻第20号)、飛騨学の会、熊崎善親 1958『飛騨國中神社編年史』、飛騨郷土学会、荒川喜一編 1971『大八賀村史』、大八賀財産区						
備考	來迎寺遺跡へ登るには山口のミソシリ谷から行けるがこれは裏参道である。小径約500m、尾根伝いに登ると約3アール程の平地がある。奥江名子方面からは幅2mほどの表参道があつて眺望がきき道も斜面に平坦である。寺跡は木立が繁り壁に蔽われているが寺院跡と思われる高低があり、堂宇は南面していたものと想像できる。奥江名子方面より來迎寺へ登る途中に「しようばん」と呼ばれる小平地がある。松生山か松生庵の跡伝であろうと土地の人たちは言っている(『大八賀村史』)。						

**調査所見** 寺跡は、国道361号から東に約2km林道を登った山腹にあり、「松生山來迎寺跡」の市史跡標柱が建つ。山麓からの参道は、鎌倉街道(來迎寺道)と言われる山越えの街道である。北東方向から延びる鎌倉街道は來迎寺跡の前を通り南に折れる。本堂と推定される礎石と基壇は街道のある南に向いており、寺跡から山麓が見渡せる北側には裏参道が続く。平坦面の北東側には小高い丘があるが、草木が繁茂し地表面の詳細は不明である。裏参道は山腹で二手に分かれている。一方は寺跡に向かい、もう一方は丘を挟んだ北側で鎌倉街道と合流する。丘の北側は緩やかな平坦地となっている。村史にある「しようばん(松生庵)」にあたる可能性がある。

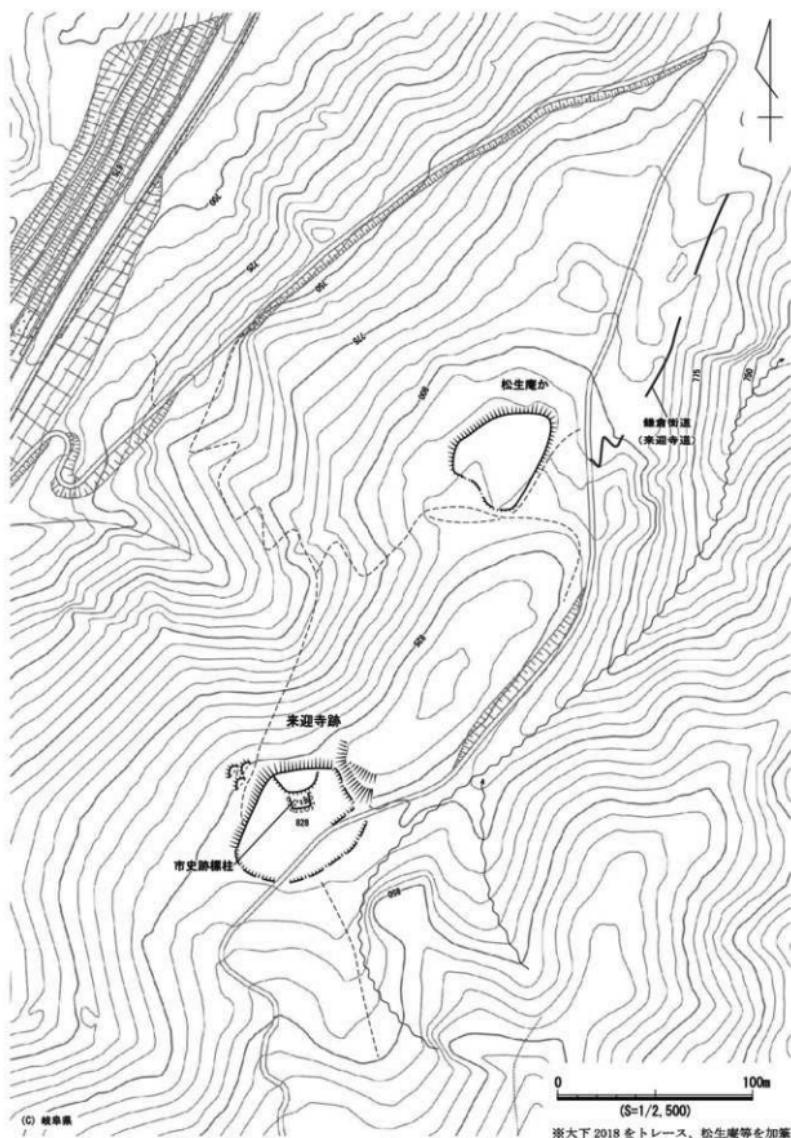


図8 松生山来迎寺（来迎寺跡） 地形観察図

※大下 2018 をトレース、松生庵等を加筆

地区	飛騨	寺院番号	03135	県遺跡番号	21203-634	分布図番号	E9
ふりがな	へんしょうじ（よしのちょうじだいのでんせ つのち・てらやしきあと）			所在地	高山市滝町下平・塔洞		
寺院名	遍照寺						
(史跡・遺跡名)	(吉野朝時代の伝説地・寺屋敷跡)						
時代区分	中世			宗派		不明	
立地	山頂・山腹			現状(植生)		境内地・山林(アカマツ)	
東西規模	550m	南北規模	350m	標高(比高差)	730(15)m	平坦面分類	DかE
沿革	成立時期や沿革の詳細は不明である。						
遺構	一						
遺物	五輪塔、宝篋印塔						
有形文化財等	一						
参考文献	荒川喜一編 1971『大八賀村史』、大八賀財産区						
備考	遍照寺跡は現在寺屋敷と称し、下垣内家の西方丘陵上の畠地で古い五輪の墓が三基ある(頬ノ上市郎右衛門 1971)。この丘陵の北側は水田になっているがこの場所を「みどのうしろ」と称している。この寺屋敷跡地一帯からは石器、土器なども出土している。また、この付近から花立と覺しき仏具が見つかっている。その東方に以前南天の古株があってその下には鐘が埋めてあるとの口碑が残っている。この屋敷跡周辺は和田氏の居館跡といわれている。この寺跡の西南約2町(約240m)ばかりの山上は平地となって、元禄水帳(江戸中期の検地帳)の「たうぼら」と称する所である。丘の西隣地区は低くなつて「大供御」と云う字名になっている。四隅の地形から推してここが和田氏一家の本陣のあった所と推察される。かつて遍照寺にあったという大日如来像は、円徳寺に移されて現存している。						

**調査所見** 遍照寺(寺屋敷跡)は、集落の住宅と田畑に囲まれた、津島神社南東の丘陵頂に位置する。東西方向に長い平坦面には、「和田氏累代の墓」とされる五輪塔や宝篋印塔があり、「大楠公師瀧覺御坊遺蹟地」(昭和11年)の石柱が建つ。丘陵頂の平坦面は0.5m程の高低差がある東西2面に分かれており、石塔がある平坦面よりも現代墓がある東側の平坦面の方が高くなっている。南斜面から登る道は近年に付けられたもので、本来は東側斜面が参道であったと考えられる。

遍照寺から街道と川を挟んで南東に約250m離れた山腹(字塔洞)には、塔があったという伝承がある平坦面があり、寺屋敷跡として旧跡を伝える石碑と社殿が所在する。この塔跡伝承地は本堂跡の丘陵頂よりも約20m高所に位置する。塔跡伝承地の平坦面に向かう道は、西側の谷や尾根伝いに通っていた可能性もあるが、北東に位置する遍照寺からの往来を考えると、最短距離となる現在の林道が最も可能性の高い通路である。

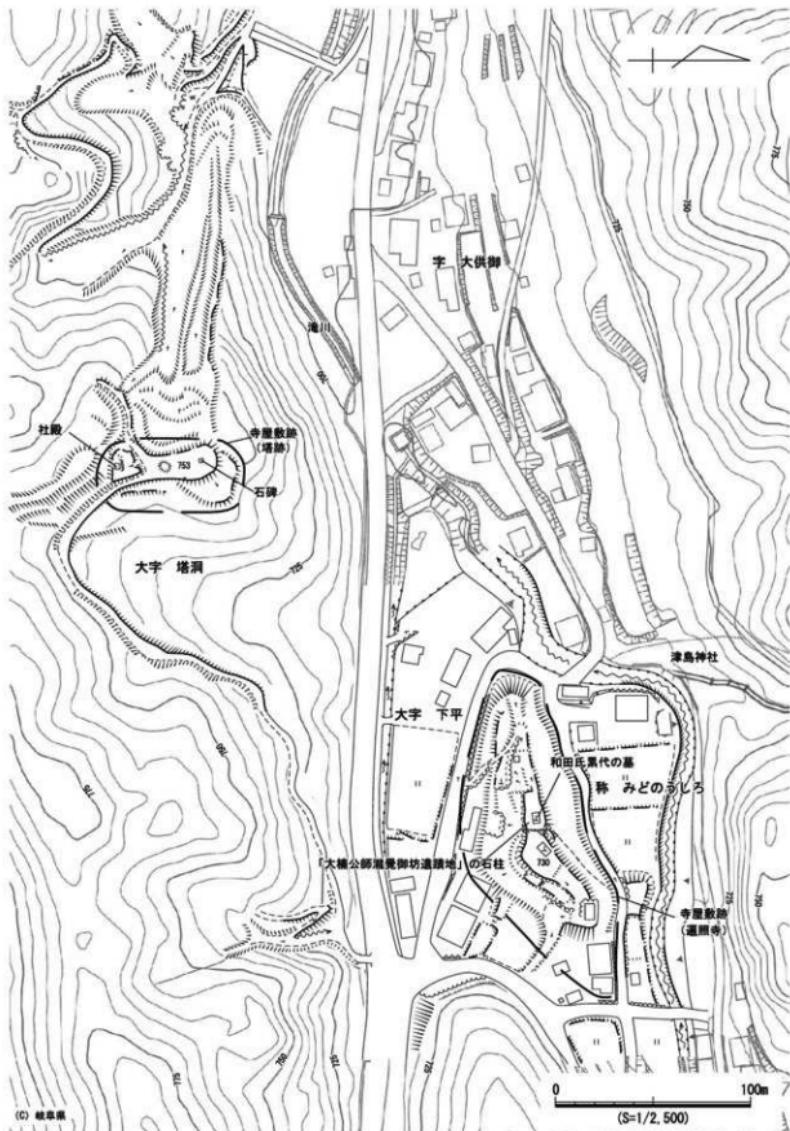


図9 遍照寺（吉野朝時代の伝説地・寺屋敷跡）地形観察図

地区	飛驒	寺院番号	03001	県遺跡番号	21203-595	分布図番号	E9
ふりがな	いおうざんひだこくぶんじ（ひだこくぶんじとうあと・ひだこくぶんじあと）			所在地	高山市総和町		
寺院名 (史跡・遺跡名)	医王山飛騨国分寺 (飛騨国分寺塔跡、飛騨国分寺跡)						
時代区分	古代(奈良・平安)~			宗派	真言宗		
立地	低地			現状(植生)	境内地・宅地等		
東西規模	200m	南北規模	210m	標高(比高差)	572(0)m	平坦面面積	一
沿革	寺伝によると飛騨国分寺は天平 18 (746) 年の創建とし、開基は僧行基という。最初に建った国分寺は、弘仁 10 (819) 年に火災に遭っているが、再建された。その後、金森氏が飛騨の姉小路(三木)氏を改めたときに建物の多くが焼失したが、天正 15 (1587) 年に再建された。本堂は室町時代の建築で、天正～慶長のころ、金森氏によって大修理された。元和元 (1615) 年金森氏の建立した三重塔は、寛政の大風で吹倒され、文政 4 (1821) 年に今の塔が再建された。成立当初は七重塔だったといわれている。境内の中央にある大イチョウは樹齢 1200 年と推定されている。						
遺構	金堂(礎石・基壇)、塔心礎						
遺物	軒丸瓦、軒平瓦、須恵器						
有形文化財等	木造薬師如来像、觀世音菩薩像(国指定、平安)、木造不動明王立像(県指定、室町)、塔心礎(国指定、奈良)、本堂(国指定、室町)、鐘樓門(市指定、室町)						
参考文献	重要文化財国分寺本堂修理工事委員会 1950『飛騨国分寺本堂』、高山市 1953『高山市史』下巻、高山市教育委員会 2016『高山市史』先史時代から古代編(下)、松下千二編 1977『飛騨寺院風土記』、飛展望社						
備考	高山市教育委員会により昭和 27 年以降 4 次にわたり発掘調査が行われた。觀世音菩薩像は旧国分尼寺の本尊と伝えられている。						

**遺構の概要** 金堂跡及び塔心礎が確認されている。本堂の建て替えに伴う発掘調査により、現在の本堂下に原位置を保つ 5 個の礎石と 11 箇所の根石などを確認し、4 間 × 7 間の礎石建物(金堂)の存在が判明した。本堂東側で版築の痕跡を確認し、金堂基壇に伴うものと考えられている。金堂礎石との比高差約 1 m を基壇高と想定している。本堂より東 20m には塔心礎が残っているが、過去に移動しており原位置を保っていない。塔心礎の形状は方形で、上面に円柱座を造り出し、中心に仏舍利孔が開く。その大きさは約 2 m 四方、高さ約 1 m で、石質は地元で「松倉石」と呼ばれる流紋岩である。

**遺物の概要** 遺物は瓦・須恵器等を確認している。軒瓦は、軒丸瓦 2 種、軒平瓦 4 種が確認されている。全て国指定史跡赤保木瓦窯跡で焼成したことが判明している。

地区	飛騨	寺院番号	03080b	県遺跡番号	21203-6604	分布図番号	E8
ふりがな	ひだこくぶんにじ（こくぶんにじこんどうあと・ひだこくぶんにじあと）			所在地	高山市岡本町		
寺院名 (史跡・遺跡名)	飛騨国分尼寺 (国分尼寺金堂跡・飛騨国分尼寺跡)						
時代区分	古代(奈良)～			宗派	宗派不明→臨済宗		
立地	低地			現状(植生)	境内地・宅地等		
東西規模	145m	南北規模	160m	標高(比高差)	572(0)m	平坦面類	一
沿革	飛騨国分尼寺の跡については長く顧在する遺構もなく、その位置についても諸説あったが、大正時代（1912～1926）、押上森藏氏が辻ヶ森三社神社の幣殿下に礎石を発見し、昭和63（1988）年高山市による発掘調査が行われて、本神社一帯が国分尼寺と推定された。なお、行基作とも伝えられる国分尼寺の大仏は平安時代中期頃に作成された可能性が高いといわれ、横河山安養寺の本堂に安置（一説には国府町木曾垣内字ツ寺に安置）されていたという。応永18（1411）年に安養寺が焼失した後、阿多由太神社境内に一堂を建立し安置されたと記されている。文政10（1830）年に大仏の損傷個所の修理が施され、篠洞口に建立した祠堂に納められる。昭和31（1956）年に大仏堂は臨済宗の建正山国分尼寺（国府町木曾垣内）としての宗教法人の認証を受け、堂宇から寺院に昇格、今日に至っている。						
遺構	金堂（礎石・基壇）、溝遺構・雨落ち溝、講堂（整地土）						
遺物	須恵器、灰釉陶器、軒丸瓦、鬼瓦、丸瓦、平瓦						
有形文化財等	木造阿弥陀如来像（県指定、平安）						
参考文献	国府町教育委員会 1972『国府町の文化財』、国府町 2008『国府町史』通史編Ⅰ、高山市教育委員会 1990『飛騨国分尼寺跡発掘調査報告書』、高山市教育委員会 2005『高山市内遺跡発掘調査報告書』、高山市教育委員会 2016『高山市史』先史時代から古代編（下）						
備考	高山市教育委員会により昭和63（1988）年以降5次にわたり発掘調査が行われた。						

**遺構の概要** 発掘調査では、社殿下において原位置を保つ11個の礎石と24か所の根石などを確認し、桁行5間×梁行2間の身舎に四面庇が付く礎石建物（金堂）と判明した。柱間寸法は桁行中央3間が14尺、両脇が13尺、庇は10尺であり、桁行は身舎2間が12尺、庇は10尺である。基壇版築も確認されており、全体に深さ70cmほどの掘り込み地業を行い、残りの良い基壇東側から1.2mと推定される乱石積み基壇がある。金堂の北側では、講堂造営の際に基準とした溝遺構・雨落ち溝、整地土が確認された。整地土が残る範囲から、南北18.5m・東西28.8mの大きさの講堂を復元されている。柱穴は確認されていないため、礎石建物であったと推定されている。

**遺物の概要** 奈良・平安時代の須恵器・灰釉陶器・瓦が出土した。灰釉陶器が基壇上の堆積土から出土しているため、10世紀後半頃まで尼寺が存続していたと考えられる。瓦類は、飛騨国分寺跡と同様の軒丸瓦が確認されたが、軒平瓦は確認されていない。丸瓦・平瓦と鬼瓦が確認された。

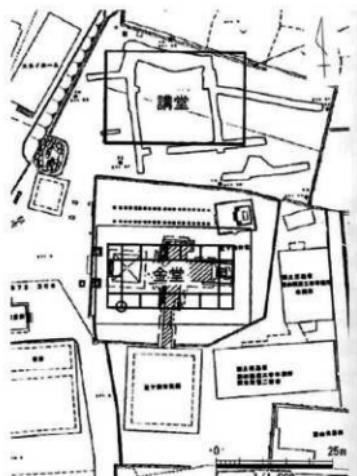


図10 飛驒国分尼寺跡平面図



圖11 無障礙分道路平面圖

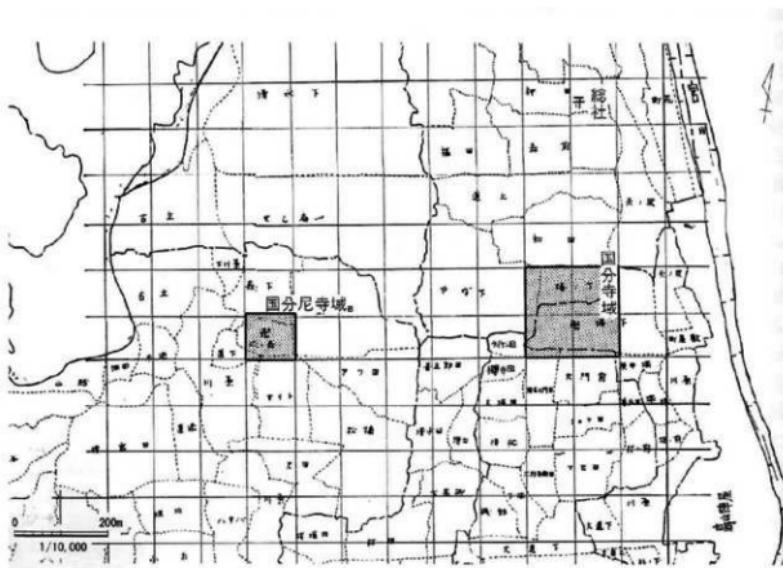


図12 国分寺跡・国分尼寺跡周辺の小字図と二町方格縫図

地区	飛騨	寺院番号	03113	県遺跡番号	21203-225	分布図番号	D8
ふりがな	(いしばしはいじあと)	所在地	高山市国府町広瀬町				
寺院名 (史跡・遺跡名)	(石橋廃寺跡)						
時代区分	古代(白鳳・奈良・平安)			宗派	不明		
立地	低地			現状(植生)	宅地		
東西規模	200m	南北規模	200m	標高(比高差)	518(0)m	平坦面類	一
沿革	持統天皇の朱鳥元(686)年に、新羅の僧行心が大津皇子の謀反にくみして飛騨の伽藍に移された。それは国分寺建立より數十年前のことと、當時飛騨のどこかに寺があったわけである。岡村利平は「飛騨資料」に、いわゆる飛騨の伽藍の所在を、広瀬小字「いしばし」に当てて考えている。「いしばし」からはかつて多くの古瓦や礎石を発見したが、近年水田を開墾したので、昔の面影はなくなった。礎石を飛騨地方では「石場石」と呼んでいるが、地名もあるいはそれから転化したものであろうか。一説には対岸より聖地のこの地に飛石を並べて構とし、ここを渡って西でた名残りではなかろうかとも言われている。寺号は伝わらず。ただ付近に十王堂跡、地蔵堂跡の名が残っているのみである。奈良時代、山麓の石橋廃寺は下寺、光寿廃寺は上寺の関係であったとされる。						
	遺構						
遺物	須恵器、土師器、円面鏡、暗文土器、軒丸瓦4型式、軒平瓦1型式、戯画線刻瓦など						
	有形文化財等						
参考文献	国府町教育委員会 1972『国府町の文化財』、国府町教育委員会 2005『石橋廃寺調査報告書』、国府町史刊行委員会 2007『国府町史』考古・指定文化財編、国府村 1959『国府村史』全、高山市教育委員会 2016『高山市史』先史時代から古代編(下)						
	備考						
石橋廃寺跡は、光寿廃寺から約800m西の山麓にある集落に所在している。国府町教育委員会により昭和61・62年度に発掘調査が行われた。							

**遺構の概要** 発掘調査では寺院に関わる遺構は確認されなかったが、建物の礎石が複数確認されている。石橋廃寺跡には塔心礎が遺存する。かつて広瀬町に所在する岡村利右衛門邸に置かれていたもので、江戸期、宇十王堂から搬出したものであるという。現在は広瀬古墳の横に設置されている。

**遺物の概要** 2次にわたる発掘調査で出土した遺物は、瓦類、土器類、金属類など多数に及ぶ。特に平瓦に線刻した人物戯画、水鳥、花卉文など特異なものが注目される。瓦当文様には、光寿庵及び名張廃寺と同范の軒瓦を検出し、石橋廃寺跡の線刻のある平瓦とともに同時に2ヶ寺が建立されていたことが明らかとなった。I区から出土した須恵器の型式は7世紀後葉期から8世紀にかけてのものであり、灰釉陶器も出土していることから、当寺院が7世紀後葉から造営を開始し、9世紀以降まで存続したと考えられている。

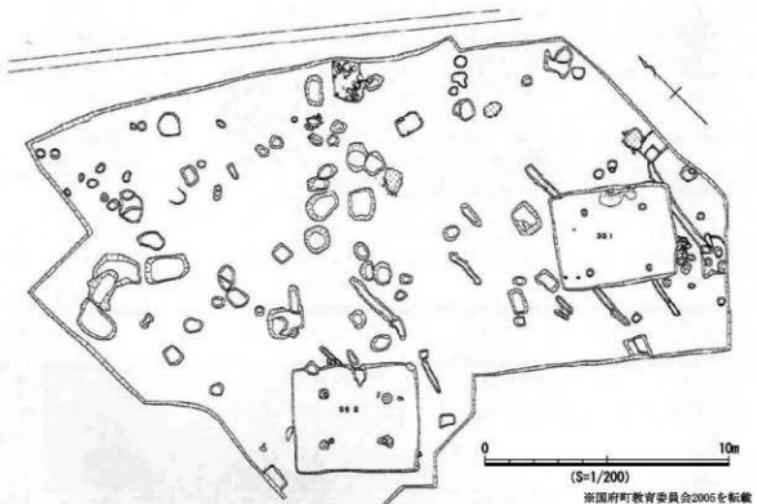


図13 石橋庵寺跡1地区遺構実測図

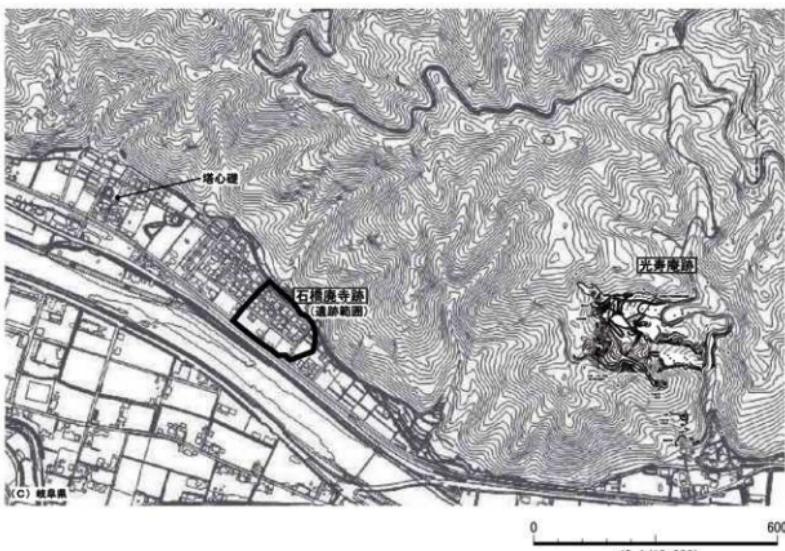


図14 石橋庵寺跡と光寿庵跡の配置図

地区	飛騨	寺院番号	03133	県遺跡番号	21203-580	分布図番号	E9
ふりがな		(さんぶつじはいじあと)		所在地	高山市三福寺町落し		
寺院名 (史跡・遺跡名)		(三仏寺廃寺跡)					
時代区分		古代(白鳳・奈良)		宗派		華嚴宗	
立地		山麓		現状(植生)		宅地	
東西規模	128m	南北規模	108m	標高(比高差)	570(0)m	平坦面面類	一
沿革		成立時期や沿革の詳細は不明である。三仏寺が文献上で認識されるのは江戸時代の『飛州志』で、三仏寺城と共に記されている。古い時代に華嚴宗の三仏寺という寺院があったと後代の諸文献にみえ、元禄水帳には「どうのまえ」「じょうど」「もんぜん」等の寺院に関係する小字がみられる。					
遺構	金堂・正倉(礎石・柱穴・基壇)						
遺物	軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、須恵器、円面硯、瓦塔、土師器、灰釉陶器、山茶碗、青磁など						
有形文化財等	一						
参考文献	高山市教育委員会 2003『三仏寺廃寺発掘調査報告書』、高山市教育委員会 2016『高山市史』先史時代から古代編(下)						
	高山市教育委員会により平成8~11・13年度に伽藍中心部において範囲確認調査が行われた。						
備考	遺跡範囲は現在宅地となっている。三仏寺廃寺跡の礎石は畠地に残存している。東方の三福神社の参道は、現在は東南東を向いているが、旧参道は西向きであったらしく、三仏寺廃寺跡の礎石の残る推定金堂跡方向へと延びている。						

**遺構の概要** 宮川の支流・大八賀川右岸の沖積地上、南側の大八賀川と北側の三仏寺城跡が位置する城山に挟まれた平坦地に立地する。山裾と川の端まで、寺城が広がっていたと思われ、北の山裾と、南の川沿いに道路が設けられていたと思われる。発掘調査では、遺構として金堂と推定される建物と正倉を確認している。推定金堂建物は、梁行4間は間違いないが、桁行方向は発掘区外に及ぶ。このため、桁行を4・5・6・7間とする4案が高山市教育委員会によって検討されている。主軸をほぼ方位にあわせ、掘り込み地業による基壇を確認されている。正倉は桁行3間×梁行2間の総柱建物である。約20cm高の基壇も確認されている。

**遺物の概要** 遺物は円面硯・瓦塔・須恵器・灰釉陶器・瓦・青磁などが出土し、須恵器の型式から当寺院が7世紀代に建立された可能性が考えられている。瓦については、これまでの発掘調査出土品と採集品を含め、軒丸瓦は10型式、軒平瓦は4型式が確認されている。注目される遺物としては、瓦塔が挙げられる。瓦塔は屋蓋部の小片2点が出土した。美濃須衛窯の系譜をもち、9世紀中頃以降に位置づけられている。



図15 三仏寺廃寺跡平面図

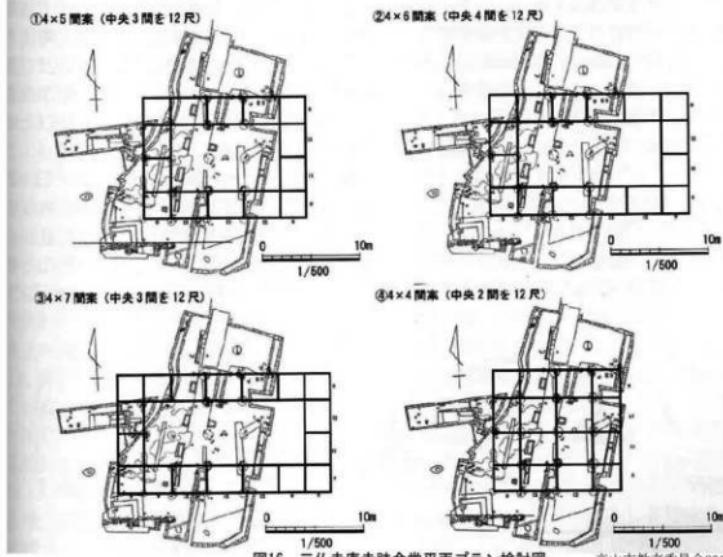


図16 三仏寺廃寺跡金堂平面プラン検討図

高山市教育委員会2016を転載

地区	飛騨	寺院番号	03161	県遺跡番号	21203-455	分布図番号	D8
ふりがな		ひやけいせき		所在地	高山市上切町		
寺院名 (史跡・遺跡名)		(日焼遺跡)					
時代区分		古代(奈良・平安)		宗派		不明	
立地		山腹		現状(植生)		道路	
東西規模	51m	南北規模	87m	標高(比高差)	587(19)m	平坦面面類	不明
沿革	発掘調査の成果から、8世紀後葉に寺院が造営されたと考えられる。仏堂は確認できていないが、多口瓶や鉄鉢が出土している。掘立柱建物や灰釉陶器から10世紀前半になると、仏堂が造営され、僧坊が建てられたと考えられる。さらに須弥壇下に埋納された瑞花双鳥八稜鏡から10世紀後半には場所を変えて仏堂が造営され、これに合わせて僧坊が建てられたと考えられる。螺髪が出土したことから仏像は阿弥陀如来か薬師如来のいずれかに絞られる。なおこの仏堂は存続期間は短く、10世紀後半に廃絶されたと考えられる。						
遺構	礎石建物（仏堂）、掘立柱建物（仏堂・僧坊）、階段状遺構						
遺物	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、螺髪、塑像片、金属製品（八稜鏡・釘・飾金具）						
有形文化財等	—						
参考文献	岐阜県文化財保護センター2021『上切寺尾古墳群・日焼遺跡』						
備考	岐阜県文化財保護センターが平成27・28年度に発掘調査を行った。遺跡範囲は上切寺尾古墳群と重複する。						

**遺構の概要** 発掘調査では、古代の堅穴建物、掘立柱建物、礎石建物、绳文時代早期の煙道付炉穴、绳文時代中期の堅穴建物などを確認した。礎石建物の西側には白山神社が鎮座する。白山神社の創立年代は不詳であるが、白山神社と礎石建物は、山寺に至る手前の山麓に神社が鎮座するという山寺によく見られる位置関係にあり、礎石建物と白山神社の間の谷は水源があり、「寺洞」という地名であることから、北に延びる谷奥部全体が寺に関連する場所として利用されていたと考えられる。

**遺物の概要** 建物礎石の中央部、須弥壇中央の土坑(SK233)から八稜鏡が出土した。この鏡は鏡面を上方に向け、やや南側に傾いた状態で出土しており、鏡背に楮紙が付着していることや鏡の下方から釋殼が出土したことから、鎮壇に際して土坑の底面に紙を敷き、五穀と鏡を埋めたものと考えられる。建物の礎石周辺からは螺髪や塑像片が出土しており、建物礎石西側の土坑からは「寺」、「万」「大令」などと墨書きされた須恵器が出土した。

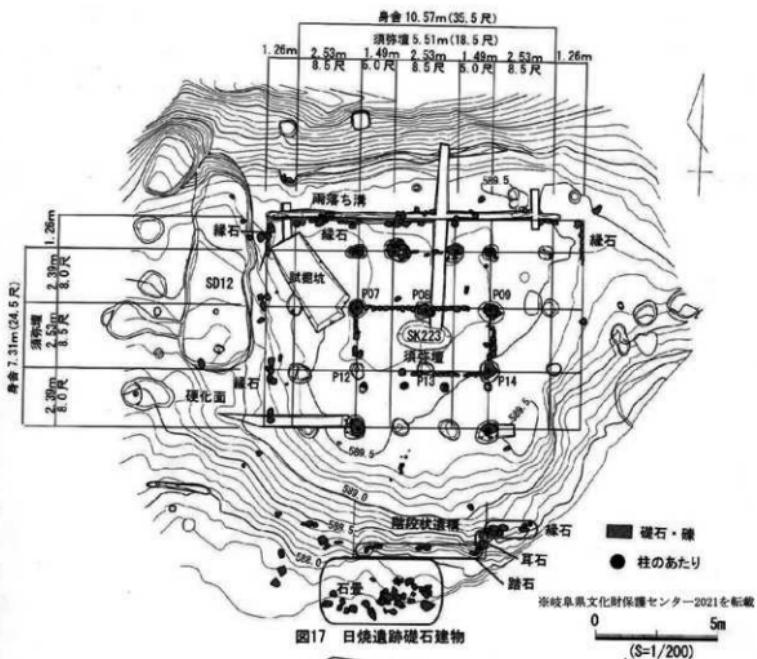


図18 日焼遺跡礎石建物周辺の主要遺構及び仏堂に関わる遺物

地区	飛騨	寺院番号	03162	県遺跡番号	21203-06090	分布図番号	D8・E8
ふりがな		(みえだじょうあと)		所在地	高山市上切町		
寺院名 (史跡・遺跡名)	(三枝城跡)						
時代区分		古代(平安)		宗派		不明	
立地		山腹		現状(植生)		道路	
東西規模	一	南北規模	一	標高(比高差)	595 (20) m	平坦面類	不明
沿革	遺物、遺構から古代の山林寺院の遺跡であると考えられているが、沿革の詳細は不明である。						
遺構	礎石建物、堅穴建物						
遺物	土師器、須恵器(脚付盤・鉄鉢・托・三足火舎)、土師質土器、青磁、灰釉陶器、金属製品(鉄釘・雁股鏡)						
有形文化財等	一						
参考文献	岐阜県文化財保護センター2011『三枝城跡』						
備考	岐阜県文化財保護センターが平成18・19年度に発掘調査を行った。三枝城跡の遺跡範囲のうち、寺院跡に隣接する遺構や遺物が確認されたのは古城山北東山麓で東西40m、南北45mの範囲である。						

**遺構の概要** 平成18、19年度の発掘調査で、北東山麓地区において3段の平場を確認した。さらに最上段の平場①では第2調査面に堅穴建物(SB1)を確認しており、こちらはカマドを備えるため住居跡とみることができるものの、床下に1、74mもの深さの擂鉢状下部構造をもつことから、単なる生活の場にとどまらず、鎮壇など特異な性格を併せもつた施設である可能性が考えられる。また、第1調査面の礎石建物(SH1)についても、信仰関連施設の性格をもつ建物であった可能性が考えられる。

**遺物の概要** 平場①第2調査面の堅穴建物からは須恵器有台壺や土師器高壺、土師器甕などが出土した。上層の第1調査面の礎石建物の床面付近からは多数の鉄釘に混ざって鉄製の雁股鏡が出土した。下段の平場②からは土師質土器、平場③からは灰釉陶器類が出土した。また平場②③の出土遺物の中には、鉄鉢、小型の三足火舎、金属器を模倣した托など平安時代頃の仏具類とみられる特殊品が出土している。

遺物などから北東山麓地区の遺構は2つの時期に分けてとらえることができる。I期は、平場①に堅穴建物が築かれ、人が住居しつつ仏教にかかわる活動を行った時期である。遺物から8世紀後期～9世紀初頭頃の遺構と考えられる。II期は、堅穴建物の埋没後に平場①に礎石建物が造営され、平場②③が開削され、領域を拡大して信仰が継続された時期である。平場①～③から出土した須恵器には無台碗、有台碗、有台盤、脚付盤などがみられ、さらに灰釉陶器もまとまった量が出土している。これらの遺物から、その年代は9世紀前半～10世紀前半頃と推定される。

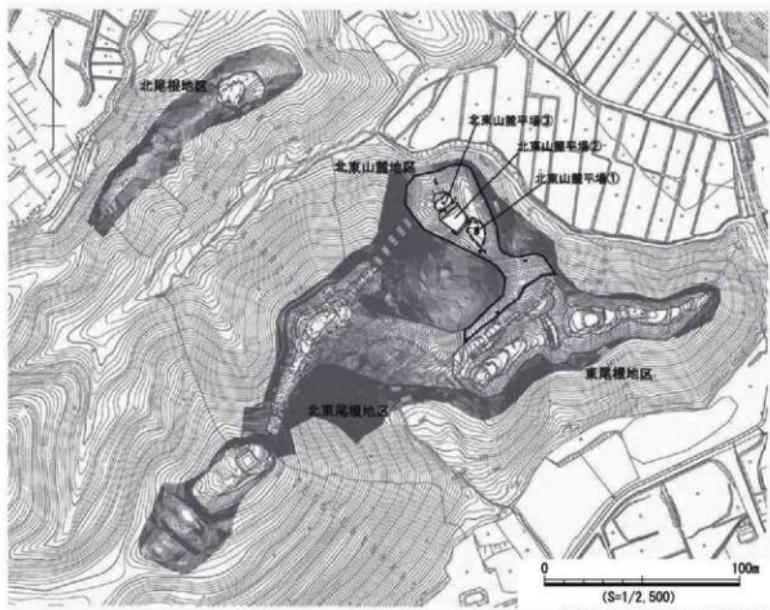


図19 三枝城跡関連遺構の配置

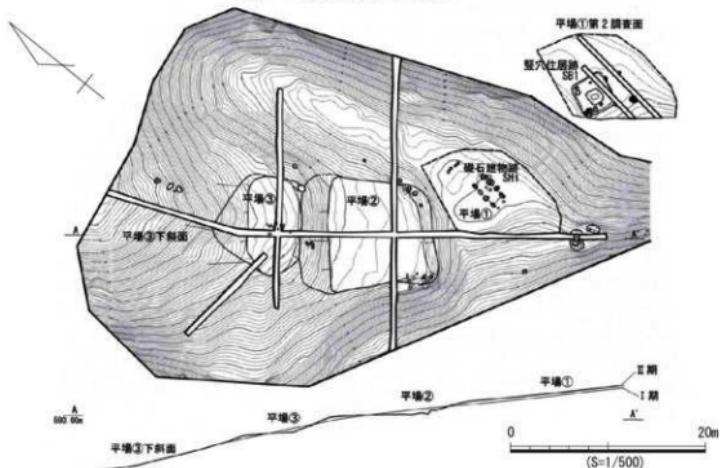


図20 三枝城跡 山林寺院跡の検出地点

## [飛騨市]

地区	飛騨	寺院番号	17046b	県遺跡番号	21217-9275	分布図番号	C8
ふりがな	じゅらくじきゅうけいだい (じゅらくじはいじあと)	所在地	飛騨市古川町太江				
寺院名	寿楽寺旧境内						
(史跡・遺跡名)	(寿楽寺廃寺跡)						
時代区分	古代(白鳳)～中世	宗派		不明→曹洞宗			
立地	畠状地、山麓・尾根上	現状(植生)		境内地・山林(スギ・ヒノキ)			
東西規模	800m	南北規模	600m	標高(比高差)	561(47)m	平坦面面類	A・B
沿革	応永5(1398)年の祈拂札には、「宮谷寺末寿楽寺」の記載がある。慶長5(1600)年、飛騨国金森可重の母が俄勝祈願のため駆けを行い、堂宇整備を行うなど、金森家の援助により再興し、金森家菩提寺の壽玄寺末に組み入れられ曹洞宗へ転宗した。元禄2(1689)年、壽玄寺8世古林道宣が秘仏である薬師如来を本尊として現在地に開山した。寿楽寺廃寺跡は字名から左近廃寺とも呼ばれている。「高家寺」と書かれた墨書き須恵器により、古代の寺院名が郷名に由来する「高家寺」と判明した。						
遺構	【地形観察図作成範囲】水路、石垣、集石【寿楽寺廃寺跡】基壇、回廊、礎石建物、構、掘立柱建物、堅穴建物、ピット、土坑						
遺物	【地形観察図作成範囲】須恵器、土師器、近世陶器、瓦【寿楽寺廃寺跡】須恵器、灰釉陶器、三彩陶器、縁輪陶器、暗文土器、三足火鉢、陶瓶、鶴尾、有段縁单弁八弁蓮華文軒丸瓦、二重圓縁单弁八弁蓮華文軒丸瓦、四重圓縁单弁六葉忍冬蓮華文軒丸瓦、塑像(足先)、金銅製瓔珞						
有形文化財等	本尊薬師如来(鎌倉)、紙本墨書き大般若經(県指定、平安)、紙本墨書き大般若經祈拂札(市指定、室町)						
参考文献	財團法人岐阜県文化財保護センター2002『太江遺跡・寿楽寺廃寺跡』第74集、財團法人岐阜県教育文化財团文化財保護センター2005『太江遺跡Ⅱ』第94集、八賀晋1992『飛騨の古墳と寺々』『特別展 飛騨のあけぼの』、岐阜県博物館、八賀晋2001『飛騨國伽藍』について『美濃・飛騨の古墳とその社会』、同成社、飛騨市教育委員会2019『飛騨市遺跡詳細分布調査報告—古川町・神岡町一』、飛騨市総務部古川町史編纂室編 2010『古川町歴史探訪』						
備考	財團法人岐阜県文化財保護センターが平成10~12年度に太江遺跡・寿楽寺廃寺跡、財團法人岐阜県教育文化財团文化財保護センターが平成15年度に太江遺跡の発掘調査を行った。岐阜県文化財保護センターが令和元年度に太江区内の遺物分布調査を行った。						

**調査所見** 寿楽寺廃寺北側の尾根上から山麓を踏査したところ、複数の平坦面を確認したため寿楽寺旧境内として地形観察図を作成した。太江字猪谷の尾根端部では、3段の平坦面が南北に並ぶ。上段には基壇状の高まりが見られ、中段法面の石垣は部分的に石材が垂直方向に積まれる。飛騨市百足城跡の石垣の特徴と類似することから、中世の構築と考えられる(飛騨市教育委員会の御教示)。現寿楽寺の北側に位置する高田神社の現在の参道は街道まで続いており、現寿楽寺の本堂や参道、現在の街区とは軸を異にしている。地籍図の検討を行った飛騨市教育委員会は、寿楽寺北側から高田神社まで直線的に細い筆が伸び、旧参道の可能性があると指摘する。太江字多度・高田では、谷部に平坦面群を確認した。谷中央部の2段の平坦面は、谷の向きと長軸方位が同一で南に傾斜し、山裾には石垣が部分的に残る。杉崎字天神洞では、小島稲荷神社境内に含まれる天満宮跡から伸びる参道とその両脇に平坦面群を確認した。

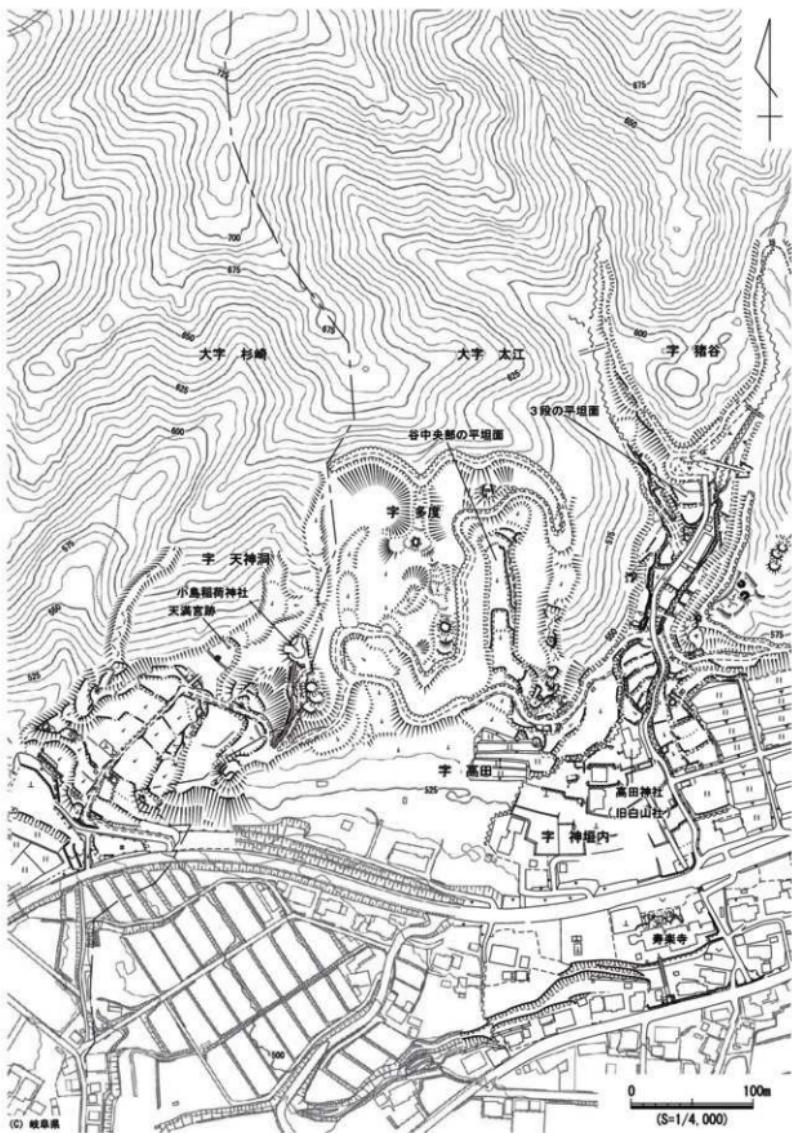


図21 寿楽寺旧境内（寿楽寺廃寺跡） 地形観察図（1）

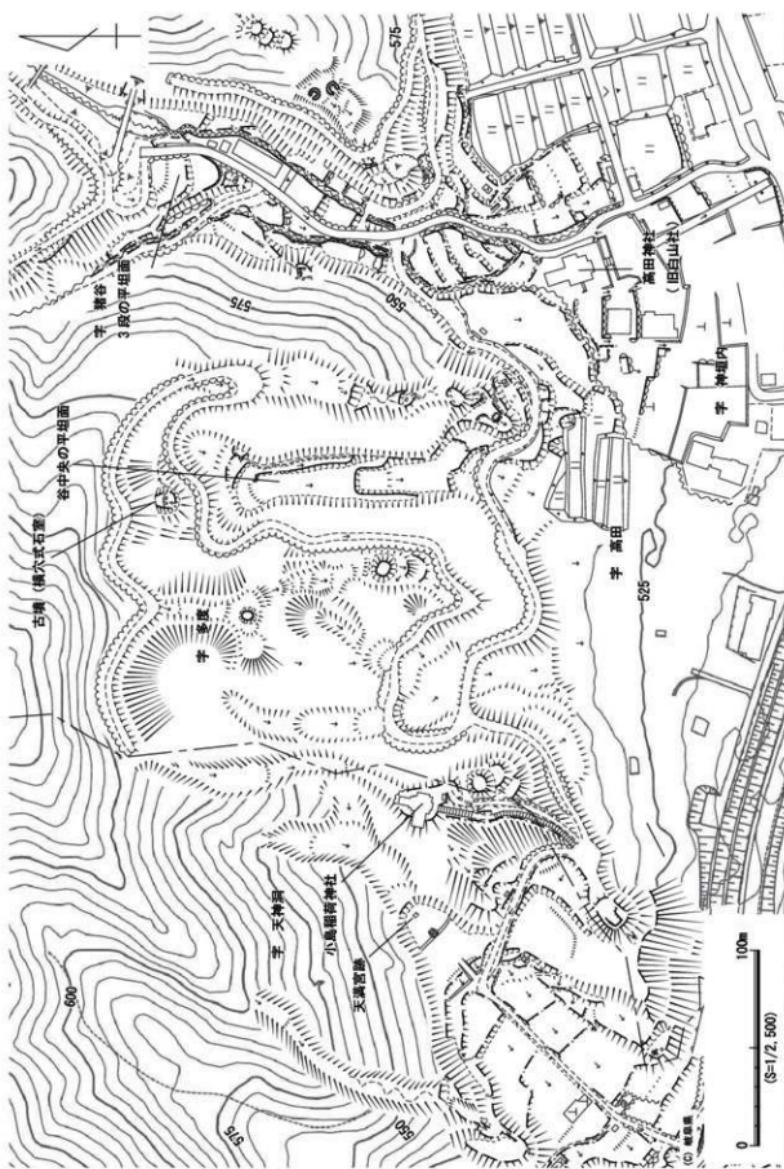


図22 寿楽寺旧境内（寿楽寺廃寺跡） 地形観察図（2）

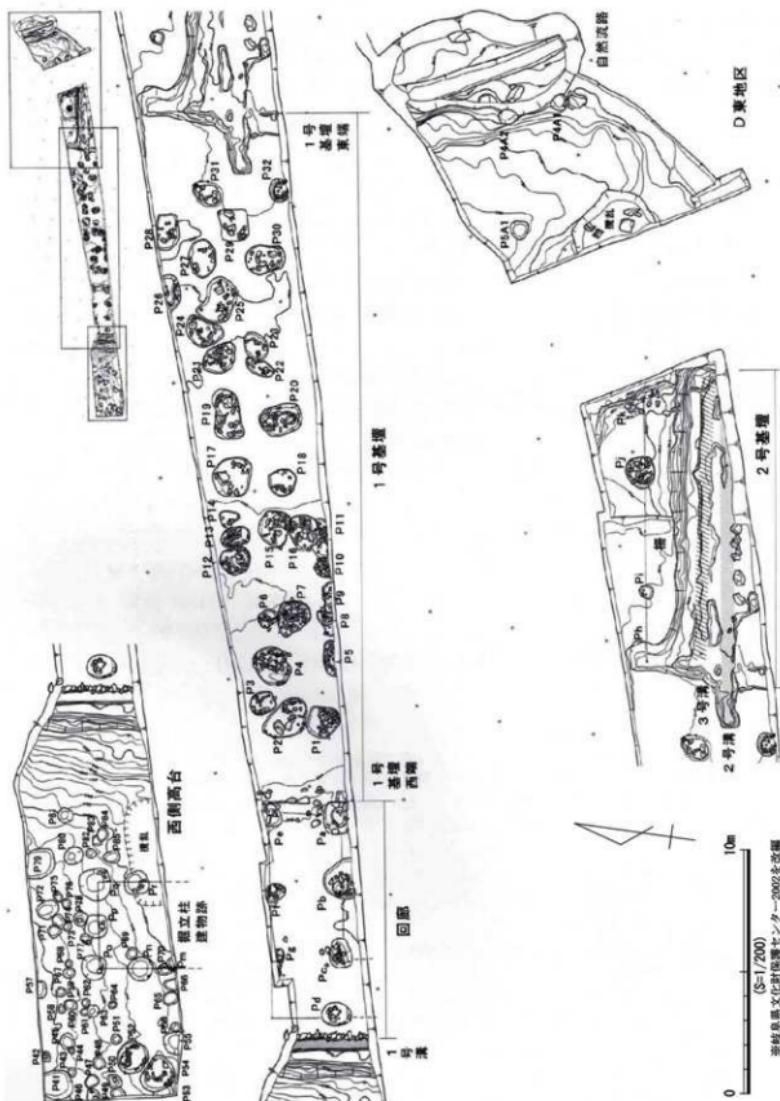


図23 寿楽寺廃寺跡 D地区遺構配置図

奈良県文化財保護センター—2002年文庫  
(3:1/200)

地区	飛騨	寺院番号	17053	県遺跡番号	一	分布図番号	C9
ふりがな	ちくりんざんけぞうじ			所在地	飛騨市神岡町吉田字塩野		
寺院名 (史跡・遺跡名)	竹林山華藏寺						
時代区分	中世			宗派	天台宗→真宗		
立地	段丘			現状(植生)	荒蕪地		
東西規模	50m	南北規模	100m	標高(比高差)	565(10)m	平坦面面類	D
沿革	成立時期は不明である。昔、吉田塩野に竹林山華藏寺という天台宗の寺があつたが、いつの頃か廢寺となり、地域の人が廢寺跡に地蔵菩薩を祀ったという。元亨3(1323)年、覺如の直弟の順智坊覺淳はここに庵を結んで淨土真宗の教えを広めたが、その後17009常蓮寺を開いたため、以前と同様に地蔵堂が営まれた。元禄7(1694)年の検地帳では、地蔵堂地5間×3間と記されており、文化元(1804)年に再建された。						
遺構	—						
遺物	—						
有形文化財等	—						
参考文献	神岡町教育委員会 1995『ふるさと「神岡」探検マップ』、飛騨市教育委員会 2009『神岡町史』通史編1						
備考	地域の方によると、華藏院の廢寺跡とされる高台の上段にあった「塩野の阿弥陀堂」が、近年の道路工事によって2段下に下ろされ、さらに平成に入り塩野公民館横の敷地へ移設されたという。華藏寺から東方100mの塩野公民館北側の敷地に「塩野地蔵堂」があり、石地蔵が安置されている。						

**調査所見** 華藏寺は、後身となる17009龍洞山常蓮寺から吉田川を挟んだ南約500mの山腹に立地し、谷状の地形を形成する舌状に伸びた地形の先端に立地する。地形観察作成時の状況は荒蕪地で、地表面の観察は困難であった。

山腹から山麓にかけて、尾根伝いに小規模な平坦面が階段状に連続する。このうち、最も大きな平坦面(①)は下から3段目で、20m×20m程の広さがある。「塩野の阿弥陀堂」は、当初この①上にあったというが、今は荒蕪地となり跡等は確認できない。地域の方によると、北側の道路の工事が行われた際には高台も削られたというが、いずれにしても小堂が1宇建つ程度の広さである。①から北側へは、平坦面間を通って下りることができる。①の南背後には、尾根筋に沿って小規模な平坦面が階段状に連続し、平坦面間では塚状の高まりも確認した。そのうち、最上段の平坦面には、墓碑の基壇が残るが、近年の新しいものである。この平坦面には、①の西端部から通路が続いている。一方、尾根の東側斜面には道を確認できず、急傾斜のため人の往来は難しい。山麓は、東西両側ともに近年の造成の影響を受けており、現在は宅地や畑地として利用されている。

当地にあったという仏堂について、文献や聞き取りでは、地蔵堂であつたり阿弥陀堂であつたりと名称が定かではない。文化元年に再興された際の移設地には、現在小屋が建てられている。平成時代に行われた2度目の移設地は塩野公民館北側で、地蔵菩薩が祀られている。

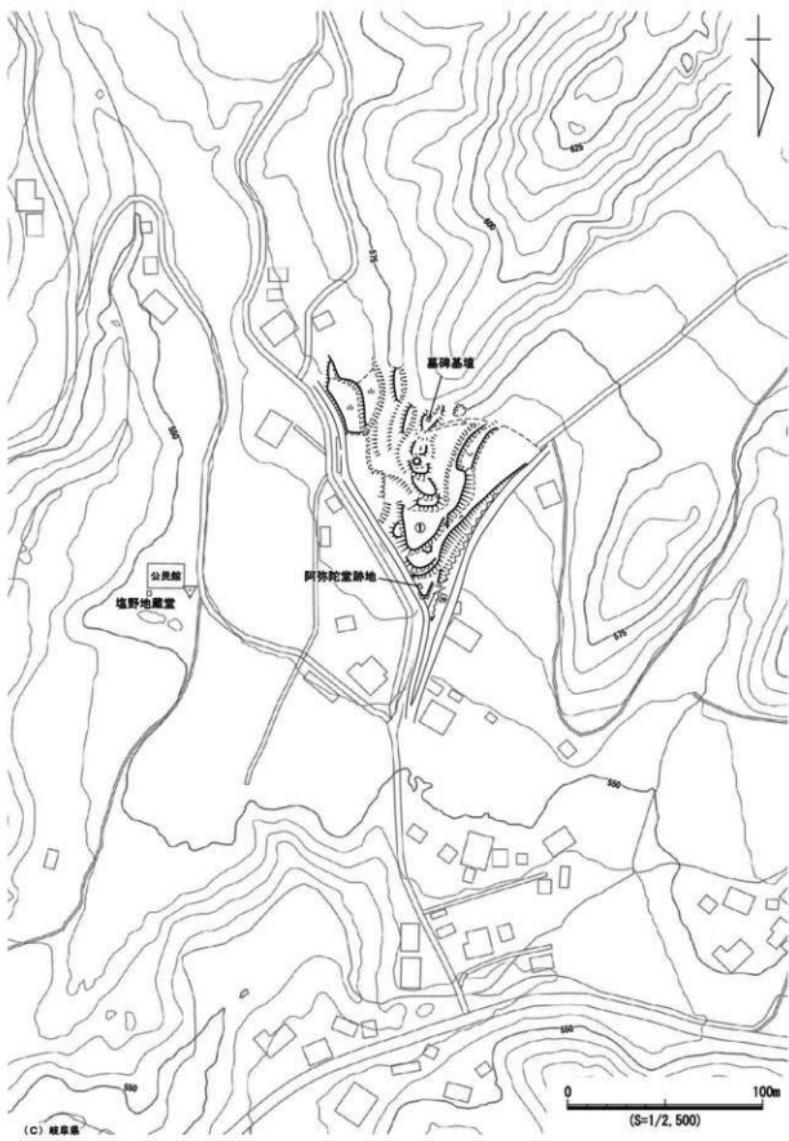


図 24 竹林山華嚴寺 地形観察図

地区	飛騨	寺院番号	17069	県遺跡番号	21217-21742	分布図番号	C7
ふりがな	じょうけんじ（じょうけんじょうあと）	所在地	飛騨市古川町信包字城見寺垣内				
寺院名 (史跡・遺跡名)	城見寺 (城見寺城跡)						
時代区分	中世	宗派		不明			
立地	尾根上	現状(植生)		山林（スギ・ヒノキ）			
東西規模	110m	南北規模	45m	標高(比高差)	565(10)m	平坦面面積	E
沿革	成立時期及び沿革の詳細は不明であるが、『古川町史』史料編3所収の「明治十年小糸利村地誌」には、「城見寺魔寺跡。本村ノ乾ノ方信包字城見寺山頂ニ在リ。東西六拾四間、南北ニ拾間、西方尾続ノ所三段ニ堀削、空塹等尚存ス。創廢年曆不詳。黒内・向小島旧主ノ菩提所ニヤ」とあり、寺跡として紹介されている。						
遺構	池跡						
遺物	一						
有形文化財等	一						
参考文献	大下永 2019『飛騨における中世山寺の立地と景観』『日本遺産関連事業 in 飛騨国府 古代史講演会資料』、岐阜県教育委員会 2005『岐阜県中世城館跡総合調査』第4集（飛騨地区・補遺）、佐伯哲也 2018『飛騨中世城郭図面集』、桂書房、古川町『古川町史』史料編3						
備考	佐伯 2018 は、当遺跡が湯峰峠越えの道を眼下に見下ろす交通の要所に位置していることや、堀切・虎口の存在から、城郭であると判断しており、廃城後に城見寺が建立されたと推測する。						

**調査所見** 飛騨市古川町信包の北部にあたる山地の、標高 565m の尾根上に立地する。110m × 45m の尾根の地形に沿って削平された平坦面が 1 か所のみ確認できる。平坦面上には 2 つの石碑があり、ともに近代に設置されたもので、大正 14 (1925) 年の公園開拓碑と昭和 3 (1928) 年銘の判読不明の碑がある。平坦面の西部及び南部には小規模な窪地があり、佐伯哲也は、これらの窪地を「寺院遺構に伴う池跡と考えられる」(佐伯 2018) しながらも、城見寺成立以前に所在していた城跡の遮断施設であった可能性を指摘している。

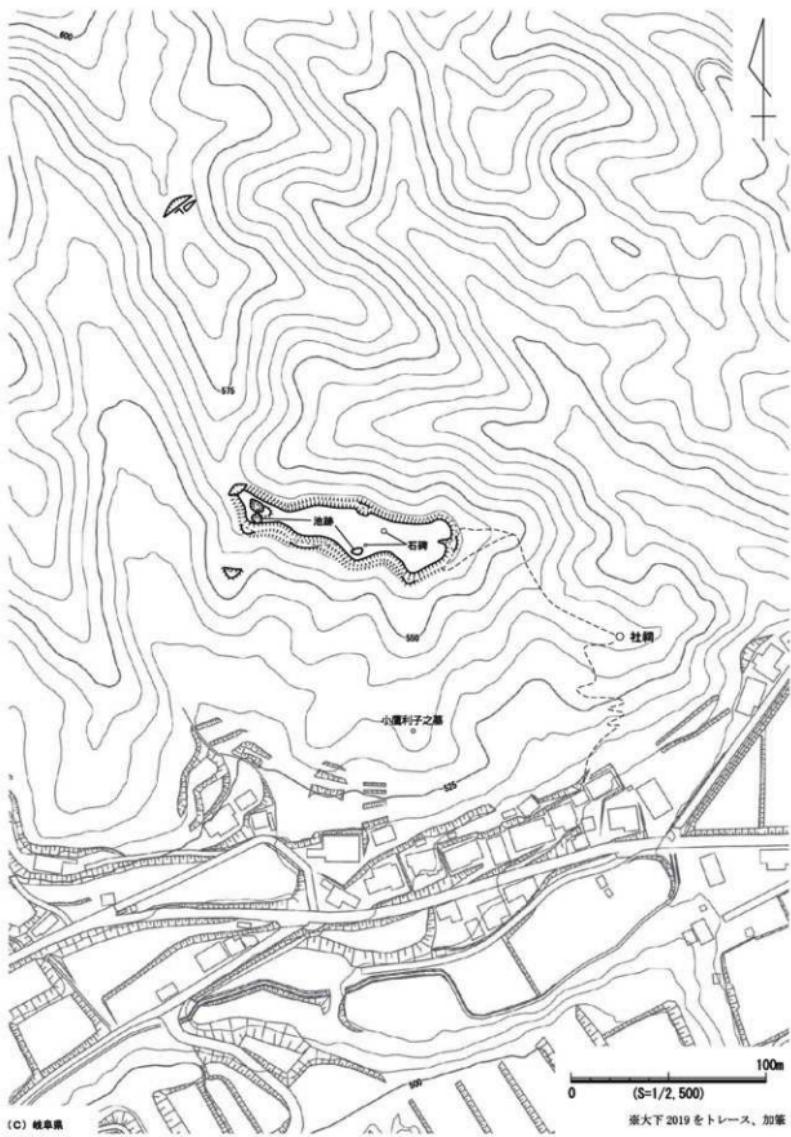


図25 城見寺（城見寺城跡）地形観察図

地区	飛騨	寺院番号	17077	県遺跡番号	21217-11821	分布図番号	C9
ふりがな	(とのさかぐちいせき)			所在地	飛騨市神岡町殿坂口		
寺院名 (史跡・遺跡名)	(殿坂口遺跡)						
時代区分	中世			宗派	不明		
立地	段丘			現状(植生)	山林(スギ・ヒノキ・アカマツ)		
東西規模	210m	南北規模	120m	標高(比高差)	460(14)m	平坦面面類	E
沿革	成立時期及び沿革は不明である。神岡町1980に所載の明治3(1870)年、結城桝著『殿村風土記』には「山寺之古跡」という伝承地の記載がある。内容から殿坂口遺跡に関する記録と推定され、近世末期から明治初期ごろの当遺跡の様子を詳細に記載している。立地の環境に関する記載は現状とはほぼ一致し、上塙に位置する本坊・屋敷跡伝承地の「山寺」と末寺・坊舎伝承地の「下モ坊」の存在を伝えている。山寺は宗派・寺号・寺院名が不明で現地には石の墓台座や石の水鉢が存在し、裏の山根に神名不明の社と五輪塔の石が多く存在していると伝えている。						
遺構	—						
遺物	須恵器、青磁、瀬戸美濃産陶器、珠洲焼						
有形文化財等	—						
参考文献	神岡町1980『神岡町史』資料編・別巻、佐伯哲也 2018『飛騨中世城郭図面集』、飛騨市教育委員会2020『江馬氏城館跡7・江馬氏殿遺跡』						
備考	飛騨市教育委員会2020は、街道から遺跡中心部に至る明確な道路設定や仏堂の配置が想定される整然とした複数の土壇の存在から、伝承や先行研究で推定されるとおりの山寺跡の様相を呈しているとする。						
	当遺跡を岩ヶ平城と結び付けて寺院城郭とする説もあるが、両遺跡の間には比高差100mの急峻な斜面が存在し、遺跡同士が隔絶された形になっている。また殿坂口遺跡の下限は採収遺物から15世紀前半と推定され、城郭の存在期間は16世紀のため両遺跡の存続期間が重ならず、それぞれ別の遺構であると考えられる。						

**調査所見** 高原川と支流の和佐保川の合流点付近の河岸段丘上に位置する。山寺跡の伝承が残る当遺跡は、鎌倉街道に接する交通の要衝である。遺跡には西側から上ることができ、接する畠地に向かう通路として利用されている。通路を上りきると広い平坦面群に至る。平坦面①②の間には盛土された幅約2mの通路状遺構があり、東に伸びている。通路状遺構の東側には一段高い土壇の区画③④があり、④は遺跡最奥に位置する。平坦面①②⑤は方形の区画が意識されているように見えるが、①の北側にある平坦面は不定形である。平坦面①②の西側斜面直下の通路脇に平坦面⑥⑦がある。⑥⑦は通路との取り付きから門やそれに類する小規模な建物等の施設が想定されている（飛騨市教育委員会2020）。なお、末寺・僧房伝承地である「下モ坊」は⑧の位置と推定されているが、開発によって遺構の確認はできない。



図 26 殿坂口遺跡 地形観察図

※飛騨市教育委員会2020をトース、加筆

地区	飛騨	寺院番号	17070	県遺跡番号	21217-151	分布図番号	C8
ふりがな	(すぎさきはいじあと)			所在地	飛騨市古川町		
寺院名 (史跡・遺跡名)	(杉崎廃寺跡)						
時代区分	古代(白鳳・奈良・平安)			宗派	不明		
立地	低地			現状(植生)	その他		
東西規模	133m	南北規模	112m	標高(比高差)	480(0)m	平祖面類	一
沿革	成立時期に関する記録はなく、当寺院跡に残る構造に対して地誌等では宮谷寺跡とし、『飛州志』では小島城主小島時光の菩提寺と紹介されていたため、発掘調査が行われるまでは、当寺院遺跡は中世の宮谷寺跡と考えられていた。古川町教育委員会及び飛騨市教育委員会により実施された発掘調査により、その出土遺物から、当寺の成立は7世紀末から8世紀初頭であり、その後8世紀末から9世紀初頭頃に火災によって焼失し、焼失後は一度も再建されることとなかったことが明らかになった。						
遺構	寺院跡(金堂、塔、中門、講堂、鐘楼、一本柱礎、僧房)、伽藍中枢部区画網、掘立柱建物、堅穴建物、炉跡						
遺物	土師器(壺、坏、高坏、鉢)、須恵器(淨瓶、水瓶、平瓶、手付瓶、獸足火舎、坏、碗、盤、高盤、鉢、鉄鉢、壺、円面硯)灰釉陶器(淨瓶、水瓶、碗)、瓦(丸瓦、平瓦、熨斗瓦)、木製品、郡符木簡						
有形文化財等	一						
参考文献	飛騨市教育委員会 2012『杉崎廃寺跡2』、飛騨市教育委員会 2019『飛騨市遺跡詳細分布調査報告書—古川町・神岡町一』、古川町教育委員会 1998『杉崎廃寺跡発掘調査報告書』						
備考	古川町教育委員会により平成3年度から7年度までに5次にわたる発掘調査が行われた。また、飛騨市教育委員会により平成14年度に発掘調査が行われた。						

**遺構の概要** 金堂、塔、中門、講堂、鐘楼、僧房の主要堂宇跡と伽藍中枢部を取り囲む一本柱礎、寺院に付属する雜舎の可能性がある掘立柱建物、堅穴建物が確認されている。伽藍配置は、南面する金堂の東に塔が並び、金堂の正面に中門、背後に講堂、伽藍中枢部の北東隅に鐘楼を配する。「伽藍の中軸に対してやや西に寄る金堂の南北軸線上に中門と講堂を置くなど、全体として変則的な伽藍配置」(古川町教育委員会 1998)をとり、その面積は全国的にも最小規模であることが明らかとなった。また、伽藍内部には玉石が敷き詰められており、全国初の発見となった。

**遺物の概要** 伽藍中枢部からは淨瓶、水瓶、獸足火舎、鉄鉢、高盤などの供養具、丸瓦、平瓦、熨斗瓦などの瓦類、坏、碗を主とする食膳具、それに建築部材を中心とする木製品などが出土した。供養具は講堂跡や鐘楼跡から、食膳具は講堂からまとめて出土した。食膳具の多くは灯明具に転用され、万灯会に使用された可能性が考えられる。瓦類は、金堂跡及び塔跡付近からのみ出土し、他の建物の屋根材は伽藍西側の排水溝から多量の檜皮が出土していることから檜皮葺きであったと考えられている。また、僧房跡からは「寺」「井」「見寺」「寺見」「田倉」「寺垣立」などの墨書き土器が見つかっている。伽藍西側の排水施設からは木簡が発見されており、「符 鮑口(見カ)」と記載がある。これは『和名抄』にみえる荒城郡7郷の一つ「鮑見郷」を指すと考えられ、郡から郷への下達文である郡符木簡であると推察されている。

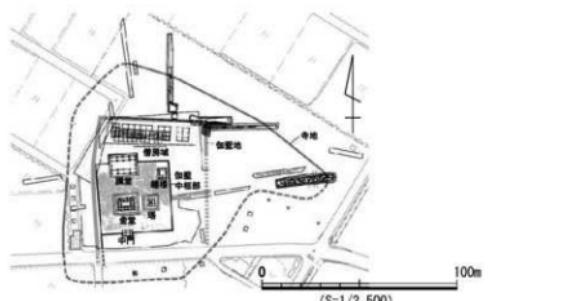


図27 杉崎庵寺跡 全体図

佐賀縣市教育委員会2012を改編

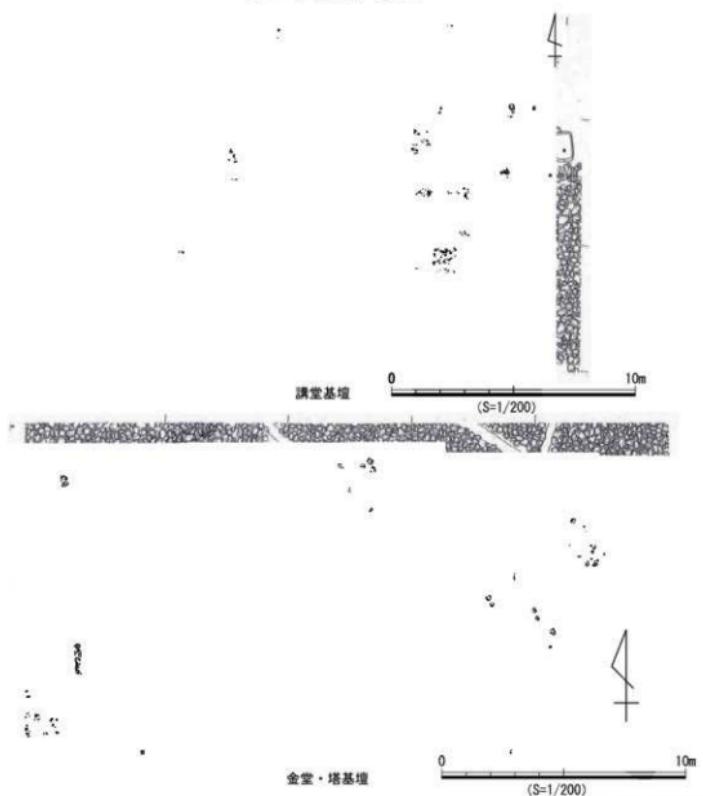


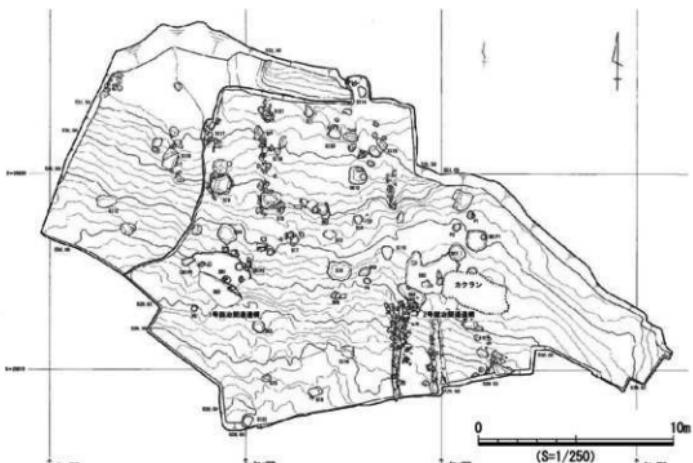
図28 杉崎庵寺跡 主要遺構図

佐賀川町教育委員会1998を改編

地区	飛騨	寺院番号	17071	県遺跡番号	21217-6522	分布図番号	D8
ふりがな	(にしがほらはいじあと)			所在地	飛騨市古川町寺地西ヶ洞		
寺院名 (史跡・遺跡名)	(西ヶ洞廃寺跡)						
時代区分	古代(平安)			宗派		不明	
立地	山腹			現状(植生)		畑地	
東西規模	33m	南北規模	21m	標高(比高差)	533(8)m	平坦面面類	不明
沿革	成立時期及び沿革は不明である。発掘調査で発見された遺構及び遺物から、古代寺院が所在すると考えられている。						
遺構	建物礎石、鍛冶関連遺構、土坑						
遺物	土師器(甕、製塙土器)、須恵器(無台碗、有台碗、有台盤、短頸壺、壺、香炉)、灰釉陶器(楕、皿、段皿、耳皿、水瓶、短頸壺)、金属製品(箸、刀子、鉄津)、石製品(砥石、鉄床石)、弥生土器、石器(打製石斧、磨石類、剥片)						
有形文化財等	一						
参考文献	財團法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2006『西ヶ洞廃寺跡・中野山越遺跡・中野大洞平遺跡・大洞平5号古墳』、飛騨市教育委員会2019『飛騨市遺跡詳細分布調査報告—古川町・神岡町一』						
備考	岐阜県文化財保護センターが平成14年度に発掘調査を行った。「十能寺」と線刻のある須恵器により、古代の寺院名が判明した。遺跡の周辺には同時代の集落跡・散布地が無く、寺院が修行の場所として機能していたことを示す例と考えられる。						

**遺構の概要** 発掘調査で2基の鍛冶関連遺構と建物礎石を検出した。礎石は、大型建物礎石3基、建物礎石13基を検出し、少なくとも2棟の礎石建物があったと考えられる。大型建物礎石(SI18～SI10)は、根石と思われる人頭大の礎の上に巨石を置く。具体的な建物の復原には至らなかったが、礎石の大きさから推定して寺院の中核をなす建物の礎石であると考えられ、建物礎石(SI1～7、SI12～22)はその周間に付属する施設と考えられる。鍛冶関連遺構は建物礎石に隣接した位置にある。鍛冶関連遺構出土の土器と、寺院跡に伴う土器との間には明確な時期差はみられない。一方で、1号鍛冶関連遺構は建物礎石の南側に位置し、南面する建物正面に位置するが、鍛冶関連遺構が寺院の堂宇の可能性がある建物礎石と同時に存在したとは考えにくい。このことから、鍛冶関連遺構は寺院建立時の釘や工具等の金属製品の製作を行った遺構であり、寺院造営後に廃絶したと考えられる。

**遺物の概要** 土師器、須恵器、灰釉陶器、綠釉陶器、陶磁器類が出土し、特に遺物包含層から多くの遺物が出土した。灰釉陶器は猿投編年の黒雀90号窯式期～折戸53号窯式期に位置付けられ、非常に丁寧な作りのものも見受けられる。須恵器は有台盤や香炉など仏器的な器種が見受けられ、これらから灰釉陶器や須恵器は寺院に伴う土器類と考えられる。灰釉陶器の年代観から、寺院の創建年代は9世紀末から10世紀前葉と考えられる。近隣の個人蔵の遺物の中に「十能寺」と線刻された須恵器碗が確認されており、西ヶ洞廃寺跡の寺名は「十能寺」であったと考えられる。これらの遺物は、遺跡内で採集されたものであり、須恵器及び灰釉陶器が100点近くある。瓦の出土がなく、建物は瓦葺ではなく檜皮葺であったと考えられる。さらに、建物礎石周辺で焼土や鉄釘が見つかっておらず、当寺院は火災ではなく移転によって廃絶したことがわかる。



※財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2006を加工  
図29 西ヶ洞廃寺跡 全体図

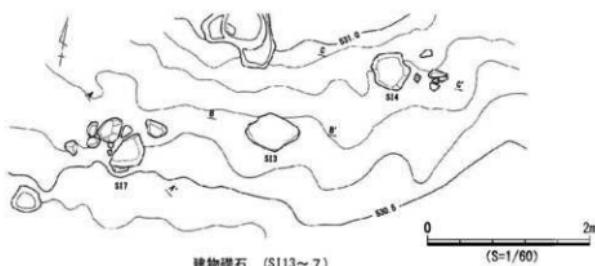
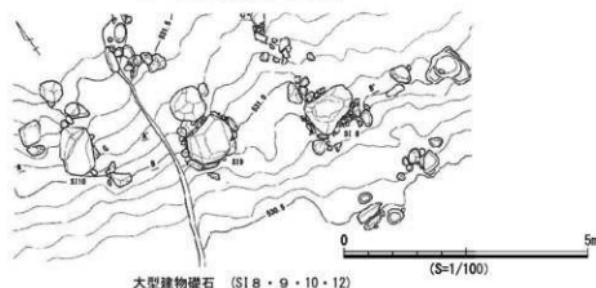


図30 西ヶ洞廃寺跡 主要遺構図

※財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2006を加工

## [下呂市]

地区	飛騨	寺院番号	200206	県遺跡番号	—	分布図番号	88
ふりがな	りんせんじきゅうけいだい			所在地	下呂市金山町菅田		
寺院名 (史跡・遺跡名)	林泉寺旧境内						
時代区分	中世			宗派	真言宗→臨済宗		
立地	尾根			現状(植生)	境内地・山林(スギ・ヒノキ)		
東西規模	80m	南北規模	300m	標高(比高差)	340(65)m	平坦面面積	D
沿革	鎌倉時代頃から菅田大谷戸に天神廟という神仏合体による大きな伽藍があり、慶長5(1600)年8月の戰火で焼失し、その後、貝洞字櫻ヶ井に建てられたと伝えられる。この貝洞にできた寺は初め真言宗で広沢山大泉寺といったが、寛永4(1627)年に美濃加茂市蜂屋の瑞林寺7世伝宗長老が隠居所として入寺し、臨済宗に改宗し広沢山福原寺と称した。以来4代68年間を経て、貞享元(1684)年に4世惠基が現在地へ移転し、瑞応山林泉寺に改め開山となった。当初は下之保村(武儀町)天正寺の末寺であったが、貞享5(1688)年に蜂屋瑞林寺の末寺となった。さらに文政4(1821)年に寺社奉行の直達となり、元治元(1864)年に大本山妙心寺末寺となり現在に及んでいる。						
遺構	—						
遺物	五輪塔						
有形文化財等	—						
参考文献	金山町誌編纂委員会 1975『金山町誌』						
備考	—						

**調査所見** 現在の天神廟本殿が建つ尾根中腹は、平坦面が広く、林泉寺旧境内の中心施設(本堂跡等)はこの付近に建っていたと考えられる。尾根の西側斜面は急峻で遺構はない。東側斜面には、傾斜が緩やかになっている箇所があり、そこで五輪塔の部材2点を確認した。湧水点からの水が流れる谷があり、谷には落差のある箇所がある。旧境内における平坦面は地形の影響もあり、天神廟本殿付近と五輪塔の部材を確認した付近の限られた範囲である。参道は、山裾に向かって尾根上に南へ一直線に伸びている。

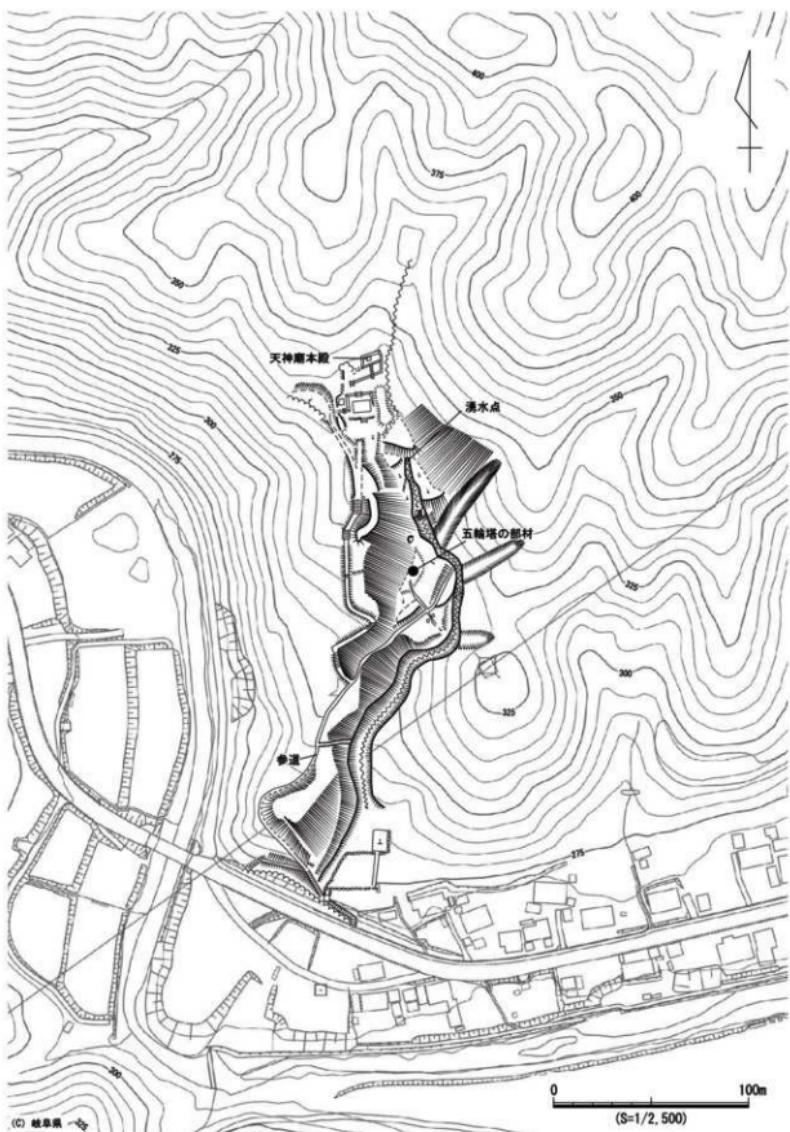


図31 林泉寺旧境内 地形観察図

地区	飛騨	寺院番号	20023	県遺跡番号	一	分布図番号	J8			
ふりがな	ようちゅうざんぎょくりゅうじ			所在地	下呂市金山町中切					
寺院名 (史跡・遺跡名)	要仲山玉龍寺									
時代区分	古代~		宗派	宗派不明→臨済宗						
立地	段丘		現状(植生)	境内地・山林(スギ・ヒノキ)						
東西規模	170m	南北規模	200m	標高(比高差)	280(30)m	平坦面面類	A+D			
沿革	寺伝によると、行基が諸国を遍歴してこの地に来た時、国家鎮護のため薬師如来の尊像を彫刻して社龕伽藍を建立、名付けて医王山東光寺という。年を経て荒廃していたが、正治年間(1199~1201)に慈覚大師作の般若像が龕によって運ばれてくるという奇端をきっかけに寺号を龍宝山金剛寺と改め、室町時代には景堂源訥を請じて開山とし、臨済宗妙心寺派に転宗した。その後、再び衰退に及んだが天正年間(1573~1592)に金森長近が再興して現在の寺号に改めた。宝暦9(1759)年、火災で堂宇を悉く焼失、宝暦11(1761)年に復造・完成。									
遺構	一									
遺物	銘石 3,300 個以上(天和 2(1682)年に建立された鐘楼の下から出土)									
有形文化財等	来迎軋迦如来木造(市指定、鎌倉)、旭日富士山之繪(市指定、室町)、太公望の図(市指定、室町)									
参考文献	金山町誌編纂委員会 1975『金山町誌』、岐阜県文化財保護センター2014『下切遺跡』									
備考	平成 20 年度に当センターが発掘調査を実施した下切遺跡では、中世の四面庇建物(SB6)を確認しており、玉龍寺住職から下寺の「宗授院」の可能性があると御教示いただいた。									

**調査所見** 飛騨川西側の河岸段丘上に立地する。本堂をはじめとする現存の建物は、宝暦 9(1759)年の火災以降に建てられたものである。本堂の裏には歴代住職の墓地がある。住職の墓石に刻まれた年号は江戸時代以降であり、本堂の南西部に広がる墓地の墓石についても近代以降のものであった。

寺が所有する宝暦 10(1760)年の史料には下寺として玉龍寺の北側(現在の常盤神社周辺)に福昌庵、南側に薬師堂が存在したことが記述されており、平坦面を複数確認できる。住職の話によると、これらの平坦面は中世に遡る可能性があるという。

住職から福昌庵が存在したと御教示いただいた付近には、石垣を伴う平坦面を 3 面(①)確認することができた。平坦面は常盤神社の参道に接し、その北側に墓地を確認したが、中世に遡る遺物や石塔類は確認することができなかった。また、福昌庵の跡地と推定される平坦面の東側には石垣を伴った平坦面を 2 面確認した。さらに、神社の参道と道路の境には玉龍寺の塔頭に由来を持つとされる祠(②)も確認することができた。

住職から薬師堂が存在したと御教示いただいた付近には、北西部に石垣と石段を伴った細長い平坦面(③)があり、赤い祠が祀られているが、これらは近年作られたものようである。その東側には墓地があるが、時期を特定することができなかった。なお、墓地の南側にも石垣を伴った平坦面群が広がっている。

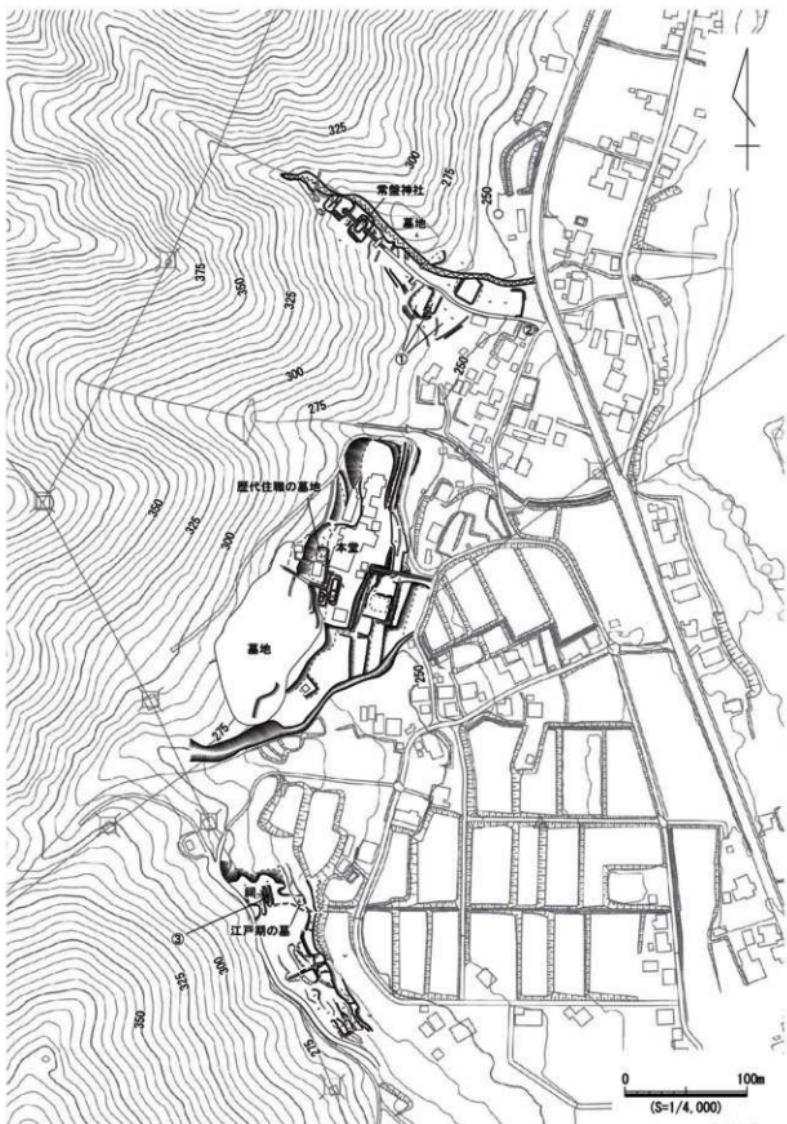


図32 要仲山玉龍寺 地形観察図(1)



図33 妻仲山玉龍寺 地形観察図（2）

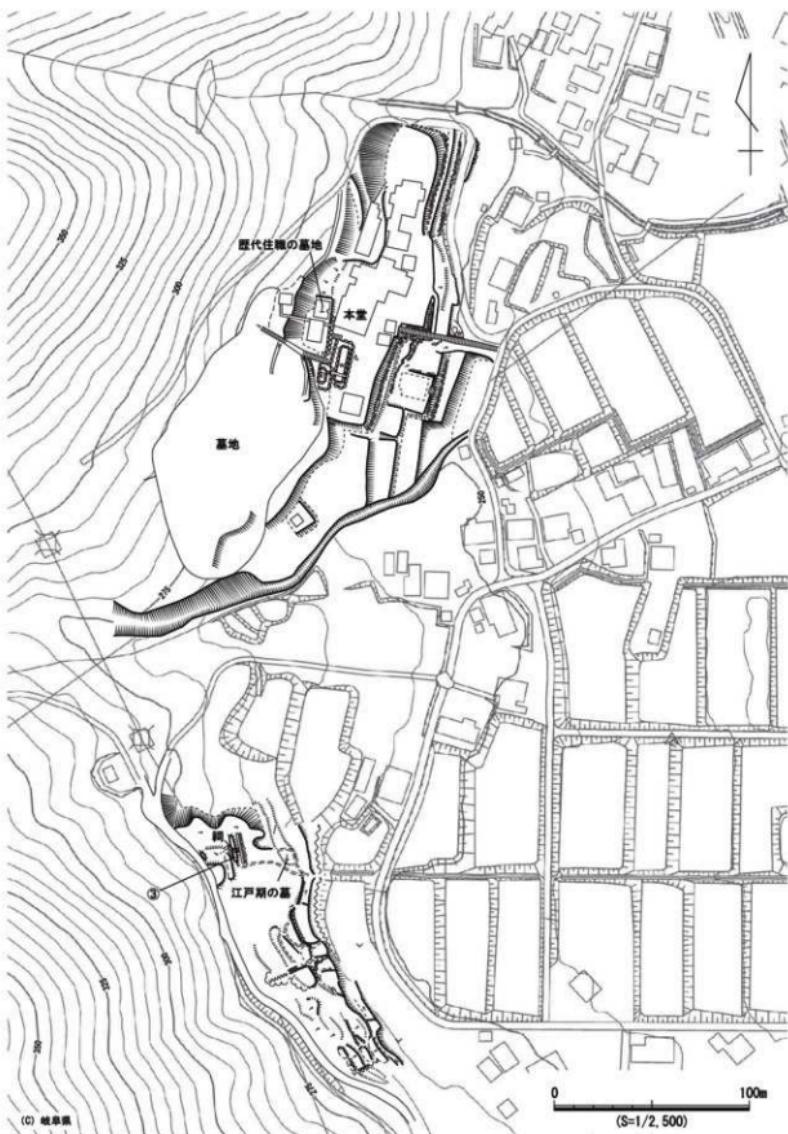


図34 要仲山玉龍寺 地形観察図（3）

地区	飛騨	寺院番号	20024b	県遺跡番号	一	分布図番号	19
ふりがな		あみだじきゅうけいだい		所在地		下呂市御厨野	
寺院名 (史跡・遺跡名)		阿弥陀寺旧境内					
時代区分		中世		宗派		天台宗→臨済宗	
立地		山麓		現状(植生)		その他	
東西規模	36m	南北規模	35m	標高(比高差)	600 (7) m	平坦面面類	E
沿革		成立時期は不明である。『岐阜県益田都誌』には往古の大成徳寺の末、西の坊の旧地であり、天正年間（1573～1592）廢寺となつたが、慶長年間（1596～1615）、禪昌寺5世功叔宗輔が再建して、寺号を巖谷山阿弥陀寺に改めたとある。					
遺構	石積み						
遺物	—						
有形文化財等	—						
参考文献	岐阜県益田郡役所 1916『岐阜県益田都誌』						
備考	大成徳寺保存会によると、阿弥陀寺旧境内は大成徳寺の「西の坊」跡地であり、ここに残る石積みは、江戸時代初期あるいはもう少し前の時期に、高山から石工集団が来て、石積みを作ったという言い伝えがある。また、阿弥陀寺にある最も古い過去帳に「宗松禪定門 南惣左衛門 元和元（1615）年正月式拾九日」の記載がある。この南家には大成徳寺へ野菜を納めた時にもらった茶釜があったという話が伝わっている。この茶釜には馬の手綱をとる馬子が彫かれた地紋があったといわれている。これから想像すると、西の坊は大成徳寺への食糧供給の任を負っていたのかもしれない。「米付け平」が説いたのであろうといわれる「米鶴平」という地名も大成徳寺の御厨野側に存在したという。						

**調査所見** 平坦面は、幅15m×奥行10m程の広さである。この平坦面は南西の大成徳寺方向を向いており、中央南側に成立時期不明の庚申堂が建っている。この庚申堂は、平坦面の向きとは別に、真北を向く。平坦面上には礎石に相応する大きさや形の石が複数残っていて規則正しく並べられているが、土地所有者によると現代になって地元住民が移動したものであるという。平坦面西側の道路は整備されているが、石積み墨線の切れ目が見られることから、入口は西側にあったと考えられる。

この平坦面に伴う石積みを観察すると、南西部は大きな石材を積み上げている一方で、南東部にはそれほど大きな石材を積み上げていないこと、場所によって積み方に差があることなどから、改修されている可能性がある。



図35 阿弥陀寺旧境内 地形観察図

地区	飛驒	寺院番号	20035	県遺跡番号	21220-1077	分布図番号	19
ふりがな	ほうじびざんだいいとくじ（だいといとくじあと）	所在地	下呂市御郷野				
寺院名 (史跡・遺跡名)	鳳慈尾山大威德寺 (大威德寺跡)						
時代区分	中世（鎌倉）～近世		宗派	天台宗			
立地	丘陵		現状(植生)	山林（スギ・ヒノキ・アカマツ）			
東西規模	350m	南北規模	500m	標高(比高差)	750m (50m)	平坦面分類	A+C1 +D
沿革	成立は鎌倉時代、源頼朝の命により文覺上人（一説には永雅上人）が寺院建立地を求め諸国を巡っていたところ、この地を訪れた。すると山中にあった池が鳴動し、大きな龍が現れた。その龍に真の姿を現すように祈念したところ、牛に乗った小童の姿（大威徳明王）となった。その報告を聞いた頼朝がこの地に大威徳寺を建立し、大威徳明王を安置したという。廃絶については、弘治2（1556）年に飛驒三木氏と苗木遠山氏との間で起った「威徳寺合戦」で堂塔の多くを焼失、さらに天文13（1585）年の「飛驒大震災」で壊滅したと伝えられる。しかし、『飛驒国中案内』や高山市宗憲寺に伝わる古文書などによると、江戸時代の初頭頃までは細々と法灯が伝えられていたようである。						
遺構	礎石建物跡、基壇状遺構、石積み、石列、石段、排水溝、築地盤基礎、中世墓						
遺物	土師器、灰釉陶器、山茶碗、中近世陶磁器、中国製青磁・白磁、金属製品、石臼						
有形文化財等	阿弥陀寺所蔵の大威徳寺跡出土額表音菩薩坐像（市指定、平安～鎌倉）						
参考文献	下呂市教育委員会 2007『岐阜県指定史跡鳳慈尾山大威徳寺跡平成15～18年度範囲確認調査報告書』、下呂市教育委員会 2011『岐阜県指定史跡鳳慈尾山大威徳寺跡平成19年度～20年度範囲確認調査報告書』、下呂市教育委員会 2018『下呂市遺跡詳細分布調査報告書』						
備考	昭和34年に県史跡に指定されている。また、下呂市教育委員会により平成15～18年度に範囲確認調査、平成19～20年度に中世墓の調査が行われた。調査では灰釉陶器の瓶と段皿が採集されており、大威徳寺の前身寺院が存在した可能性もある。						

**調査所見** 飛驒・美濃・信濃の国境近く、標高1402mの押殿山の南西に伸びる丘陵の先端に緩やかな斜面があり、その周辺に遺構が展開する。丘陵の中心部に本堂跡等の中心施設を設け、南の山門から山裾に向かって尾根上に参道が伸びる。寺院跡の北に中世墓群が確認されている墓域がある。本堂跡北西に湧水地点があり、本堂東に隣接する池に流れる。

下呂市教育委員会2007によると、『経文末書』に丈間五間四方と伝わる本堂跡には渡り廊下でつながる本堂西壁物跡が確認されており、本堂跡東側の標高750mの地点には、礎石を伴う拝殿跡・鎮守跡があり大威徳寺の中の「神社信仰の場」であったと指摘されている。『経文末書』には本堂をはじめ七堂十二坊を有するとあるので、本堂周辺にも堂跡が広がると考えられる。本堂跡がある丘陵の西側に、幅の狭い地形の湾曲に沿った平坦面が2～3段の階段状に築かれている。このあたりが坊院跡と考えられる。確認できた参道は南から山門跡に至るもの、東斜面から本堂跡付近に至るもの、西斜面から本堂跡付近に至るもの、西斜面から本堂跡裏に至るもの4本を確認した。全般に遺構の残存状況が良い。



図36 凰慈尾山大威德寺（大威德寺跡）地形観察図

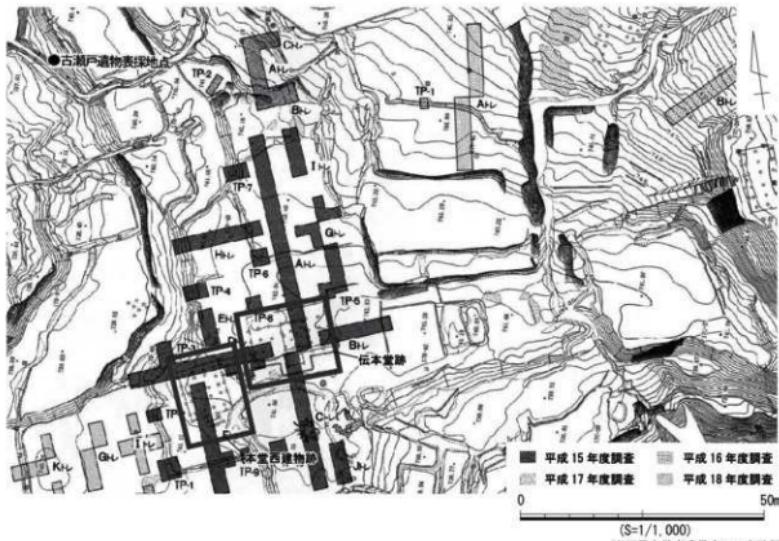
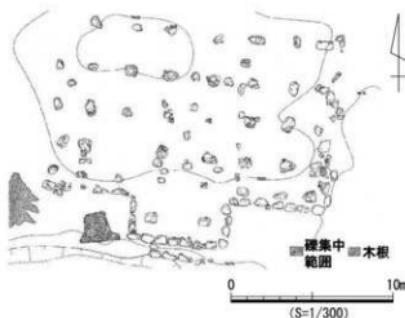


図37 大成寺跡 トレンチ設定図

※下呂市教育委員会2007を改編



本堂西建物跡平面図



伝本堂跡平面図

※下呂市教育委員会2007を改編

図38 大成寺跡 主要遺構図

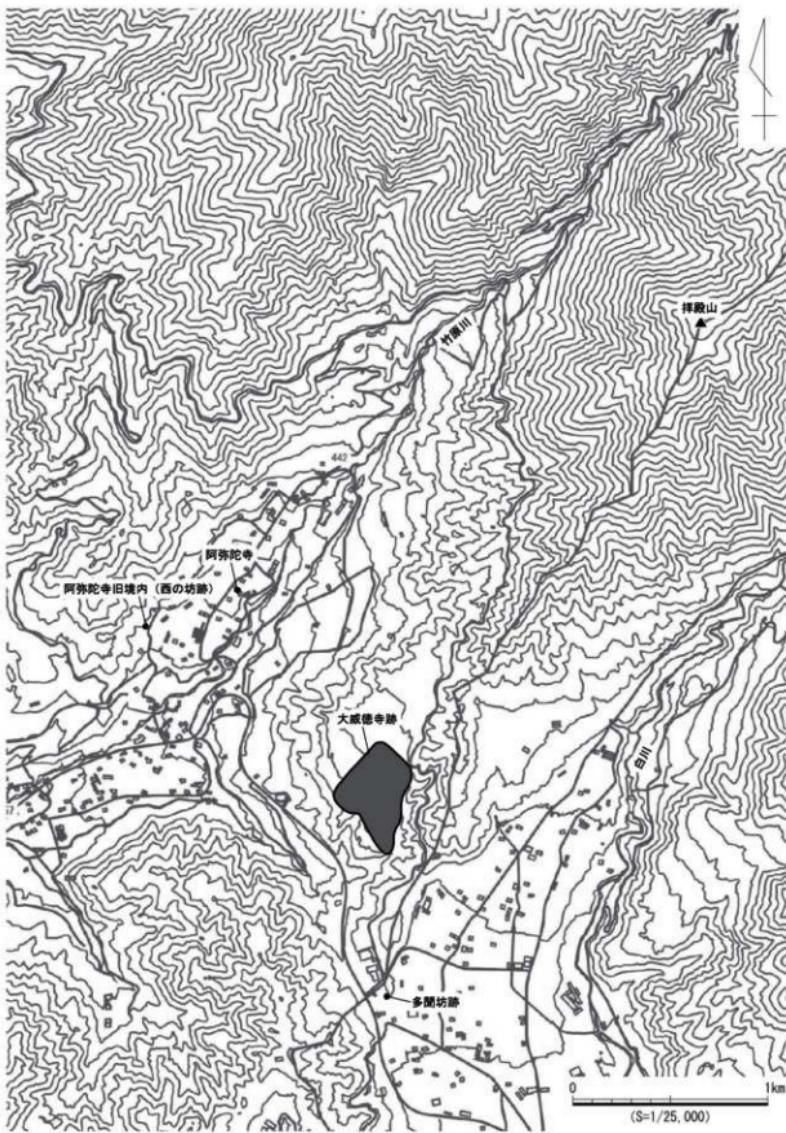


図39 大威德寺跡 関連位置図

## [白川村]

地区	飛騨	寺院番号	42002b	県遺跡番号	一	分布図番号	B5
ふりがな	れんこうじきゅうけいだい			所在地	大野郡白川村小白川		
寺院名 (史跡・遺跡名)	蓮光寺旧境内						
時代区分	中世			宗派	天台宗→真宗		
立地	山麓			現状(植生)	境内地・水田		
東西規模	150m	南北規模	300m	標高(比高差)	380(20)m	平坦面面類	不明
沿革	集落の伝承によると、元は天台宗で浄土真宗に転宗したとされる。成立時期及び沿革には諸説ある。白川村 1988 では延享 2 (1745) 年に当住淨智本寺より寺号を得て、延享 3 (1746) 年元道場甚六が創立とある一方で、同じ白川村 1988 の年表中には明応 3 (1494) 年 1 月に蓮光寺建つと記されている。また、白川村教育委員会 2004 では、『飛騨国中案内』に「内軒同場照蓮寺末ニテ甚吉ト云ウ。近年蓮光寺ト改ム、高ハ村高ノ内ニ入り比屋敷一反二十四歩、開基ハ応永五年寅年ナリ」と述べられていること、『飛州志』には「本尊裡書日方便法身尊形大谷本願寺積実在如判明応三庚戌年正月十八日飛騨白川善俊門徒、飛騨國白川郷荻町顕主口口」と述べられていることが記されている。						
遺構	土壘、石積み						
遺物	—						
有形文化財等	—						
参考文献	白川村 1968 『白川村史』全、白川村 1988 『新編白川村史』下巻、白川村教育委員会 2004 『なあもなあも白川郷ゆかりの寺院』						
備考	伝承によると、蓮光寺北方の国境の最先端に位置した山腹の平地に「中坊作」又は「中防作」、「高坊作」又は「高防作」、山頂に「城ノカ」、南へ向かうと「寺跡」「宮跡」からほど近い「打越峠」、蓮光寺から南方には「天翫峰」、「八若山」、「牛首」、「オゾウノ山（法仙山）」、「千度の尾」、「地藏峠」、「仙人岩屋」、「仙人窟岳」という地名があり、白山巡駿若しくはその行者道のように山岳信仰との関連が推察される。						

**調査所見** 伝承によると、蓮光寺の裏の一段上がった所に、天台宗の頃の寺院と推察される「寺跡」、「宮跡」の地名がある。寺跡は現境内から南西に上った畠の山麓にある。宮跡は、蓮光寺の裏から延びる峠道を進み次の段丘上に位置する。段丘状の山麓に平坦面や湧水、石積み、土壘などを確認した。

「寺跡」には集落には少ない湧き水があると伝えられているが、平坦面の山際の下の藪の中に、わずかに水が溜まっている箇所を確認した。また、蓮光寺現境内裏から寺跡の下に続く参道と思われる道を確認した。

「宮跡」は寺跡の 50m 北にあるとされ、畠や笹が生い茂る藪の辺りと推定される。宮跡の東側には北に伸びる 2 条の土壘と部分的に円礎等の石積みがあり、土壘のうち西側の 1 条は 2 か所の切れ目があり、西側に湾曲して山の斜面に接続する。土壘の北側は緩やかに下る平坦面があり、その先には谷筋の水路に沿って下る小道があるが、麓への道は現代の擁壁工事により不明である。

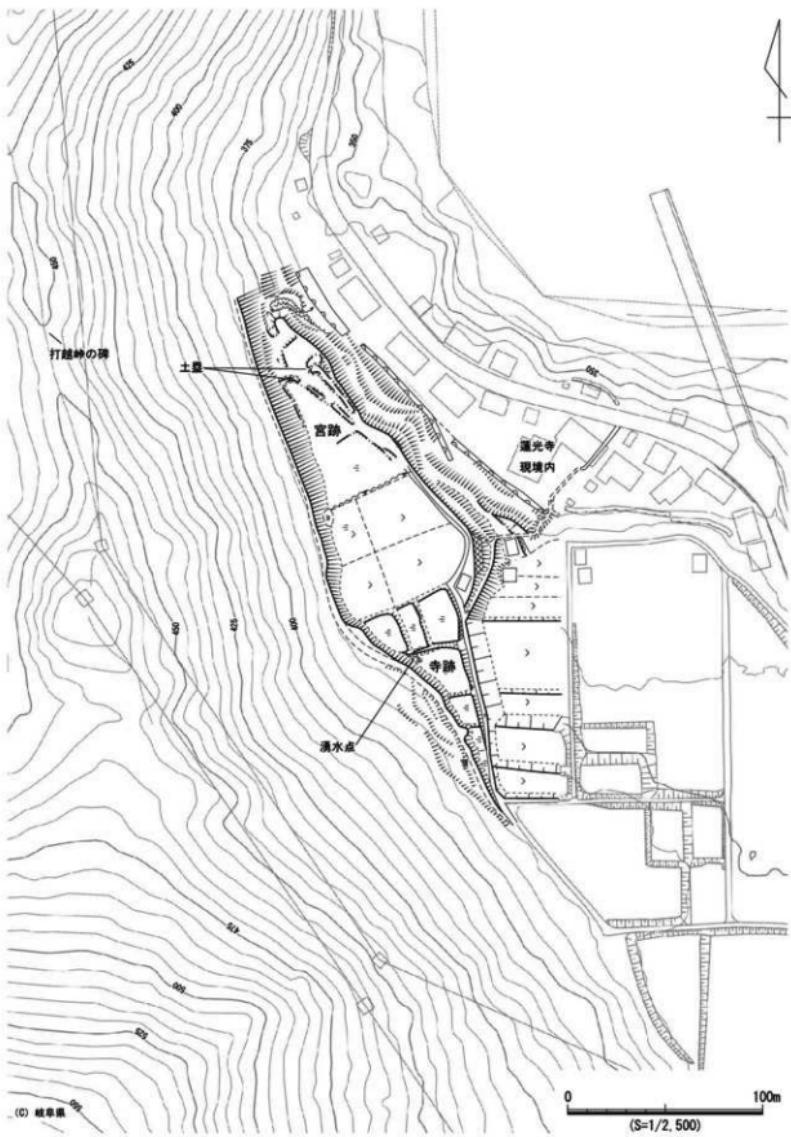


図40 蓮光寺旧境内 地形観察図

地区	飛騨	寺院番号	42010	県遺跡番号	一	分布図番号	C5
ふりがな	かづらさんれんじゅじ（れんじゅじけいだいあと）			所在地		大野郡白川村加須良	
寺院名 (史跡・遺跡名)	加須良山蓮受寺 (蓮受寺境内跡)						
時代区分		中世		宗派		真宗	
立地		山麓		現状(植生)		山林	
東西規模	60m	南北規模	130m	標高(比高差)	540(0)m	平坦面面積	E
沿革	文亀3(1503)年に成立、明道が開基。宝曆10(1760)年、当住本寺より寺号免許を受ける。昭和43(1968)年、離村に伴い寺は愛知県春日井市に移り、本堂は富山県南砺市の教了寺に移築された。						
遺構	石積み、基壇、礎石、池						
遺物	—						
有形文化財等	—						
参考文献	岩波書店編集部 1953『飛騨・高山』岩波写真文庫 106、白川村 1968『白川村史』全、白川村 1988『新編白川村史』下巻、白川村教育委員会 2004『なもなあも白川郷ゆかりの寺院』						
備考	—						

**調査所見** 本堂跡南側には礎石と思われる平石が3石残り、東西方向に約1m間隔で並んでいる。本堂跡のある平坦面の北側及び西側には石積みがあり奥の山側が一段高くなっている。南西側には池と思われる壅みがあり、地区内を通る石積みの水路から水が流れ込んでいたと考えられる。本堂跡の北側には石碑、地蔵堂がある。石碑には「大正五年九月建立加州尾山御坊慶恩寺開基慶心坊之坊願主十六世順賢」とある。地蔵堂は地蔵・祠堂とともに現代に作られたものと思われる。境内地最北にはカツラの木があり、その手前から北西の山側に向かって富山県旧桂村に通じていた旧生活道路が通る。戦後撮影された加須良地区の全景写真（岩波書店編集部 1953）では、蓮受寺の門前に本堂に並行した道がこの旧生活道路に繋がる形で走っており、その先の集落内では屈曲もみられるなど、現況の新設された舗装道路とは大きく異なっている。境内跡南西山側の石積みのある所から上がった平坦面には石組の基壇があり、脇には墓碑の石材が集積しており墓跡と思われる。境内跡平坦面の南辺には東西方に溝と垣根跡があるため、ここまでが寺域と考えられる。

境内跡から南側の集落域と考えらえる平坦面には、宅地や田畠、墓地があったと考えられる。集落の中央を南北に走る舗装道路の西に広がった平坦面には、山の斜面下の平坦面との境に石積みの水路が南北に伸び、東西にも水路が2本伸びる。倉庫の西側一段高い平坦面から西に上がる石段の先には平坦面がある。平坦面には北側に石積み、南側に石材が集積され、墓跡と思われる。

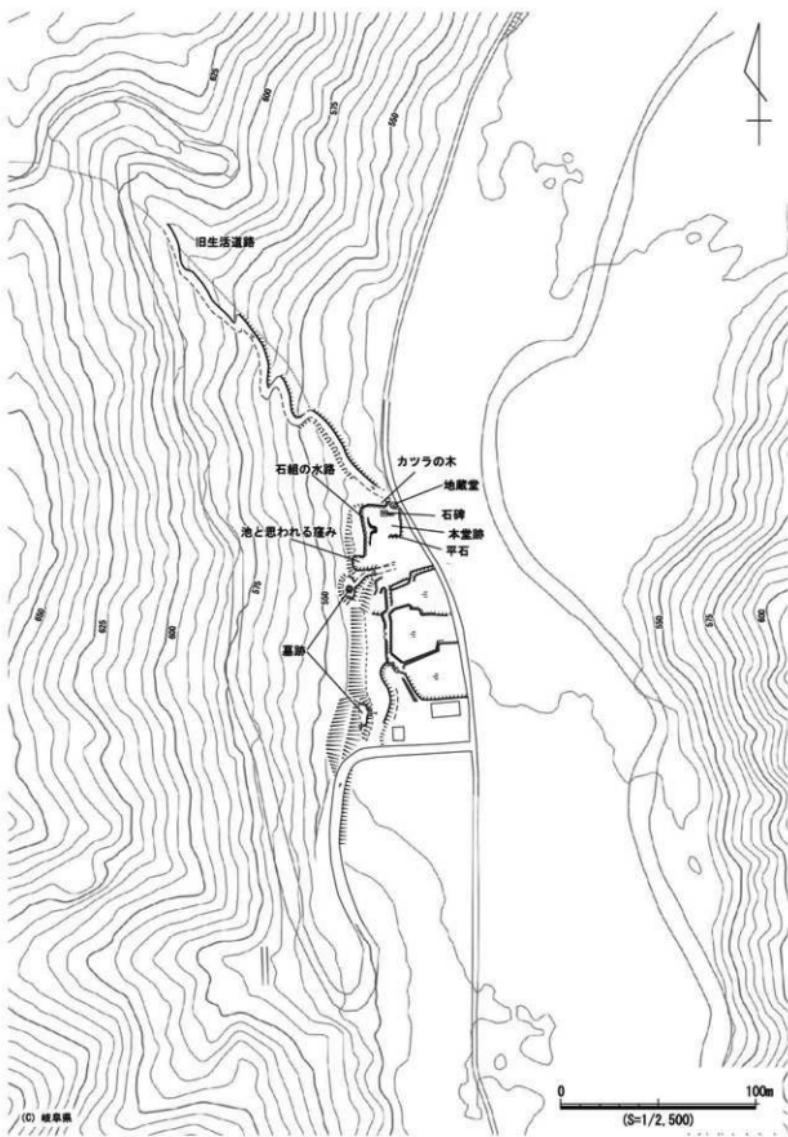


図41 加須良山蓮受寺（蓮受寺境内跡）地形観察図

## 飛騨圏域参考文献

- 朝日村 1956『朝日村誌 全』
- 朝日村 1997『朝日村史第1巻』
- 岩波書店編集部 1953『飛騨・高山』岩波写真文庫 106
- 岡村利平 1969『飛騨編年史要』
- 大下永 2018「飛騨における中世山寺の空間構造について」『斐太記』平成30年秋季号通巻第20号、  
飛騨学の会
- 大下永 2019「飛騨における中世山寺の立地と景観」『日本遺産関連事業 in 飛騨国府 古代史講演会資  
料』
- 大野郡白川村史編纂委員会 1968『白川村史』全
- 金山町誌編纂委員会 1975『金山町誌』
- 上枝村史編纂委員会 2000『上枝村史』
- 神岡町 1980『神岡町史』史料編・別巻
- 神岡町教育委員会 1995『ふるさと「神岡」探検マップ』
- 上宝村 2005『上宝村史』上巻
- 上宝村 2005『上宝村史』下巻
- 河合村役場 1990『飛騨河合村誌』通史編 全
- 清見村 1976『清見村史』上巻
- 清見村 1976『清見村史』下巻
- 清見村 1986『きよみ風土記』
- 岐阜県小坂町誌 1965『小坂町誌編集委員会』
- 岐阜県教育委員会 2005『岐阜県中世城館跡総合調査』第4集（飛騨地区・補遺）
- 岐阜県文化財保護センター 2011『三枝城跡』
- 岐阜県文化財保護センター 2014『下切遺跡』
- 岐阜県文化財保護センター 2021『上切寺尾古墳群・日焼遺跡』
- 岐阜県益田郡役所 1916『益田郡誌』
- 久々野町『久々野町史』第1巻 考古・古代・中近世
- 熊崎善親 1958『飛騨国神社編年史』
- 下呂市教育委員会 2007『岐阜県指定史跡鳳慈尾山大威徳寺跡平成15~18年度範囲確認調査報告書』
- 下呂市教育委員会 2011『岐阜県指定史跡鳳慈尾山大威徳寺跡平成19年度~20年度範囲確認調査報告  
書』
- 下呂市教育委員会 2018『下呂市遺跡詳細分布調査報告書』
- 下呂町誌編纂委員会 1954『下呂町誌』
- 国府町教育委員会 2005『石橋廃寺調査報告書』
- 国府町史刊行委員会 2007『国府町史』考古・指定文化財編
- 国府町史刊行委員会 2008『国府町史』通史編I・史料編I

- 国府町教育委員会 1972『国府町の文化財』
- 後藤新三郎 1983『江戸時代の飛騨史』
- 佐伯哲也 2018『飛騨中世城郭図面集』、桂書房
- 財団法人岐阜県文化財保護センター2002『太江遺跡・寿楽寺廃寺跡』第74集
- 財団法人岐阜県文化財保護センター2005『太江遺跡II』第94集
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2006『西ヶ洞廃寺跡・中野山越遺跡・中野大洞平遺跡・大洞平5号古墳』
- 莊川村 1975『莊川村史 上巻』
- 白川村 1968『白川村史』全
- 白川村史編さん委員会 1988『新編白川村史』上巻
- 白川村史編さん委員会 1988『新編白川村史』下巻
- 白川村教育委員会 2004『白川郷ゆかりの寺院』
- 白川村教育委員会 2004『なあもなあも白川郷ゆかりの寺院』
- 重要文化財国分寺本堂修理工事委員会 1950『飛騨国分寺本堂』
- 重要文化財薬師堂修理委員会 1975『重要文化財薬師堂修理報告書』
- 杉崎廃寺跡発掘調査団 1998『杉崎廃寺跡発掘調査報告書』
- 瀬ノ上市郎右衛門 1971『大八賀村史』
- 高根村 1984『高根村史』
- 高山市 1952『高山市史』上巻
- 高山市 1953『高山市史』下巻
- 高山市教育委員会 1990『飛騨国分尼寺跡発掘調査報告書』
- 高山市教育委員会 1995『岐阜県高山市遺跡地図』
- 高山市教育委員会 2003『三仏寺廃寺発掘調査報告書』
- 高山市教育委員会 2005『高山市内遺跡発掘調査報告書』
- 高山市教育委員会 2016『高山市史』先史時代から古代編（下）
- 高山市千島町 1994『千島町誌』
- 丹生川村 2000『丹生川村史 通史編一』
- 濃飛展望社 1977『飛騨寺院風土記』
- 萩原町史編纂室 2002『萩原町史』第1巻・自然先史中世古代編
- 八賀晋 1992「飛騨の古墳と寺々」『特別展 飛騨のあけぼの 展示図録』、岐阜県博物館
- 八賀晋 2001「「飛騨国伽藍」について』『美濃・飛騨の古墳とその社会』同成社
- 飛騨市総務部古川町史編纂室編 2010『古川町歴史探訪』
- 飛騨市 2015『飛騨古川 歴史をみつめて』
- 飛騨市教育委員会 2008『神岡町史』通史編II
- 飛騨市教育委員会 2009『神岡町史』通史編I
- 飛騨市教育委員会 2012『杉崎廃寺跡2』
- 飛騨市教育委員会 2019『飛騨市遺跡詳細分布調査報告—古川町・神岡町一』

飛騨市教育委員会 2020『江馬氏城館跡7・江馬氏殿遺跡』

古川町教育委員会 1998『杉崎廃寺跡発掘調査報告書』

宮川村誌編集委員会 1981『宮川村誌 通史編 上』

宮村 1968『宮村史』全

宮村 1990『宮村のむかし話』

宮村 2003『新版宮村遺跡地図』

宮村 2004『宮村史』通史編一巻

吉城郡国府村 1928『国府村紀要』

吉城郡国府村役場 1959『国府村史』全

森下町誌刊行会 1986『高山市森下町誌』